

そこで、その電報が発信された。

ニューヨーク州オイスター灣

ルーズヴェルト大統領

八月ノ蒸氣シャベル、浚渫船ニヨル運河三稜形ヨリノ掘鑿土砂量一、二七四、四〇四立方ヤード、……コレハ從來ノアラユル合衆國ノ記録ヲ突破ス、運河ブリズム從來ノ最大量ハ七月ノ一、〇五八、七七六立方ヤード、降雨量一・八九インチ」ゴータルス

ニューヨーク州オイスター灣

一九〇七年九月五日

キユレブラ、ゴータルス

予ハ貴下以下運河ノ全員ガ八月中ニアゲラレタル異數ノ成績ニ對シ衷心祝意ヲ表ス、八月ハ雨期ノ最盛期ナルヲモツテ、スデニ貴下ノ學ゲラレタル工事ノ大記録ヲ維持シ得ベシトハ一瞬モ豫想セザリシトコロ、貴下ガソレヲ突破セラレシコトハ予ノ驚愕カツ欣喜スルトコロナリ」セオドル・ルーズヴェルト

「八月ちうの掘鑿量に關する、ゴータルス中佐の報告に對する閣下の御祝電はすばらしい御讃辭で、中佐に無限の喜びと激勵を與へました。」最初の提案者である、俊銳な古い新聞記者の大統領宛の手紙である。「中佐は、あの御祝電は、何よりも閣下が自分の牢固たる後楯になつてをられ、かつ自分の統率者たることを喜こんでをられるといふ事實を、委員會に示されたことにより、あらゆる意味において、量り知るべからざる後援になるであらうと申してをられます。それは文字通り、政府から戦線の將軍に授與される感狀と同じ効果がありました。そして、中佐がワシントンからの裏的な支持を缺いてゐるといふ、悪意ある風説を一掃し、残り少なき不平家運をして、『樂隊馬車を用意して』おいた方が惻巧だといふことを覺らせるでせう。閣下は、非常に貴重なる公務を、特に立派に果されました。」

前記の二通の電文は、これまたピショップの提案によつて創刊された、地峽運河委員會發行の機關週刊紙「運河週報」第二號の一面に掲載された。

ピショップは、すでに地峽から大統領に宛てた最初の手紙で、その計畫を進言してゐる。

「それは、全従業員に對して、もつとも有益な効果をあげるだらうと思ひます。つまり、かれらは、全線に亘る同僚の従業員たちの成績を知ることによつて、新しいエネルギーと競争心を刺戟されるだらうからであります。かれらは現在、自分の受持現場以外の、どの場所で行はれてゐることについても、噂話による以外は、何も知つてゐないのです。」

「キャナル・レコード」紙が地峡の従業員に對して演じた役割は、「星條旗」紙の歐洲遠征軍に對する役割と非常に似てゐた。それは、他の連中が全線に亘つてやつてゐる仕事を、従業員一人々に傳へた。そして、次第に増大してゐたチームワークの感情と連帶的精神を刺戟し、それが巨大な異種の労働者雜軍を、統一あり、訓練の徹底せる、熱狂的な一個の全體に熔かし込んだのだ。さらに、アメリカ全國の記者と兩院議員に、運河に關するわかりやすい、しかも十分權威ある事實を提供することによつて、パナマからは確な結果が生まれる筈がないといふ、多年培はれてきた國民の考へを是正する上に貢獻した。

この輿論の轉換ぶりは、十一月に議會の豫算委員會の委員連が視察にきたとき、著るしく目立つた。委員の大部分は、三月にパナマ視察にきて、隔離されて憤慨した下院議員團の連中である。そのとき、豫算委員會のある非常な有力家の如きは、不愉快さうに、「君たちの豫算を隔離してやるから、さう思へ！」と我囂り立てたものだつた。これは容易に忘れられない言葉だが、掘鑿工事がスピード・アップされた結果、八百萬ドルの不足經費獲得が緊急の必要となつて以來は、特にさうであつた。

中佐はジョージ宛の手紙で語つてゐる。

「豫算委員の一行が上陸したとき、かれらは片つ端から酷評を加へ、特別列車や馬車などを贅澤だとか何とかいひ合つてゐた。それから、特別列車の豫算が問題になつたとき、私は、沿線のどつかに、せひ自分からにかけてゆかねばならぬやうな問題が、非常に頻繁に起る、——それが特別列車の必要な理由であり、そ

れがなければ間に合はないのだと、たゞそれだけのことを述べた。すると豫算委員長のトゥニイ氏が、私の必要なものなんでも用意すべきであり、その問題に關する討議は無用だといつて、議論を封じてしまつた。

「私は——州選出の——氏を、だれよりも恐れてゐた。その當人が、委員でもないのに、例の噂ぎだしにやつてきた。去年の三月のかれの態度は敵意に満ちてゐたが、今度はすつかりこつちの味方にされてしまつた。出發のすぐ前にやつてきたかれは、私が委員會一行に對して非常に有利な印象を與へたといひ、委員一同が、私が完全な統率力を握つてゐる事實を確信したといつて、祝意を表した。——氏は、委員會で公聴會が行はれてゐる間、現場をあちこち歩き廻り、相手嫌はずだれとでも話してみたが、従業員たちが示した満足と信頼感に感激して、それを私に語り、そして、私の希望する何か特別の法令があるときは、その内容を知らせてさへくれれば、自分が引受けてあげようと請け合つた。」

(註) 先にでゝきた、「ビシヤリ喰はしてやる値打ちのある駄々つ兒」のこと。

大統領に對する報告、及び、後に豫算委員たちが認めたやうに、委員會は殆んどすべての資料を入手して満足してゐる旨の書類が、すでに「キャナル・レコード」紙に發表されてゐた。ジョセフ・バックリン・ビショップはかういつてゐる。「ゴータルス中佐はかれらに對して、完全なる工事の首腦者としての、十分納得のいく印象を與へました。私は公聴會に全部列席しましたが、中佐以上の完全な練達ぶりの表明をみたことがありません。中佐は終始一貫、組織の指導者でありました。そして、自分の任務に完全に通じてゐる

こと、全體としての工事を絶對的に把握してゐることを示したのみならず、その舌端には、直接の部下のそれにもまさる、細部に關する知識をもつてゐることを示しました。……正味の結果は、委員たちは、運河工事は驚嘆すべきほど好成绩をあげつゝある、委員會は有能な組織であり、ゴータルス中佐はすこぶる適任な統率者である、そして、今後とるべき正當なる方針は、かれらに支持を與へ、できるだけ完全に一人歩きさせるにある、といふ報告を議會に齎らすことになるでせう。……」

「ワシントンにおいて、運河の問題に關して話を聴くべき人が、たゞ一人あります。それはゴータルスです。かれは絶對的な知識と、完璧な方法をもつてをり、かつ話ができます。私は、中佐が貴地にゆかれたとき、閣下がゆつくりお會ひになることを希望いたします。そのときは、閣下の方から會見をお求めにならねばなりません。それは、中佐はでしやばりの人造バターではなく、命令を待つてゐるだらうからであります。中佐は、自分よりも私の方が、スポークスマンたるべき人間だと申してをられます。けれども、閣下は、中佐に説きつけられて、そんなお考へになられるやうなことがあつてはなりません。中佐こそは舵を握る人であり、語るべき完全な資格をもつた唯一人者です。閣下と閣下の御令室が中佐と御昵懇になられたとき、かれの人となりは、その才能が拔群であるやうに、魅力的であることを發見なさるでせう。

今朝トウエイの語るところによれば、議會ではこの冬、運河地帯政府の問題について、立法を行ふだらうといふことでもあります。——現在の政府は、行政命令のみによつて組織されてゐるのだから、變更を加へる

必要があるといふわけでありませう。中佐の意向は、私と同様、委員會の首班の手に絶對的な支配権をおかぬ、いかなる形式の政府組織をもとるべきでないといふにあります。」

ルーズヴェルト大統領は、そのときすでに、その舊友、將來の自分の傳記作者に書き送つてゐた。

「私は、中佐が、委員會を厄介な組織と思はれたことに驚きませぬ。……法律を改正するしないにかゝはらず、かれが行政長官をその下におき、他の技師を諮問機關として、工事の總監督に當る技師長であるとするれば、その欲するあらゆる權能は、實際にその掌中におかれるでせう。……私に代つて、ゴータルスに傳へて下さい、その考へを進めて、希望通りの知事の職制を立案したまへと、……さうすれば、私が布告を發します。」^(註三)

(註一) セオドル・ルーズヴェルトのジョセフ・フランクリン・ピショップ宛書翰、一九〇七年八月二十九日附

(註二) 同上、同年九月六日附

(註三) 同上、同年九月十六日附

かういふ委任を受けた、地峽運河委員會の委員長と秘書とは、非常に喜んで、大統領の署名を受くべき行政命令の起草に協力した。それより先、大統領からの要求によつて、次の議會に對する教書において、運河に關して言及して貰ひたいと思ふ事項のリストも、二人協力の下に起草して送つてある。ピショップは、大統領への手紙にかう書いた。「この改組案は、實質において一切の局を廢止し、民政局以下、パナマの機

構の各部門一切を、委員長兼技師長の統督の下におき、委員長の選定せるものを、各部門の主任者に任命せんとするものであります。この組織は、……完全な権能を委員長の手に付與するものであり、現行組織の下においては若干の點において免かれない、摩擦と煩累を不可能ならしめるでせう。」

一九〇八年一月、ゴータルス中佐が、パナマ赴任以來はじめてワシントンに出張したとき、地峽運河委員会の主席顧問リチャード・レイド・ロジャース氏の助力を得て作成された、行政命令案の完成した草案を携行し、それを上長官であるタフト陸軍長官に提出した。スプリーナー法は、一人ではなく、七人の首腦者より成る執行機關を規定してゐることを、勿論承知しながら、將來の大審院長はかう批評した。「それが當然な建前ではあるが、これは法律になつてないよ。」

とはいつたが、長官はそれに賛成し、微笑ひながらゴータルスにいつた。「これがわれわれの希望するところなのだが、これでは、法律と一致してゐない、と大統領にいひたまへ。」

ゴータルスがその旨を大統領に傳へたとき、セオドル・ルーズヴェルトはいつた。「私は、法律を何の價値もないものと思はない。私は、運河を建設して貰ひたいのだ。」

(註) ジョージ・ダブリュー・ゴータルスのマーク・サリヴァン氏宛書翰、一九二六年四月十二日附

ルーズヴェルトは、一九〇八年一月八日の行政命令に署名し、かくてゴータルスを、地峽運河委員会、パナマ鐵道汽船會社の獨裁的首腦者、運河地帯の絶對的支配者たらしめた。かれの責任を負ふべきは、陸軍長

官を通して、たゞ合衆國大統領に對してのみであつた。

「さあ！」ルーズヴェルトは、力をこめていつた。「私の及ぶ限りの一切の権能を、君にあげよう。もしもつと必要であれば、それをとりたまへ。私は君の行動に承認を與へるよ。」

ゴータルスは直立したまへ、狂喜せんばかりに叫んだ。

「これで兩足が大地につきました。いよゝゝ運河を建設させよう！」

第十一章 地殻に挑む技師長

ゴータルス中佐がパナマ運河の建設工事を引き継いだとき、建設さるべき運河の様式はすでに決定されてゐた。シャグル河の處理をどうすべきかといふ大問題に對しても、すでに解決策が樹つてゐた。この厄介な河は、バス・オビスポで山岳地帯を離れ、ひどく曲りくねりつゝ、ガツンにいたる運河の豫定線を横断してゐる。その峡谷は、ガツンでは幅一マイル四分の一くらいしかなく、その峡谷を、人工の山——いはゆる堰堤の本質は、まさしくそれなのだ——で塞いでしまはうといふのだ。それによつて、一石二鳥の効果をあげることができる。第一には、河流を堰き止めることによつて、バス・オビスポの山の中腹あたりに船を泛かすべ得る、深い湖水ができるから、キュレプラ切割の九マイルに及ぶ掘鑿工事が、非常に短縮される。第二には、ダムによつて河水を貯水する結果、従来一夜に二十五フィートも水位が増嵩したやうな、急激な氾濫を防ぐことができる。そんな洪水が起つたところで、湖水の水位が二十五インチもあがるだけで済むわけだ。

一八七九年、パリの國際運河會議で、最初に、ガツンをダム建設の理想的な場所としてあげたのは、ゴダ

ン・ド・レビネイであつた。熱帯諸國で實地の經驗を積んだ、練達な技師であるかれは、フェルディナン・ド・レセップスに對して徹底的な質問を行ひ、豫定の經費をもつて、豫定の海平面運河【無閘門運河】を建設することの不可能な事實を、完膚なきまでに暴露した。レセップスは、その提案を票決に附することを許さなかつたが、時はゴダン・ド・レビネイに軍配をあげたのだ。

ポピオは、新フランス運河會社、ついで一九〇一年にウォーカー委員會が、ダムと閘門の建設地として選んだ場所である。しかし、一九〇四年、アメリカが實際にパナマ運河の建設工事に着手したとき、技師たちはガツンをダム建設の候補地として、測量、ボーリングを行つた。その土木技師の一人は、鑽心機でなく、たゞ土をくり抜く普通の鑽孔機を使用するといふ、呆れた大失錯をやつた。で、その鑽孔機は、閘門建設候補地の地下の粘土質砂岩を掘り進み、上がつてきたのは、細かに碎けた岩や土砂だけであつた。これは、もしこゝに閘門を建設するとすれば、少なくとも一方の閘門ともう一方の半分とは、砂と砂礫のやうな、堅固でない基盤の上に築かれることになるといふ、自説を裏づける證據であつた。この技師は、自分が堅固な岩盤の上に立つてゐることを十分覺つていゝほど、大きい試掘坑が掘鑿された後でさへ、まだ自説を固執してゐた。

ある新聞記者が、雨期の、ある降雨のあつた晩の翌日、試掘坑のなかに水が溜まつてゐるのをみて、ガツン全體が地下水の上のつかつてゐる、といふストーリーを創作した。例の「砂と砂礫」の話も、さらに

流砂に潤色されて生命を保つてゐた。ガツンの噂であれば、どんな物語でも荒唐無稽過ぎるといふことはなかつた。ガツンは、廣く各方面から押し寄せてくる敵の、攻撃の中心目標であつた。無開門運河の主張者ニカラグア運河派の残存勢力、政治的疑獄事件の暴露屋、一ヶ所の大ダムでなく、多数の小ダム建設を主張する技術者の一派、請負契約による運河建設を主張する分子、さては、場所、經費の如何を問はぬ運河無用論者等々、これら雑多な分子はいひ合はせたやうに、プロバガンダをガツン一ヶ所に集中した。創作の一等賞を授與すべきは、一九二二年に、ダムの北側斜面に軽微な決潰を發見した黄色紙の記者である。南側、すなはち湖水側の斜面は絶對的に完全であり、湖や河流の水一滴も、きまつた場所以外には流れ出してゐない。にもかゝらず、この男は一篇の創作を打電して、それが威勢のいゝ標題で、一面にデカデカと載つけられたのだ。

ガツン・ダムの崩壊！

シャグル河、地峽の壁の裂け目を突破

運河技師・問題に直面

けれども、事實は、そのすつと以前、わが工兵將校たちが開門關係の問題に直面し、特徴的な完全さをも

つてそれを解決してゐたのだ。かれらは、現物と同一な條件の下に、大がかりなダムの模型を造り、本物のダムに使用する材料の試験を行つた。模型は全然壁に似たやうなものではなく、傾斜の緩やかな山のやうなものであつた。峽谷を横断して二基の架臺が架設され、技師仲間のいはゆるダムの「足趾」を造るために選定した岩を、運搬列車で何本となくキムレブラ・カットから搬び出しては、その架臺からほうりこんだ。架臺と架臺の間のあきを埋めるために、浚渫機は、「足趾」の隙間から流れ出した泥水を吸ひ上げ、そのなかの沈澱物を残して、厚さ四分の一マイル以上の、砂と粘土のギッシリ詰まつた、丈夫な心積しんせきを造り上げた。

二本の「足趾」の乾いた盛土は、その断面が尖りを上にした楔形をなすやうに、一定の高さまで土盛りしてゆき、その間に、尖りを下に向けた逆さな楔形に、濡れた土砂を詰めこんでゆくのが、このダムの構造法である。濡れた盛土と乾いた盛土との正しい比例は、その材料の種類とともに、正確にきまつてゐる。新聞で大袈裟に騒がれた軽微な決潰が起つたとき、ゴータルス中佐自ら調査してみると、自分の命令に反して、濡れた盛土が、その個所で乾いた盛土のなかへ喰ひ込んでゐたこと、ポンプで吸ひ上げてダムに詰めた材料が、豫定の割合乃至模型ダムに實際使用した割合より、非常に多い粘土と細かな破砕岩を含んでをり、従つて砂と砂石が少なかつたといふことが判明した。その材料は重い、クリームのやうな粘りをもつてをり、壓力に壓されて横じりしたのだ。この間違ひは早速匡正され、工事は、それ以上事故も起さず完成された。

この運河工事に関する、ゴータルス中佐の通信を読んだものはだれでも、かれがパナマにおいて、――ほ

かの場所におけると同様——指揮官であつたといふ事實を認識せずにはをられないだらう。中佐は、一九〇八年一月八日の行政命令によつて付與された権限によつて、運河建設軍の再編成を斷行した。七月には、掘鑿浚渫局と閘門堰堤建設局といふ、古くからある重複した兩局を廢止し、嚴密に區劃された地理的單位として、大西洋、中央及び太平洋の三區を新設し、サイバート、ガイラルド、ウィリアムソンを夫々主任に任命した。この三區の主任技師は、保健衛生と警察權を除くほか、受持區の事實上一切の事項に對する全權を與へられ、同時に嚴格に責任を負はせられることになつた。この三人はいづれも、すぐれた有能な人物であるが、最高の權能と最終の責任は中佐にあつた。ゴータルスは、部下のだけれども外部のものから攻撃を受けたときは、槍を構へ馬を飛ばして、さながら封建的スタイルで、家臣の急に馳せつける。これはその一例で、かれが「エンジンヤリング・レコード」紙の編輯長に宛て、書いた抗議文である。

「編輯長足下、私は、一九一一年十月十四日號の貴紙に掲載された、「カール」なる署名の通信に注意を惹かれました。その通信には、パナマ運河のガツン、ペドロ・ミゲル及びミラフロレスの閘門に使用せる、コンクリートの單價に關する記述がありました。右通信は、具體的事實については正確でありましたが、その單價と、單價の相違を來した原因との正しい關係を述べなければ、私がガツン閘門建設工事の主任に任命した尊敬すべき部下、合衆國陸軍工兵團中佐ウィリアム・エル・サイバートに對する、直接の非難と解釋されるかもしれません。……簡単に申せば、ガツンの現場と太平洋區の各閘門における、コンクリート單價の

相違は、岩、砂、セメントの單價、及び地方状態の相違に基づくのであります。

今では愚策と認められてゐますが、ガツンでコンクリートに使ふ岩を、ポート・ペロで求めるといふ方針は、前技師長時代に決定され、私とその施設を全部承認して引き継ぎ、その計畫に従つて、碎石工場と運搬設備の建設を命じたものであります。それについては、サイバート中佐は何等の協議にも與からず、従つて、この岩の單價が、ミラフロレスの材料として適當な岩に比して、一立方ヤード當り一ドル五十セント高であるといふ事實に對しては、責任を負はせらるべき筋合にはありません。ノンブル・ド・ディオで砂を求めるといふ方針は、エチ・エフ・ホツチス中佐、チエスター・ハーディング少佐及びエス・ビー・ウィリアムソン氏をもつて構成される委員會の勸告に基づいて、私が裁定したものであり、サイバート中佐は協議に與かつてをりません。ポート・ペロの岩及びノンブル・ド・ディオの岩に關する決定をなすとき、われわれは、地峽海岸附近のカリブ海の特徴である、大波の海上の曳船費用を廉く見積つてゐたのでした。……」

コロンプス、オイェダ、ニケーサ、ドレーク、モルガン、さてはジェンキンスの耳、ホシェール提督の亡靈など、昔の海の猛者たちの想ひ出を喚び起す名をもつた、この邊の古いスペインの港々に廻された運河従業員は、金は残したらうが、何かほかのものを失くしたであらう。ノンブル・ド・ディオの吸上げ浚渫船は、沈没したスペイン大帆船の船體に二度も衝突し、觸體や、砲彈や、イスパニヤ弗を引揚げた。ポート・ペロでは、石を、海岸の碎石機と貯藏場の方へ、重力で滑らしてやれるやうな、高みに石切場をつくるために、

岬の上土を削いで盤岩を裸にしたが、その工事にかゝる前に、サン・フィリップの「鐵の城」を崩さねばならなかつた。こゝでも、錆びた丸玉がたくさん掘り出された。砂や割栗石を積んだ幾列もの傳馬船は、昔延金船隊が、金銀を底荷に積んで出帆した港々を離れてゆく。大型の曳船がそれを曳いて、凧いだことのない大うねりのなかをライモン灣へ、それからガツンまで四マイルの間、一直線の海平面の水路をノタリノタリやつてゆく。一方、奇妙な恰好をした船尾外輪汽船のエキゾチック號が、アンコン號かクリストバル號でアメリカから搬んできた、ポートランド・セメントを積んだ傳馬船を、もつとたくさん曳舟してゆく。

ガツンでは、この多數の傳馬船が積んできた荷を、片つ端から、巨大な積卸し起重機で攫み上げて、倉庫のなかへほうりこむ。するとその倉庫のなかから、育雛器からでゝきたひよこのやうな、働らきものゝちつちやな電車が走り出す。この豆電車は、運轉手要らずで、ひとりでに、埃だらけの混合場の屋根部屋へ昇つてゆく。そこでは、八臺の廻轉式混合機が、セメント、砂、石の三要素をコンクリートに混合し、それをビチャリビチャリ、大きなバケツのやうなコンクリート槽のなかへ落とす。コンクリート槽は、豆電車よりやや大型の運搬車一臺に二つづゝ据えてあり、線路は、開門現場のたくさんの穴の片側に沿つて延びてゐる。やがて、そのコンクリート槽は、開門現場の両側に立つ、高い鐵骨塔と鐵骨塔の間に張り渡された鋼索を走る、移動滑車に空中高く吊り上げられ、巨大な穴の上を走つてゆく。そして、六階建の家ほどの高さの、巨大な鋼板のコンクリート型板のひとつの眞上にくると、吊り下げられて、ガラガラッと横倒しになり、飛ぶ

やうにケーブル線に戻つてゆく。ジョナス・ライ畫伯は、その制作「天の軍勢」によつて、熱帯地の空中高く、激しく揺れるコンクリート槽の、驚くべき壯觀を不朽ならしめた。これは、畫伯が工事ちうの運河を寫した十二枚の繪のなかのひとつで、ある人が買つて、ゴータルス將軍の記念として、匿名でウェスト・ポイント士官學校に寄贈した。

偉大なる鋼鐵の藝術家は、今は故人となつたハリ・エフ・ホッヂス中佐（後に退役少將）であり、開門とダム、運河の調節装置の設計者もこの人であつた。ゴータルスは一九〇七年、かれを地峽運河委員會に懇望したが、當時工兵團司令官は、どうしても、ホッヂスを自分の最高輔佐官にしておきたいといひ張つた。が、結局ワシントン駐在の運河委員會の主任購買官に任命され、ワシントン事務所の所長として、開門の設計も擔當した。かれはかつて、ソート・セント・マリー運河【スペリオール湖とヒューロン湖を繋ぐ】の巨大な開門の鋼鐵の開扉を設計したことがあり、パナマの同種の仕事には、めつたに得られぬ適任者であつた。かくてホッヂス中佐は、翌年の七月に運河委員會の委員の一人に任命されて、パナマに赴任し、表向きは、當時辭意を表明してゐたジャックソン・スミスの後任といふことにして、勞働住宅補給局を、陸軍の制度に倣つた補給局に改組することになつてゐた。その改組は間もなく實施されたが、ホッヂス中佐の専門的技能は、家事の雑務に浪費さるべきではなかつた。かれの新たに引受けた任務は、厚さ七フィート、幅六十五フィート、高さ四十七乃至八十二フィートの開門の開閉扉四十六對を造る仕事、導水渠の複雑な装置のうち

の調整機を装置すること、——そのなかには、汽車の通れるほど巨大なものもある——この調整機と閘扉を開閉する、精巧な機械を組み立て、取付けること、かつては恐怖の種であつた大氾濫の全力を動員して、ガツン放水路の水力発電所を動かし、それによつて、シャダール河に、閘門を操作する動力を産み出させることであつた。

以上がホツヂス中佐の擔當任務であつたが、かれはいづれも美事に完成して、議會からは感謝決議を受け、ゴータルスからは眼の高い讃辭を贈られた。ゴータルスは、「中佐は、運河のもつとも重要な土木上の問題の解決を一任されたのであり、まさしく、かれなくしては、運河は建設され得なかつた」といへる(註)と語つた。それから、アンコンの小さなレデーの寄せた、ホツヂス中佐のことを歌つた俗謡を本人に贈つた。

(註) ジェー・ビー・ビショップ著「パナマ運河」二一六頁

ゴータルスの片腕はホツヂスよ、

山の上のお家に住んでゐる、

元氣はいつばい、

お行儀は立派、

それに、丁寧なユーモアもたつぷり。

この小さなお嬢さんは、もう一人の委員と、大西洋區と太平洋區の競争について、五行俗謡パナマをもう一篇作つた。

サイバートは溜息ついて、「私や遊ぶ暇がない、

Y・M・C・A【基督教青年會】もそつちのけ、

ブリッチでさへ詰まらない、

エス・ビー・ウィリアムソンの先生が、

毎日コンクリのレコード上げるもんだから。」

テネシー河とニュー・イングランドの沿岸防備工事で、ゴータルスの下で働らいた、——その間には、米西戦争のとき、義勇軍の工兵大尉として、かれに従つて従軍した——シドニー・ビー・ウィリアムソンは、ペドロ・ミゲルとミラフロレスの閘門建設を擔當させられた。自分に手落ちがあつたわけではないのに、工事のスタートは遅れた。原案では、運河の最低の閘門二ヶ所を、太平洋側の現在のバルボア港附近の、ラ・

ボカに建設する豫定であつた。ゴータルス中佐の前任者の一人が測量を行つた結果、確かに、凝固粘土の丈夫な基盤を突き止めたらしかつた。ところが、豫定のラ・ボカ堰堤建設に使ふ、岩を搬出する運搬列車が架臺の上を走りはじめると、架臺はたちまち物凄く沈下しはじめた。基盤だと思つたのは、硬く凝固した粘土ではなくて、黒鉛のやうに滑る油質のフディングだつたのだ。そこで、ミラフロレスにもつと適當な場所を發見した。序でながら、運河の敵が、相も變らず、ガツンの空想的な危険ばかりほじくり廻しながら、なゼラ・ボカの實在の大失敗を全然看過したかは不可解な謎である。

シドニー・ビー・ウィリアムソンは工事に着手するや、まづ停車場構内の施設に取り掛かつた。ケーブル線と電気列車のかはりに、小型蒸氣機關車と、長い控架拱【荷を吊上げる廻轉腕木】を突き出した運轉室附の起重機を使用し、ポート・ペロからの傳馬船廻送によることを止めて、割栗石は、直接アンコン石切場から、短距離の線路を貨車で運んでくることにした。ゴータルス中佐の「エンジンヤリング・レコード」紙宛の手紙に述べてあるやうに、この新しい運搬法は、パナマ鐵道には貨車不足といふ犠牲を拂はせたが、ウィリアムソンはそれによつて、経費を引下げることができた。統計は、猛烈な勢ひで投げつけられ、投げ返された。大西洋區と太平洋區の猛競争は、二臺の加算器【印字器と金銭登録器を結合した計算器】同志の競争のやうであつた。ある週の「キャナル・レコード」紙は、太平洋區のコンクリート混合費は、ガツンのそれより、一立方ヤードにつき十六分の一セント方低廉であることを公表した。

さういふ競争精神は、ピラミッドの建設に當つて、奴隷監視人の鞭が國王のために齎したところのものを、アングル・サムのために齎らした。運河の十二の閘門はひとつひとつ、チェオプスのピラミッドに要した石の體積と、同じほどの立方ヤードのコンクリートを喰つてゐる。のみならず、技術者の誇張のない術語では、その施工法をサイクロプス疊石法【巨石積み】といつてゐる。それは、閘門工事には、蒸氣シャベルでやつと持ち上げ、無蓋貨車でやつと運べる、非常に大きな岩塊がたくさんほうりこんであるからだ。技師たちは、強度を増すために、數マイル分のフランスの古レールも使つた。かれらの建設した輝やく白壁は、延長千フィート、高さ九十フィート、基底の厚さ八十フィートで、上部は人の歩ける幅六フィートの平場になつてゐる。ライをはじめ、ペンネル、ヴァン・インゲンその他多くの畫家たちは、ペンネルのいはゆる、「工事の驚異」を眼のあたりみて歡喜した。

この驚異を築き上げた人々は、上は區主任の技師から、下は水運びボーイにいたるまで、同じチームの選手のやうな意氣込で、他の組のレコードを破らうと奮闘を續けたのであつた。個人と個人の間組織と組織の間に、ともすれば頭を擡げたがる嫉視の感情を制しつゝ、この健康的な競争を發展させてゆくことは、技師長の任務ちうのもつとも重要な部分であつた。アーノルドがソフォクレスを評したやうに、ゴータルスは、「人生を絶え間なくみつめ、人生を全般的に眺めた」稀有な人間の一人であつた。それに、物事を他人の立場からみるといふ、さらに稀な能力を具へてゐた。頭の前から爪先にいたるまで、れつきとした本職で

あり、ウェスト・ポインターであるかれは、區主任技師のやうな重要地位が、民間技師に與へられたことを憤慨した、ある同僚將校などの狭量さを超越してゐた。ゴータルスはさういつた非難に答へて、ウィリアムソン技師は、容易に得難い、立派な訓練を積んだ、有能な技師であり、報酬としては、サイバート中佐やガイラルド中佐の年俸一萬四千ドルに對して、一萬ドルしか貰つてゐない、それに陸軍將校とは違つて、退職しても恩給を貰へないのだといつて、庇つてやつた。ウィリアムソン技師は一九一三年、ゴータルス中佐の同意と承認の下に、運河工事を辭任して、アメリカの請負會社の英國支社に就職した。それ以後、太平洋區の主任には、ゴータルス中佐自ら當つた。

ゴータルスはその年の八月、在英ちうのウィリアムソンに宛てた手紙に、悲しさうに語つてゐる。「氣の毒なガイラルドは、休暇をへて歸任した後、すつかり駄目になつてしまひました。病氣は神經の故障です。全然記憶力を失つてしまつたらしく、デイークス博士は回復の見込みはないといつてゐます。それで、夫人とビエールに附添はれ、メーソン博士も附添つて、臨時休暇をとつて歸國しました。……」

有名なカッシング博士の手術を受けた結果、この偉大な技術者、優しいセントルマンは、キュレブラ切割の恐るべき地亡りと、裂罅と、地盤隆起に死闘を挑むと同時に、死病と闘ひつゝあつたことが明らかにされた。議會は、その功績を記念するために、運河のその部分の正式名稱を「ガイラルド切割」と改稱した。ガイラルドが途中で倒れたために、すでに負ひ切れぬほどの負擔を背負ひ込んでゐる技師長の肩に、さらに新

らしい負擔が加はつた。

カットの起重機係を勤めたことがあるエドガー・ヤングは、ゴータルス大佐の回想記(註)に書いてゐる。

(註) 一九二八年二月五日、「ワシントン・サンデー・スター」紙所載の同氏執筆の一文。

「かれが引受けたほどの仕事の量に堪え得るものは、殆んどないといつていゝだらう。多くの人々は身體を壊し、氣狂ひになり、酒に奔つた。大佐だけは、いつでも棘のやうに鋭かつた。

かれの身内に宿つてゐた精神、そしてわれわれに吹き込んだ精神を、だれがいひ表はせるであらうか？ 工事は、大洋から大洋へ、——四十七マイルに互つてゐた。キュレブラ切割は、炎熱と土の氷河と闘ふ地獄の咽喉であつた。山々の背骨をぶち貫く九マイルの峽谷。……この地獄の咽喉で、土砂降りの雨と熱帯の烈日とは、われわれ眼裏けて殺到した。西印度の黒人たちは、咆哮する機械の火を焚き、騒々しいスペイン人たちは組になつて、機械のあたりや線路に沿つて、セッセと働らいてゐた。

キュレブラ切割は、往時の運河従業員に對して數々の想ひ出を唆る。ペドロ・ミゲルも、ミラフロレスも、六號捨石場、バス・オビスポ、エンパイヤ、ラス・カスカダス、新舊のフリホレス、獅子山と虎山、ガツン・ダム、ガツン閘門、それからフランス人の掘つた舊運河など、みな想ひ出の種ならざるはない。われわれは、運河のこつち端から向ふ端まで、働らいて廻つた。そして、一切の工事の細かいところまで、全部知つてゐた人は「大佐」であつた。

……長い間の骨折リ仕事は、やつと大體片がついたと思つたときであつた、一九一三年、クラシヤに大地震が起つた。多数の技師は、全然そこを放棄してしまふ肚であつた。ゴータルス中佐は、急報によつて、大急ぎで惨事の現場に駆けつけた。ガイラルド中佐は、もう半狂亂の態であつた。

「一體、差當りどうしたもんだらう？」

ゴータルス中佐が、落ち着いて現場をずうつと見廻したとき、かれは急ぎ込んでたづねた。

ゴータルス中佐は、それに答へる前に、ゆつくり煙草を吸ひつけた。

「畜生！ もう一遍掘り出すんだ。」

それが、かれの唯一の言葉であつた。

ある頑固屋の老人は、かう證言してゐる。

「私が地峽を引揚げたときは、ゴータルスつてのは、私にや馴染みのない名前だつたんです。カットチヤ、だれもさう呼ぶものはありませんでした。われわれ仲間ちや、『白髪の中佐』と呼んでたもんです。」

一九〇九年、かれが中佐から大佐に進級したといふニュースが傳はつたとき、従業員たちがあるトリックを企らんだ。ゴータルスにとってははなはだ不愉快な役目だが、ちやうど下院議員一行の案内役として、朝の南行の汽車に乗つてゐたが、どうしたわけか、その列車はだんだん遅れがひどくなつていく。やつと、切割の入口に差し蒐つたとき、ちやうど十一時の汽笛が鳴り、續いて、いつものやうに、現場の爆破坑に詰め

たダイナマイトに點火された。ちよつと間をおいて、轟然たる爆音が轟ろきはじめたが、それがいつもと違つて間隔が不同なので、ゴータルスは顔をしかめ、首を捻つて、勘定してゐた、——そして、思はず破顔一笑した。従業員たちは、技師長のために祝砲を發射してゐたのだつた。

【譯註】 中佐は、正式には「リニエテナント・カーネル」であり、大佐は「カーネル」であるが、普通の敬稱に用ひるときは、中佐と大佐には同様に「カーネル」を使ふ。準將から大將までを「ゼネラル」（將軍）、海軍の將官をみな「アドミラル」（提督）と呼ぶやうなものである。ゴータルスは中佐時代にパナマに赴任したのだが、従つて、最初から「ザ・カーネル」で通つてをり、最後まで運河の「ザ・カーネル」と呼ばれたわけだ。

たびたびの決潰や地氾りで切割を埋めた、二千五百萬立方ヤードの餘分な土砂は、パナマ鐵道の線路の位置を變更して、ガンボアからベドロ・ミゲル間を、切割の東側の岸徑【曳船路の對岸】或ひは地棚の上を通さうとした、パノラマをみるやうな最初の計畫を不可能にしてしまつた。で、新しい線路は、金山の東方の、起伏の多い、困難な地域を通過せねばならなかつた。

シャグル峡谷の水位が、八十五フィートの高さに上つたために、水面下に没した舊道は新道を河岸の上に追ひ上げた。それと同時に、このガツン人造湖を横斷する高い築堤の上に、新線を敷設する必要があつた。ところが、切割から掘り出した岩塊を、ドンドシこの築堤の上にほうり出したところが、その重みで地盤が沈下した。調査の結果、厚さ約二十フィートの、砂と粘土より成る表土層は、從來の低い築堤と五〇年代の

軽い列車には堪へてきたものゝ、高くて重い、二十世紀の軌道の重みに堪へかねて、地表と盤岩の間に深い層を成してゐる、腐蝕した植物性物質の大塊のなかにめり込んでしまつたのだ、といふことが判明した。といつて、今まで同様、ドシドシ材料をほうりこんで、築堤の基底を、必要な高さに堪え得る程度まで擴げる以外に、施すべき策がなかつた。この築堤工事や、巒の多い山の背をくり抜く、多數の深い切割工事は、パナマ鐵道の路線變更工事費を九百萬ドル、すなはち舊線の建設費總額を百萬ドルも超過する巨額に上らせた。完成した新線は、模範的鐵道の完全無缺な小寶石であり、ゴータルスの意見によれば、その軍事的價值だけからいつても、十分金をかけたゞけの値打ちのある鐵道であつた。

令息のジョージ・アール・ゴータルスは、優秀な成績でウェスト・ポイントを卒業し、工兵團の少尉に任官したが、間もなく、他の非常に多數の青年將校たちと同様、パナマ運河工事に派遣された。一九〇九年以來竣工にいたるまで、パナマ鐵道の付替工事の監督に當つた主任技師は、騎兵將校のフレデリック・ミアーズ中尉であつた。大佐は、陸軍將校は、近代戰の準備として、鐵道敷設運営に關する實際的知識をもつてゐなければならぬ、といふ持論をいだいてゐる。

こゝでちよつと考へてみても、二十年後の今日では、鐵道の仕事は、パナマ運河建設工事全般に對して、いかに重要な役割を演じたかを知ることには困難である。當時、水に浮かぶもの以外は、事實上一切のものが、レールの上を走つたのだ。數千立方ヤードの掘鑿を行ふのに、二線の廣軌鐵道(註)を敷設し、一九〇五年型パン

ラス機關車で、長さ五ヤードの土砂槽を据ゑた、九十五噸積みの大貨車群をひつぱり、リッチャーウッドの低地一帯やオリヴァー捨石場に、その掘鑿をほうり出したものだ。パナマ運河工事には、貨物自動車はたゞの一臺も使用されなかつた。汽車で着いた貨物を運搬するのは、四頭の大きな軍用驛馬に曳かせ、牛追ひ鞭を鳴らしてゆく荷馬車の役目であつた。

(註) 最初のパナマ鐵道は、四フィート八インチ半の標準ゲージではなく、五フィートの廣軌であつた。パナマ地峽では、それ以來ずつとこの廣軌が使用されてゐる。

切割カットから掘り出した岩や土砂を捨石場に捨てる仕事、現場に往復する従業員軍、従業員とその家族の衣食に供する食糧や、補給局からの支給品、かれらの需要を満たすその他の物資、定期郵便、一般乗客、それから、以上一切の首位を占める商品と兩大洋間の貿易、——一九一〇年からはじまつたメキシコ革命以來、テファンテペク鐵道から移行した——かういつたあらゆるものが殺到するので、合計數百マイルに亙る建設線とパナマ鐵道本線は、輻輳を極めてゐた。一九一二年の最高記録は、全地峽一日の列車運轉數總計八百本に達した。キュレブラ驛で南行の汽車を待つてゐた、あの半白の友愛會員が、「おれは二十五年間鐵道の方に勤めてきた。だが、この地峽の鐵道以上に美事にやつてゐる鐵道にや、お目にかゝつたことがねえ。」と、私に語つたのはそのころであつた。

すこし前に引用した回想記の筆者エドガー・ヤングは、大佐が、いかに工事のあらゆる細部に亙る知識を

もつてゐたか、鐵道従業員に對して、いかに従業員仲間の言葉で話できたかの一例をあげてゐる。

「あるとき、キュレブラ・カットに進入してきた空の列車が、R轉轍塔のところまで、停車してゐた列車に衝突した事故を覚えてゐる。早速原因調査が行はれた。機關手は、非常ブレーキをかけて、それから砂を落としたと述べた。大佐はニヤニヤしながら、鋭く突込んだ。「君は、なぜ「非常制動」をかけた後で砂を落としたのだ？」この詰問は、機關手の二つの過失を衝いた。さういふ場合には、まづ空氣制動機をい全制動にかけ、主動輪の下に砂を撒き、速力が緩んだところで、その「非常制動」をかけるべき筈だつたのだ。が、かれはその過失犯の「ホッガー」【探炭夫のはく踵のない靴下】に、握手を與へて、仕事に戻してやつた。そこでわれわれは、過失をやつた場合には、きれいさつぱり白狀してしまふのが、手数をかけない最善の方法だ、といふことを悟らせられた。」

けれども、ダブダブの詰襟を着た、この忙しい、愛想のいゝ鐵道會社の社長さんは、決して、最初に自分を地峽に送つた任務を忘れなかつた。外觀からいへば、かれはもうスマートな軍服を着た參謀將校ではなかつたが、内心においては、砲臺の位置、射程、射界の問題に、從來よりも一層強い關心をいだいてゐた。そして、デューイー提督を委員長とする、陸海軍將校の委員會から勸告された防備施設を建設するために、熱心に準備した。所要經費を千四百萬ドルと見積つたところが、豫算委員會のトゥニイ委員長は、かう言明した。經費は、「數千萬ドル、恐らく五千萬ドルを要するであらう。……國家がかゝる尨大なる計畫に着手す

る前に、他の諸國と中立化條約の締結を試みるべきである。運河地帯の中立化條約は、戰爭勃發の場合には無視されるだらうといふ説は、肯綮に當らな^せい。」

(註) 一九一〇年十二月五日「ワシントン・ポスト」紙所載

それは一九一〇年のことであつた。トゥニイ氏はじめ、相當多數の共和黨議員が、その年の選舉に落選し、民主黨が下院の多數を占めるにいたつた。しかし、かれらの、條約、中立化、國際法に對する信念は、ますます強化された。英國はスエズ運河線に要塞を築造してゐないといふ事實が、非常に強調された。——が、それは、その一端を扼するアデンと、他の一方を扼するマルタ島の強力な要塞、及び運河線に沿ふ英國のエジプト占領軍の存在に眼を掩うた議論である。それから四年の後、濠洲軍の斥候隊が砂丘の頂上に登つたところが、一隊のトルコ兵に護衛されながら、セッセと井戸を掘つてゐる、一人のオーストリア人技師を發見した。その井戸は、スエズ運河破壊の目的をもつて、後から前進ちうであつた、トルコ軍の使用に供しようとするものであつた。……

トゥニイ氏は、今述べたインターヴューで語つてゐる。「私の主張した一切のことは、要塞築造に着手する前に、他の諸國と協議すべしといふことである。われわれは、少なくとも、各國がいかなる態度にであるかを打診すべきである。」

ゴータルス大佐は、ワシントン・ポスト紙のその談話を切抜いて、スタラップ・ブックにきれいに貼つて

おいた。一九二二年の早春、かれは自分の従來の主張をトウニイ氏に傳へる絶好の機會を發見した。そのころ、ハーヴァード大學在學ちうの次男のトムは、すでにバチェラー・オブ・アーツの學位論文を書き上げ、最上級後期の休暇ちうであつたが、大佐は夫人とこのトムを連れて、最初でたゞ一度の歐洲視察を試みた。運河とドックが視察の目的であつたが、ハンブルグの港區と、キール運河の新設の巨大な閘門と、——ドイツ人が、これはガツンの閘門より幅が廣いと、念入りに説明してくれた——規模こそ小さいが、設備の完全な、ベルリンのテルトウ運河は、非常にかれを喜ばせた。大佐は長男ジョージの若い夫人に（ジョージは運河地帯で結婚して、その十七號型住宅の一軒に住んでゐる）、運河地帯のワイフであるかの女が、完全にわかるだらうと思はれる、控架拱や艀口や、積卸し起重機などの、恍惚とするやうな細々した話を知らせてやつた。ジョージには、ポツダムで、完全軍装をつけた戦時編制の工兵一ケ大隊が、戦時任務とまつたく同じ種類の仕事を、平時に實施してゐるところを、視察することのできた幸福を詳しく知らせてやつた。アメリカと、アメリカの陸軍については、われわれがある種の意識を頭に叩き込む前に、ぶん殴られてみなければならぬのぢやなからうかといつた。豫言の危険なことは、軍人といへども平和論者と選ぶところはな

5。

ベルリンには、うるさく付き纏つて、かれを社交的に利用しようとする、アメリカ人の俗物どもが何人かゐた。大佐はその頭株の男を評して、「自分が市場をみつけて、こつちのつけた値で人間を買ひ、本人ども

の言値で賣る會社をつつたとき、買入りたいと思ふ人間の見本の一人だ。」といつた。ある日、大佐がホテル・アドロンに歸つてくると、「玄關子から、いつもより恭しい態度で、——帽子をあげ、いつにないものしいお辭儀で迎へられた。が、なかへはひると、はじめてその理由がわかつた。「蒙古の偉人」が、三月十日に、皇帝陛下から賜餐の榮を賜はるお召状がきてゐるといふことを知らせてくれた!! そして、私から早速御返事を申上げるやうにといふことであつた。後ほど電話をかけると答へたので、玄關子連がびつくりしたことだらうと思ひながら、部屋にはひると、かういふお召状が書いてあつた。「皇帝並びに國王陛下の至高の思召に基づき、下名の宮内省式部官は、アメリカ陸軍大佐ゴータルス殿を一九二二年三月十日午後一時、ベルリン皇宮における朝餐に御招待申上ぐるの光榮を有す。」そして、アー・オイレンブルグと署名してある。片隅に、『服裝に關しては、別記御参照ありたし』といふ注意書きがあるので、そこをみると、『男子——フロックコート、——第二號御門下の第四號御門より參入して御苑より參進、——大理石階段を登られたし。』とある。

カイゼル・ウィルヘルム二世については、大佐の次の手紙にかう書いてある。

「カイゼルは、ルーズヴェルトを多少柔らかにしたやうな感じがする。勿論、強い性格をもつてはをられるが、——夫人のいはれたほどの強さではない。カイゼルは、寶石入りの指環をいくつかはめてをられたが、私は男の寶石指環は感心しない。カイゼルは見榮坊である。私ともうひとつ感心しなかつたことは、——皇

帝とお話申上げてゐる間に、皇后が、十八歳ぐらゐの内親王ともにお出ましになつた。他の人々は話を止めて、直立不動の姿勢をとつたが、皇帝はそれを氣にも留められなかつたことだ。……

食堂の用意ができたと案内があつた。……皇帝は食卓について、ほんの少ししか召上がらない。そして、運河に關して、要塞等に關して、矢継ぎ早に質問を連發され、その間に、キール運河の蒸氣シャベルの話を挿まれたりして、——そのために、折角の賜餐をいたゞく時間がほんの僅かしかなかつた。カイゼルは、食卓で私の健康を祝して乾杯され、席をお離れになるとき、また會ひたい、そして、パナマを訪問することができるやうになればいゝと思ふ、といふお言葉があつた。カイゼルは、現在進行ちうの工事について、詳しく御承知の様子であつた。」

ニューヨークに歸着した大佐は、埠頭でインタヴューした記者連に對して、カイゼルが、「合衆國は、全世界を向ふに廻して保持し得るやうに、パナマ運河を武裝すべきである。」と語つた、といふことを話した。世界のどの國を假想敵とみなしての話でもなかつたのに、その談話がロンドン經由でベルリンに打電され、ドイツ語に翻譯されるまでの間に、何者かゞ内容をもぢつて、ゴータルスが、カイゼルは、英國と日本の攻撃に對して運河を武裝すべきことを、アメリカに警告したと語つた、といふ程度まで歪曲してしまつた。

カイゼルは當然、そんな無分別な談話を試みたことはないと否認した。大臣たちはその上をいつて、半官紙「ノルド・ドイッチェル・ツァイトウング」に、カイゼルがゴータルス大佐に對して、パナマの防備施設に關して、苟くも何等かの談話を試みたといふ事實を否定させた。——そこで大佐は、早速ドイツ新聞から嘘つき、アメリカの下司と毒づかれることになつた。ちやうど、上院の委員會に對して、最初の證言を繰返し終つたばかりの大佐は、ちつと我慢して、味方の大砲にくつついてゐた。大抵のアメリカ新聞は憤起して、熱心にかれを支持し、カイゼルにして嘘吐き俱樂部のドイツ支部を設立するつもりならば、大佐でなく、自分自身を特別會員に指名せよと浴びせかけた。

陸軍省、國務省の間に、その問題に關する公式の通牒が交換されたが、その非公式の寫しは、友誼的な通路を経て、キムレブラへ送られた。ゴータルスは、國務長官が、ベルリン駐劄のライシュマン大使に打電した内容を讀んで満足した。

「アメリカにおいて發表された事實及び新聞報道が、歪曲されずにドイツ新聞に轉載されたならば、ドイツの輿論は、敵意ある論評を是認し得るが如き何等の根據をも、この問題に認めなかつたであらうと信ぜられる。——その敵意ある論評は、ドイツ新聞のある部分には、アメリカの問題に關して、悲しむべきほど頻々として現はれてゐるといへるであらう。アメリカ政府は、歪曲された事實によつて喚起されたであらうかゝる感情を、はなはだ遺憾とするものであり、かつこの遺憾の念は、その職責上の立場にふさはしき思慮を有する、ゴータルス大佐のともにするところである。」

ゴータルスは、直接ライシュマン大使宛に、かういつてやつた。

「閣下にお話申上げた通り、私が國を出發する以前から、民主黨下院議員たちは、諸外國の同意を得ずして、運河の武装を施すわが國の權利を疑ふ態度を持してをり、今後運河防備工事費の支出を中止しようとするのが、若干の領袖の公然たる意向でありました。その理由は、アメリカは運河の中立維持に同意してゐるが、それがためにはまづ、世界ぢうの海國との間に、中立條約を締結し得るかどうかを確かめる必要があるといふにあります。かういふ事情の下において、私は歸國後躊躇なく、カイゼルの考へが、私の運河防備に關する意見と一致してゐる事實を、委員會に對して表明しました。それは、私がさういふ意見の重要性を認識してゐたからであり、さらに、それが、わが國の防備權に對する疑問に、止めを刺すものだと思つたからでもあります。私は、(さういふ意味の新聞記事はまだひとつもみてゐませんが)カイゼルが英日兩國に對して、防備を施すことを勸告された、と語つたやうに傳へられてゐるものと思ひます。それは、全然間違ひです。私は、どの議員とのいかなる談話においても、その他の何人との談話においても、英國或ひは日本といふ名をあげたことはありません。たゞ、運河防備問題に關するカイゼルとの談話において、運河防備は沿岸砲臺のみに限局されるべきではなく、開門とダムに對する陸上防備も含まるべきであり、また常駐守備隊も配備すべきであるといふ私の意見に、カイゼルが賛同されたといふことを語つただけであります。私はさらに、カイゼルはむしろ、アメリカ當局が提案してゐるよりも、大部隊の常駐守備隊に賛成してをられたことを話しました。

兩院の委員會に對して、右の如き言明を行つた結果、運河防備政策に對する一切の批評は消滅し、下院の豫算委員會も、沿岸砲臺のみならず、陸上防備の費用をも支出すべきことを約束し、さらに、常駐守備隊の營舎建造費支出の約束も與へるにいたしました。

上述の事情の下において、また實現された結果に徴して、私は、本問題に關するカイゼルの見解を述べたことに對して、後悔を感じてゐません。私の唯一の遺憾は、先にも申上げたやうに、閣下が何等か迷惑な立場におかれたであらうことあります。私は、さういふことがないやう、また新聞報道が實際に無根であつたことを、衷心期待いたしてをります。」

大佐は約束の豫算を獲得して、運河の防備施設築造に着手した。これより先、大佐の非常に不快を感じたところであるが、一九一三年の一月、豫算委員會分科會の公聽會で、參謀總長レオナルド・ウッド少將、その他いろいろな將校が行つた證言が委員會の報告に載り、全部の要塞と砲臺の位置、武装が公表されてゐた。その報告をみれば、だれでも、ペリコ島の十六インチ砲、ナオスの十四インチ砲及び六インチ砲、パナマ灣内フランコ島の十二インチ白砲、バルボアを防備するアマダー要塞の大砲、それから、カリブ海の入口を扼するシャーマン要塞、ランドルフ要塞及びド・レセップス要塞の砲臺のことが、みんなわかつてしまふ。世界大戰以來は、このほかに相當の重砲が装備された。封鎖艦隊を相當の距離に保つこれらの要塞があれば、敵艦隊が單縦陣を作つて狹隘な水道に進入してきた場合、わが艦隊は敵の意のままに蹂躪されるで

あらうし、或ひは、敵艦隊はミラフロレスやガツンの閘門を砲撃するであらう。けれども、ガリポリ戦は、舊式要塞は新鋭戦艦を撃沈し得るが、新鋭戦艦といへども一舊式要塞を撃沈し得ないといふ公理を、再三實證した。どんな提督にせよ、その艦隊に、運河の両端の沿岸防備施設に直接打撃を加へさせるといふ冒險を敢行することは、めつたにありさうもないことである。

海岸のどこかの地點に上陸し、迂回前進して、後方の諸要塞を奪取しようとする敵軍に備へるために、常駐の守備隊が運河地帯に駐屯してゐる。運河の両端の地域は、ゴータルスの提案によつて耕作を禁止され、従来通り、非常に鬱蒼たるジャングルのまゝにして置き、切り拓かれた部分は、もとのジャングルに歸らせられた。これは、上陸軍が大砲や輜重隊が足手纏ひになつて、その前進を阻止するために、道路、鐵道乃至水路によつて輸送されるわが軍と同様な、迅速な機動を行ふことを不可能ならしめようといふ、戦略上の必要に基づいたのであつた。閘門を武力攻撃から護る野堡が築造され、電氣の照明燈と警衛隊とが、閘門の開閉扉をサボタージュに對して護つてゐた。二十餘年前といふのに、わが工兵將校は空襲の可能性を豫想し、開閉扉と堰水の操作機を、頑丈なコンクリートの水渠岸壁の底深く装置した。今日では、わが飛行機が運河の上空を舞つてゐると同時に、ココ・ソロの基地から出動した潜水艦は、運河の両端の海洋を潜航や水面航行を行ひつゝ、頻繁に遊弋してゐる。地峽の潜水艦基地は、二ヶ所よりも一ヶ所にする方がいゝ、それは、非常の場合、勤務ちうの先任士官が、運河の両方の進路に關する、確實な局地的知識をもつて行動し得るか

らだ、といふのがゴータルスの意見であつた。

二千年前、タシタスがゲルマンの蠻族について語つたやうに、われわれの隣人を近寄せないために、わが國境をわざと密林のまゝにほうつておかねばならないといふことは、憂鬱な業である。いつかアメリカがサンディー・フックと金門灣ゴールドポイントから巨砲を取外づし、軍艦を古鐵として賣拂ひ、軍隊を警察に變へ得る日があるかもしれない。その場合は、パナマの要塞が武装解除される日は極めて近いだらう。ゴータルスにとつては、運河は第一義的に軍事的なものであつた。けれども、かれはその運河を建設して、戦時平時を通じて、最高の可能なるサービスを人類文化に寄與したのである。

大佐はハンブルグで、ドイツ人が、沼のやうな斜岸と泥深い淺瀬を、水深の深い、模範的良港に變へたやうに、非常に感心した。ベルリンでは、「ペンシルヴァニア街よりも廣い」、廣々とした、並木のあるブルヴァールを、率直に羨やんだ。運河の太平洋の終端バルボアでみられるものは、泥深い低地に臨んだ、惨めな中米の村落であり、その低地は、干潮になると殆んど水が引いてしまひ、フランスの浚渫船隊が、敗戦して自爆した艦隊のやうな姿で横たはる、亂雑に擴がつた掘跡が露出してゐる。この浚渫船隊のうち、修理の利くものは活かし、新造の大型浚渫船コロサル號と、その僚船の補助に使用して、水道の浚渫に當らせた。吸上げ浚渫機は、海岸に新らしくできた、コンクリート護岸の外側の泥を吸ひ上げては、内側に噴き出し、艦隊を碇泊せしめる錨地を造ると同時に、市街を建設する乾いた地面を築き上げた。切割カットから掘り出された

数百万噸の土砂や岩は、潮濕地や、ナオスとペリコ諸島まで延びてゐる防波堤におち込まれた。ゴータルスは、かうして埋立てられた數百エーカーの土地を使つて、かれの模範港を築き上げた。コンクリートのドック、倉庫、運河を通過する艦船ならどれでも容れ得る巨大な乾ドック、ガツン湖の水位が上昇して、修繕坑を脅やかしはじめたとき、ゴルゴナから移された機械工場と鐵工所、五十萬噸の石炭を貯藏し得る貯炭所、公設、私設兩様の、燃油タンクと油送管など、いづれも堂々たる設備である。建設期間ちう運河委員會が管理してゐた、冷蔵倉庫、商店、洗濯所は、今では運河の職員と通航船舶の御用を勤めてゐる。これら一切の施設は通商を助長し、平時は、アングル・サムのために多大の利益をあげ、世界大戰に際しては、わが軍艦と船舶のために十分な貢獻をなした。

ゴータルスは、バルボア平野とバルボア高地に、ドイツの街よりも廣い道路と、スペインがローマから學んだスタイルの家をもつた、誇らしげな小都市を建設した。この都市は、堅牢なコンクリート構造と電氣設備に於いては、ウルトラ・モダンであるが、それにもかゝらず、濠と壁を廻らし、稜堡を築いた、古くからの模範都市である隣り都市と、よく調和してゐた。そのスペイン風の古風な都市は、有名な海賊モルガンが、昔のパナマを掠奪して焼き拂つた後に、カスティルのドン・フェルナンド・サーヴェドラといふ、古い時代の工兵將校が地取りしたものである。今も昔に變らず、雨はクッキリ目立つ白壁と、新築の商店街の生な色調を和らげ、苔は深紅のタイルの上に匂ひ擴がり、棕櫚に遊歩道や廣場でますます伸びてゆく。パ

ルアボの都市は、ガツン・ダムの緑のスロープに連なつてゐるやうに、殆んど見分けがつかぬやうに、その背景のなかに溶け込んでゐる。この太平洋岸の新港は、全運河と同様立派な土木工事であり、鮮やかな熱練であり、すばらしい藝術である。その名は、パナマ駐割のペルー公使ドン・フェデリコ・アルフォンソ・ベセットの案であるが、それこそこの都市に與へられ得るもつともふさはしい名である。その名は、一九一二年の卒業式に臨み、ハーヴァード大學總長ローウェル博士が行つた演説のなかの、あのキーツの山彦のやうに、パナマの昔と今を結びつけてゐる。——その日、ローウェル總長は、いま法學博士の學位を授與せんとしてゐる人の名を呼び上げた。

「ジョージ・ワシントン・ゴータルス、——土木工事の標準を樹立したる軍人、熱帯地における多數の労働者の間に、秩序と安全を維持しつゝある行政家、デーリエン「パナマ」の俊峯を貫いて、兩大洋を結ぶ大計畫を完成しつゝある技術者。」

第十二章 情知る専制王

パナマ地峡では、日がでるのは年ぢう六時近であつた。ゴータルス大佐は、日曜以外は、太陽とともに起きた。そして、ウィーク・デーには、毎朝六時半に朝食のテーブルについた。召使頭のプノアが、小粒で酸っぱい土地の密柑をひとつ、皮を剥いて、フォークにさしてもつてくる。(芯のところに、塊になつた種があるので、かうして食べるのがいちばん食べいゝ)卵が二つとベーコンが一切れ、珈琲が一杯、それだけが朝食である。大佐は穀類が好きであつたが、地峡では食べたことがない、それは、「牛糞」に辛抱できなかったからだ。

朝食が済むと、小山を下つて、キュレブラ着七時十分の北行の二番か、七時十九分着の南行の三番かに間に合ふ時間に、停車場に着く。機關手が氣をつけてゐて、大佐がその汽車に乗つたところを見ると、いよいよ發車してから、その「機關手」は、アメリカ人の鐵道従業員ならだれでも心得てゐるあのゼスチュア、——機關室の窓に腰かけて、右手を、頸髻をしごくやうな恰好におとがひに當てがふ——あれをやつてゐる。そのゼスチュ

ア年と權力のシンボルである髻を表はし、「御大に氣をつけろ！」といふ、仲間内の警戒を傳へてゐるのだ。ところが、大佐はどつちの汽車にも乗らず、そのすこし前に、自動車で出掛けることがよくある。冷却装置の下に運轉手、そのそばにニグロの信號旗手を乗せた、大型の乗心地のいゝ自動車が、凸縁の車輪の跡を印しつゝ走つてゆく。みたところ、旅客列車の機關車とタクシーの、奇怪な合の子のやうな代物である。といふのは、それが、お馴染みのニクネームをもつた、パナマ鐵道會社時代の客車と同じ、正規の氣難かしい黄色に塗られてゐたからだ。雨期にかゝると、「そーら『黄禍』がやつてきた！」と嘖鳴りながら、道をよける横着者にびつくりさせられることがある。

しかし、ときには、どこかで大佐を乗せて、視察現場との間の短かい距離を走り、しまひに家まで送るために、空車で走つてくることもある。太平洋區か中央區の視察の場合には、普通、十二時半の晝食をとるために歸宅するが、大西洋側まで出掛けていつたときは、ガツンかどこかで食事を済まし、二時か三時ごろにキュレブラに戻つてきた。自宅で晝食を食べたときは、食後すぐ、三十分ほど晝寝するのが常であつた。それから事務所について、仕事を終るのが五時半、夕食は七時であつた。來客がある場合でも、由し譯をいつて、夜業のデスクに戻つていくのが常で、十時に仕事を終り、十時半には床にはひる習慣であつた。

ゴータルスは、この鐵の如きスケデュールを守ることによつてのみ、山積する仕事の地氾りに埋没されることを免かれてゐた。かれは、ブリッチもゴルフもやらなかつた。訪問の記者連には、熱帯地で健康を維持

するには、毎日すこしづゝ運動することが必要だと語り、視察に出掛けるが一緒にいかないと誘ひ、切割ちうを引き廻しては、汗だくでついでとしようとする若い連中を、ヘトヘトにさせた。ある特派員の如きは、あれが健康の値ひだとしたら、ひと思ひに死んだ方がましだと音をあげた。

社交的な仕事は、大佐にとつてはその時間だけの能率低減であつた。で、かれは非常に巧みに、それを避けてゐた。建設時期の最後の数年間には、あまり多くの貴顯高官が地峽を視察にきた。そのなかには、大佐の表現によれば、非常な大官であるため、逃げを打てない人々もあつた。かれは平生、自分の方から出掛けでゆくよりも、人を招んで御馳走する方が多かつた。また、そちこちの家で、親友だけの小さなグループで食事をすることも、非常に多かつた。その相手は、キュレプラではガイラルド、ホッヂス、ルソー、ウイリアムソンのやうな人々、アンコンのジョセフ・バックリン・ビショップ、ガツンではチェスター・ハーディング、ジェームス・ビー・ジャーヴェーの兩少佐等であつた。キュレプラのゴータルスの家で、しよつちうこの人々と顔を合はせる定連のなかには、アンコン病院のディークス博士、キュレプラ教區のローマ・カトリック教の僧侶コリンズ神父、パナマ鐵道の路線變更工事で、モンテ・リリオの食堂經營に當つた、運河地帯の名物男マイク・ミツチエルの顔があつた。感謝祭日【十一月の最終木曜日】に家族が不在で、大佐が一人のときはいつも、このマイク・ミツチエルが、七面鳥料理に招ばれるたつた一人の客であつた。

大佐は人を御馳走するので忙がしかつたが、大統領や陸軍長官からの紹介状をもつて、派遣されてきた人

人に對しては、特にさうであつた。ブライス卿や、サー・アイアン・ハミルトン將軍、ジュスラン大使のやうな、外國人名士の視察者もあつたが、さういふ名士たちは、大統領や陸軍長官がいつもさうであつたやうに、ゴータルスの自宅の賓客になるのが常であつた。

議會の委員會が視察にきた場合には、ゴータルスはかならずアンコンにゆき、いつでも議員連と連絡がとれるやうに、議員の宿泊してゐるティヴォリ河畔に滞在した。委員會が一度視察にくると、肝腎の工事に關するどんな問題よりも、よけいに疲勞させられた。かれらは、いろいろな人間の寄せ集めで、禮儀正しい、聰明なゼントルマンもあれば、滑稽な無學者もあつた。航海ちう大部分船酔ひで苦しんできた、このタイプの一議員は、埠頭で、パナマ鐵道の有蓋貨車に「P・R・R」の略號がついてゐるのをみて、「こんな便利な、ペンシルヴァニア鐵道の驛があることを知つてりやあ、船でなんかくるんぢやなかつた。」といつた。別の議員は、運河の太平洋側の終端では、潮の干満の差が二十フィート以上に達し、大西洋側よりは二フィート少ないと聞かされて、「そりやあ、一日に何回起るんだね？」と質問した。はなはだしきにいたつては、逮捕逃れに視察を利用したといふ、芳しくない連中さへあつた。

「われわれの方ぢや、あの議員連をなんと呼ぶか御存じですか？」と、ある運河地帯の警官が、愛想の盡きたやうな顔をしていつた。

「わたしらあ、『野蠻人』つて呼んでるんですよ。」

あるとき、ティヴォリに滞在ちうの下院議員の一行が、パナマ市で一行を待ち受けてゐた特別列車に遅れたことがある。時間通りに乗つたのは、大佐と數人の議員連だけだつた。大佐は、豫定の發車時間になると、車掌の方にむかつて、

「ベルを鳴らせ！」と命じた。

「もうちよつと、……四五人みえてますから。」車掌は、その方を指さしながらいつた。

「ベル——を——鳴——らせ——！」

特別列車は、ほんの一部分の客だけ乗せて、發車した。數時間遅れて、やつと大佐に追ひついた議員連は、まだカンカンになつてゐたが、かれのニヤニヤした顔をチラとみたゞけで、腹の蟲を抑へて黙り込んでしまつた。大佐はさすがの議會の猛者連を押へつたわけだが、それ以外に、氣がセイセイして、疲れが少なかつたのが儲けものであつた。

家に泊めた賓客を饗應する場合には、大佐夫妻は、レセプション時代からの奇妙な遺産である、召使頭のブノアから、金に換へ難い助けと、無限の喜びを受けた。この男は、海賊も顔負けするやうな獍猛な面構への上に、氣狂ひじみた變人であつた。そして、自分は、キュレブラの技師長の家に住み込み、だれでもその家に泊る客をもてなさねばならないものと、獨り合點してゐた。タフト大統領が、はじめて、地峽のゴタルス大佐の家の賓客となつたとき、このブノアに、パナマにきてから何年になるかとたづねた。

「わたしや、フランス人の技師長が四人と、けふまでのところ、三人のアメリカ人に使はれてまゐりました。」と、ブノアが答へた。

タフト大統領はいゝ具合に、運河が竣工したら、どうするつもりだときかなかつたので、膽を潰さずに済んだ。といふのは、このフランス人は、「わたしやキリスト様の復活をみに、イエルサレムにゆくつもりです。」と答へるのが定り文句であつたからだ。

ブノアは、ガリバルディとつけた、性のよくない大きな鸚鵡をベツトにしてゐた。羽をきつてあるので、カンジキを穿いた人間のやうな恰好をして、その邊をほつき廻つてゐた。ブノアが、たきつけにする半インチほどの木片キギを投げてやると、ガリバルディはそれに跳びかゝつて、一方の爪でしつかりと押へ、力の強い嘴で、バリツと眞つ二つにしてしまふ。あるとき、隣りのガイラルドの家の猿、トントの頭を食ひちぎらうとしたことがあるが、それをみつけたガイラルド大佐は、あのとでも柔らかなカロイナ辯で、「ガリバルディ、トントにそんな亂暴しちやあいけないよ。」と叱つて、追ひ出した。ガリバルディはよく、暗くなつてから、のそのそキュレブラを歩き廻つたが、だれか蹴躓くつついたりするものがあると、物凄ものい鳴聲を立てながら、大帆船に乗り込む海賊よろしく、その人のズボンにしがみついて登つてゆく。そして、肩を止り木にして、例の凄ものい嘴の一撃を耳のあたりに喰はすので、相手も膽を潰して、ふりもぎるといふ騒ぎであつた。大佐のところへ苦情が舞ひ込んだので、ブノアを呼んで、ガリバルディがそちこちに危険を及ぼさぬやうに、

氣をつけなけりやいけないと叱言をいつた。ブノアはその返辭代りに、早速ガリバルディの首を締め、嘴も何もすつかり料理して、こはがる家族たちの夕食の御馳走にだした。

ブノアはこんな變人ではあつたが、召使ちうでいちばんの働らき者であり、いちばん役に立つ人間であつた。八年間以上といふもの、この家で行はれたあらゆる御馳走は、このブノアと、アンニーといふ、ヴァーヂニア生れの忠實なニグロの女コックだけの手で作られたのだ。アンニーは、運河ができて間もなく死んだ。ブノアは、運河委員會の本部がキュレブラからバルボアに移つた後、そこの獨身宿舍の管理人になつたが、まだ生きてゐるかどうか消息がわからない。恐らく、キリストの復活をみに、イエルサレムに出掛けていつたことだらう。

日曜の朝食は、いつもより一時間遅かつた。ゴータルスは、日曜の午後には、いつもゆつくり晝寝し、午後から夜にかけても、すうつと家に引込んでゐた。この日曜の半日だけが、唯一の自分だけの時間であつた。休暇といつても、九年に互る運河地帯生活を通じて、アメリカに歸つたのは、職務上の公用を除けばたゞの一回、一九一六年の六月ちう、次男のトムがハーヴァード大學の醫學部を卒業したときだけであつた。公用の旅行に對して喜ばしいコントラストをなした、あのドイツ訪問（一九一二年）でさへ、タフト大統領からの勧めによつて、ドイツの運河と港灣施設視察の目的で行はれたのであつた。一九一五年の八月、大佐は、サン・フランシスコで開場ちうの、パナマ太平洋博覽會訪問のために北上した。——これでパナマ地峽とは

お別れのつもりであつたが、クララシヤの地じりが、たちまち非常に危険な状態を呈するにいたつたので、すでに陸軍長官の手許に提出ちうの辭表を撤回せねばならぬ事情になり、ゴータルスは急遽地峽に取つて返し、それ以來引續き、一九一六年の十二月まで在任した。九年間に一回の休暇、——それと、日曜毎の半日だけ、これがかれの休みの全部であつた。

日曜の午前ちうは、他の運河従業員はみな、ゆつくり朝寝したり、俱樂部で雜誌を読んだり、狩獵に行くもの、釣に行くもの、朝の禮拜に出席するもの、或ひは寺院廣場を蹴下ろすエビスコバル會館のバルコニーで、政府富籤の抽籤を見物してゐるものがあり、闘牛、闘鶏、野球をみにゆくもの、タバガに出掛けるものなど、思ひ思ひに休みを楽しんでゐるなかに、大佐一人は、キュレブラの古びた政廳の廳舎に陣取つて、八時から午後一時まで、いちばん骨の折れる仕事を片づけてゐた。

この厩のやうな不恰好な木骨造りの建物は、全運河組織の心臓であり、神経中樞であつた。後に、世界大戰の間、運河地帯に駐屯してゐた、ポート・リコ歩兵部隊の營舎に使用されたが、その後一九二七年に取壊しちう、ガイラルド兵營の指揮官の一旅團長が、偶然、運河建設期におけるゴータルス大佐の本部であつたといふ事實を知つた。ウエスト・ポイントでの、ゴータルスのかつての教へ子の一人である、このチャールズ・ダッドリー・ローズ少將は、早速昔の教官に手紙をだしたが、それから一年近經つても、なんの返事もなかつた。その後、ゴータルス將軍が逝去した後に、個人祕書が、ゴータルス自筆の鉛筆書きの手紙の下書

きを、書類のなかゝらみつけたので、そのまゝロープ將軍宛に送つた。

「私は、あの古いキュレブラの政廳がなくなることを承つて、まことに残り惜しく存じます。私がしばらくの間、バルボアの新政廳にをつた間も、想ひ出の絶えなかつたのは、あのキュレブラの舊政廳でありました。私が運河の仕事に着手した當初、歴倒的な仕事の廣大さに激しく打たれて、自分の手に負へなくなるのではなからうかと懸念させられたのは、あそこでした。

その後、さういふ状態は漸次に、仕事はちつとも大きいのではなくて、いらいらさせられる細目事項の塊だ、といふ認識に變つてきました。そこで、あの建物は、毎日々々その細目事項を挽き碎いて、大きな事業に最後の形を備へさせる「古い挽臼」になつたのです。

私が、従業員のランク・アンド・ファイルと非常に親しく接觸し、成績をあげさせるやうな教育、指揮指導を行ひ、——従業員軍の統御力を獲得したのも、あそこでした。あの建物は、全工事の偉大な、人目を惹く存在となつたのです。

確かに、あれは懐かしい大仕事であり、あの既のやうな古い建物は、全世界の中心でありました！」

この「既のやうな古い建物」の委員長の部屋では、劇的な場面が演ぜられてゐた。いちばん息詰まるやうな瞬間が展開されたのは一九一一年の二月であつた。その前々年八月のある眞つ暗な晩、パナマ鐵道の一機關手——假にジョーンズとしておかう——は、機關車の車輪の下で、二發の信號官【警報用】の爆發する音を

聞きつけたが、停車せずに、そのまゝ進行を續けたので、貨物列車に追突して、車掌が一人死んだ。ジョーンズは、運河地帯最高法院で業務上過失致死罪に問はれ、一年の懲治監服役を言ひ渡された。相當興奮した機關手、乗務員の大會において、ジョーンズを即時釋放しなければ、連袂辭職を決行し、「憲法の保護、陪審裁判、平安、及び幸福の追求を樂しみ」得る、アメリカに歸國することを決議した。

そのときゴータルス大佐は、ワシントンからの歸途にあり、代理委員長は、大佐が地峽に歸任するまで行動を延期するやう、鐵道従業員を説得した。大佐が歸つたのは木曜日であるが、従業員らは、金曜の午後六時までジョーンズが釋放されなければ、土曜の朝から一齊に職場を放棄するといふ段取りになつてゐた。その金曜日の午後七時半ごろ、従業員側の一委員が大佐を電話口に呼び出して、その裁決を要求した。委員は裁決を聞いた。

「懲治監に電話かけたまへ、さうすれば、向ふから僕の決定を知らせるだらう。ジョーンズはまだ入獄ちうだ。それから、あすの朝七時までに出勤しないものは、全部解職する。」

土曜日の朝には、ストライキはなかつた。出勤しないものは一人だけだつたが、その男は醫師の診斷書を送つてきた。その翌週の野球試合に、例の電話をかけた男がバッター・ボックスにはひると、觀覽席から聲がかゝつた。

「よう、ビル！ まだわたのか？ おめえつち、憲法の下で暮らさうつてんで、北へ引揚げたんかと思

つてた！」

ビルは、三振を喫した。

運河地帯のアメリカ人自由市民たちは、実際には、憲法の保護、陪審裁判、平安、及び幸福の追求」よりも、この厳格な軍隊的専制政治を「楽しんで」ゐたのであらうか？ 大統領が地峽の視察にきて、従業員の歓迎大會の議長である大佐が、大統領を紹介するために壇上に進みでたといふやうな場合には、かれらは間違ひなく、その専制政治を楽しんでゐるかのやうな行動をとつた。五、六千人に達するアメリカ人従業員の大多数は、會場に充てるために取片づけ、飾りつけられた、古い機械工場のなかへ繰り込み、演壇の端に立つた、あの馴染み深い白服姿にむかつて、湧き返る政黨の全國大會のやうに、拍手喝采を爆發させた。喝采が止んで、大佐が當夜の演説者の紹介の辭を述べるまでには、たつぶり五分はかゝつた。

過去において、軍人の専制政治家に慣れつこになつてゐるパナマ人は、アメリカ公使と、民政局長(註)の飾りもの、行政長官など、簡単に無視してゐた。その論理的なラテン的心理には、大佐は知事ゴットルスの知事なのであり、重要問題になると、かれらは直接大佐のところへもつていつた。ある大統領選挙の年に、共和國の對立する兩政黨の代表者たちが、キューブレラに出掛けていつて、反對派の不逞分子が暴動と革命の陰謀を廻らしてゐることを、ゴットルスに警告した。かれらの政治的傳統は、一九〇七年、自由黨々首が率直に言明した言葉に十分闡明されてゐる。「アメリカ人がこない前は、選挙に勝つものは、最大多数の投票を獲たものではな

かつた。おゝ、ノー！ それはもつとも多数の銃と彎刀をもつたものであつた。」

(註) トム・クック大佐はかつて、民政局長の任務は、委員會の會議に出席し、辻馬車の鑑札に署名し、年俸一萬四千ドルを貰ふことだと定義したことがある。

大佐は兩方の言分を聞き、親父のやうな微笑をうかべながらいつた。「よろしい、もしさういふ事態に立ち到つたならば、御承知の如く、われわれはこゝに一ヶ聯隊もつてゐる！」

「ノー！ノー！ノー！ 知事閣下、そんな事態は起らんでせう！」

かれらがゴットルスの聲を聞いたとき、恐らく、大佐がポート・リコ戰の劇的終結の繪のためにポーズをとつたとき、畫家がかれの眼にみた表情——かならず水泡に歸する希望に對する憤懣——と同じ表情を示したであらう。かれらは、實戦をみたことのない、失望せる老軍人たるかれに、戰爭のおしやべりをしにきたのであつた。世界におけるもつとも絶對的な獨裁王であるかれは、地の上から山を移せ、人間をその領土から追へ、或ひは人の食卓から鹽入れを取上げよと命令することができた。技師としては、民間會社入りをしようと思へば、いつでも百萬長者の收入を得られる。裁判官としては、昔のソロモンやダニエル、ハルン・アル・ラシッドに比せられてゐる。諸大學は、競つて名譽學位を贈つて面喰はせ、一皇帝はかれを午餐に招んだ。視察にくる諸外國の名士たちはだれもかれも、自分の國では、かういふ大事業は、爵位と軍の高い階級をもつて酬いられると斷言した。あまり人を褒めたがらないアメリカ人でさへ、「あのゴットルスといふ

人間を悪くいへる唯一の點は、かれが後世に名を残して、偉大なむづかしい名^(註)を發音させることだ。」といふことを認めた。成功と名譽と權力とは、その掌中にあつた、——にもかゝらず、土地の政治家たちが辭去した後、輔佐役の技師の技師の一人と、遠い先にパナマ市に革命の起る可能性について論議してゐるとき、大佐は呻くやうな嘆息を洩らして、「その鎮壓には、歩兵十聯隊を出動させることにしよう、——私や、兵の先頭に立つて進むときがなかつたんだよ。」といつた。

(註) Oは長く、アクセントは第一シラブルにあり、Gothalsと發音する。

技術者、行政家としての、いかに偉大な成功も、この骨の髄からのウェスト・ポインターには、自ら選んだ戦争といふ職業における失敗の埋合せには、決してなり得なかつたのだ。かれは、精銳さにおいては優にドイツ軍に匹敵して、しかも、その不自然なギョチなさがなく、指揮官に對しては、ナポレオン親衛軍の小隊長【ナポレオンの愛稱】に對すると同じ親愛の情をもつた、四千の軍をその指揮下にもつてゐたが、それでもなほ、半中隊を率ゐて、モロ族の匪賊狩りをやつたことがあるといふ、いちばん若い新米將校などを羨やますにはをれなかつた。パナマ運河建設といふ仕事は、かれのやうな智力をもつた人間にとつては、埃つばの練兵場で、のべつに「右向けえ右つ！ 左向けえ左つ！」と嘯鳴つたり、ミンダナオ【フィリッピン】で命がけの警察任務に服したりするより、結講な仕事だといふことは心得てゐた。そして、自分は世界全圖を變へつゝあるのだといふことを知つてゐた。その齎らす變化は、單なる征服者の齎らしたやかなる變化より

も、一層恒久的で、遠大なる性質をもつたものである。しかもなほ、大佐はあの子供らしい不満の感情を斷ち切れなかつた。といふのは、ウェスト・ポイントの同期生をはじめとして、後輩の連中まで揃ひも揃つて、

——ウッドとか、ファンストン、ルーズヴェルトのやうな、訓練もたぬ地方人まではあげないにしても、

——みな部隊を指揮して、激戦に勝利を獲る機會を得たに反して、自分は單なる平和の軍人、——一土掘りに過ぎなかつたからだ。

大佐のいちばん都合いゝ時間に會へるのは、訪問者が、日曜の朝の八時以後、キェレブラの個人事務所のどれかの椅子にかけたときである。部屋の、上側の平らなデスクの上には、新らしく切つた煙草の罐がでゝをり、大佐は非常にうちとけた態度で、そのデスクに向つてゐる。不平をもつものは男女を問はず、だれでもそこへやつてきて、この最高権力者に訴へることができるのだ。大佐の裁決に對しては、アメリカ大統領にもつていく以外は、控訴が許されなかつた。

控室のベンチには、陳情者たちが到着順にかけてゐる。一番乗りは、原始的な顔をした、石炭色のジャマイカ人土工、次がその内儀さん、三番目が、年俸五千ドルのアメリカ人技師である。いちばん先にきたものは、いちばん先に會ふ、といふ規則は絶対的であつた。個人秘書のビル・メイが、順々に「お名前と札の番號は？ お名前と札の番號は？」と、急いで書いて廻る。綴込みからは、タイプライターで打つた、各陳情者の成績調査がでゝくる。——これは、面談のはじまる前に、ビル・メイが大佐のデスクの上に用意してお

くもので、その精細完全なことは、フランス警察の調査にも比すべきほどである。

かつて大佐の歸米ちう、ビル・メイは、次の手紙をかれに送つた。「日曜の陳情者さへ、傳染病でも発生したかのやうに、われわれを見限つてしまひました。この日曜日には、一婦人がまゐつて、ゴータルス大佐に面會を求めましたが、代理のホッヂス大佐に面會することを納得しました。もう一人、白人の従業員がまゐり、これは私が話をつけました。ハムの子ら【ニグロ】の數も、十人ぐらゐに減りました。その前の日曜の大入りのことを考へ合はせると、貴下に面會して、『大佐と話した』といつてみたい好奇心が、訪問者の多い原因の大部分に違ひないといふ確信をいだかされました。そのほかに、かれらは、貴下の明断と温情にだけ信頼してゐるのであり、つまり、貴下の申された通り、われわれは話にならぬほど不人氣なのです。」

ベンチに待つてゐた、ジャマイカ土工と内儀さんが、大佐の部屋に通された。二人はドギマギして身體をふるはせ、鞍馬のやうに汗をかいた。男の方はひどく吃つて、さうでなくてさへ、アメリカ人にはちよつとわかりにくいニグロの國訛りが、テンでわけのわからぬ早口になつてしまつた。けれども、その言葉の藤には、不當な取扱ひに對する切々たる愁訴が漲ぎつてゐるのだ。そして、西インド人食堂と妻帯者住宅區域に關係した、ちつぽけな、こみいつた不當徴收問題の、やゝこしい経緯を、洗ひさらひさけだしてしまふまで、大佐は終始、ちつと辛抱強く聴き入つてゐる。その通りに相違ないかね？……へえ、相違ありません！……

大佐は、その問題の吟味をする。二人はお辭儀をして、満足さうに顔を輝かせながら、部屋をでよゆく。次のアメリカ人技師は、大佐の個人的友人として應接される。なんだね、問題は、ジム？……いや、かういふわけなんです。委員會では、本式のアメリカのパンを焼いてゐるんです。——いゝ材料ですが、私のやうな胃病もちは、消化が悪いです。アンコン病院の炊事部では、フランス・パンを焼いてゐるので、アンコンのわれわれ少數のものが、病院から買つてゐたわけです。——ところが、今度規則が變つて、病院外のものには全然手に入らなくなつたのです。

「ジム、そりや氣の毒だが、特別の特權を許すわけにはいかないな。あのパンの希望者は非常に多いんだが、それが一齊に手に入らなくなつたのなら、例外を設けるわけにはいかないよ。君は、パナマで必要なフランス・パンを買ふんだね、……それとも、衛生局から命令をだして貰ふか。」

次にはひつてきたのは、カトリックの坊さんの一團で、そのなかの一人を、運河地帯のある都市の寺院の、司祭に任命せんことを主張してきたのだ。現在の司祭は非常に年とつて、病氣勝ちになり、司祭の勤まらないこともたびたびある。そこで、パナマ市のカトリック派の監督は、その後任としてスペイン人の僧侶を送つた。この人は、勿論司祭はできるが、前任のイタリア人のやうに、英語で説教することができない。寺院の信徒は、この陳情團と同様、アメリカ人である。かれらはアメリカ人の僧侶を迎へるべきだ、とこの連中は主張するのだ。

その主張は、表向きは立派である。が、大佐は例によつて、すつかりその内幕を承知してゐた。その都市には、パナマ政廳で小禮拜堂を建てる準備ができてゐず、その代りに屍體公示所が一ヶ所あつた。——むかつくやうな悪臭を發する屍體假置場であるが、勇敢なイタリア人の老僧は、そこに搬び込まれた死者のために、香水を浸したハンカチを鼻先にかざしながら、祈禱を捧げたものであつた。この宗教家にあるまじき行爲を暴露したものは、アメリカ人の不可知論者である。大佐の命によつて、早速屍體を安置する禮拜堂が建立されたので、その不可知論者は、しよつちう馬でそれを眺めに出掛け、そのそばを通るたびに、満悦の含み笑ひを洩らしたものであつた。それは、すでに近所に新教の禮拜堂が建つてをり、もう一方は、都市のカトリック教會になつたからだ。そこで、この對立教派のアメリカ人僧侶たちは、自分らの間から、あの奇篤なイタリア人の老僧の後釜をだしたいといふ魂膽なのだ。

「なぜ君らアメリカ人が、眞つ先にそこへいかなかつたのですか？」大佐は冷やかに質問した。

その質問は、いさゝか應へる質問であつた。で、僧侶たちが返辭を考へつけずにあるうちに、大佐の方から問題の解決を與へた。かれは受話機を取上げ、番號をいひ、簡単な話を済まして、笑ひながら受話機をかけた。

「皆さん、今後、——寺院の司祭が親しく司祭できぬ場合には、いつでも當教區の僧侶コリンズ教父が代行されることになりました。コリンズ教父は、無報酬でその餘分の仕事に當つて下さいます。私は皆さんが地峽においては、コリンズ教父より立派な説教のできる人はない、といふことに御同感であることを確信いたします。」

大佐とコリンズ教父とは、多年の友人であつた。たまたま新教徒であつた大佐は、日曜の朝の裁判所が、教會に間に合ふ時間に閉廷することに、キュレブラ・プロテスタント教會の、十一時からの禮拜に出席した。かれが、委員會の各俱樂部ハウスを、日曜日にも完全に開館すべしといふ問題に關して、Y・M・C・Aとの間に關した議論は、その宗教的の信念を語るもつともよい例である。

委員會の俱樂部ハウスの管理は、最初アメリカの基督教青年會の手に委せられてゐた。それは、Y・M・C・Aは、さういふ專業の經驗に富んだ手腕家揃ひであつたからだ。俱樂部ハウスは、日曜日にも開館されてはゐたものゝ、青年會の規則によつて、ゲームは種類の如何を問はず、一切許されなかつた。そのために、多くの労働者は俱樂部の會員にならなかつた。それは、日曜は唯一の公休日であり、できるだけ楽しみたいのが人情だからだ。ゴータルス大佐は、日曜完全開館論の熱心な主張者であつたが、アメリカのY・M・C・A全國委員會は、そんな特權を許すならば、地峽の全役員を引揚げるといつて反對した。全國委員會のある視察委員は、大佐とこの問題について討議してゐるとき、かういふことをいつた。「そこでどうすね、大佐、日曜日に俱樂部ハウスで、球撞きや、プール、ボーリング・アレイ、その他のゲームがやれないために、バナマヤコロンの、まあ、いかゞはしい場所にかける従業員は、いくらあるといふ御見込ですか？」

「君の御質問に對する返辭としては、——これは、キリスト教の教義を信するあらゆる教會の會員が、か

ならずしなければならぬお答へですが、——もし、日曜に全俱樂部、ハウスを完全開館することによつて、さういふ場所から、一人だけでも遠ざけることができると思えば、開館の理由は十分あるといふことです。」

陳情や請願が、矢張り早にもちこまれては、ドシドシ處理されてゆく。コロンの銀行家が、運河通航料支拂用の、船舶の爲替取扱ひの特權を得たいと申出たが、その件は、早速財務局に委送された。ある技師の細君は、平家では赤ん坊が堪らないから、「十七號型」住宅が一軒欲しいと申込んだ。わたしどもは、休暇で、木曜日に出掛ますが、その前に、その件について、大佐に區補給官に話していただけまいか、といふ註文である。大佐は約束した。米西戦争のヴェテランに、南北戦争戦死者記念日の特別列車に無賃乗車を許すとすれば、労働者のカンガルードもは、歩兵十聯隊のおつそろしく大勢の兵隊たちのために、隅つこの方に押しつけられてしまふではないか？ その問題に關しては、來週の日曜に、聯隊の全階級委員會を開いて、協議させることにしよう。ある男が、機關手としてアメリカから呼ばれたが、地峡に着いた當日、早速運轉をさせられた。それなのに、なぜ最初の月に、機關手として月給をくれなかつたのか？ それは、區役員の勤務證明があれば、請求通り支拂ふ。ある男の兄弟は、パナマ鐵道の路線變更工事の事故で重傷を負つたが、その工事は合衆國政府である地峡運河委員會の直營であるから、損害賠償要求の訴訟を起こすことができなうといはれた。それに對しては、關係代議士から、唯一の救済法である特別法を讀會に提出するならば、大佐は有利な報告をだして上げようと約束した。コロンのいづれ看護婦が、婦長とつまら

ない喧嘩をして辭めたが、醫員たちはそれを呼び戻したがつてゐる。大佐から本人に説諭を加へて、勤務規則に觸れた點を詫びさせていたゞけまいか？ 大佐は、やつてみようと思つて引受けた。

どんなに急に話題が轉換しても、大佐は常に、相手の所屬する區とか、工場、組合などの規則を、暗記で覚えてゐるらしい。ボタンひとつ押せば、さういふ規則の載つたパンフレットは、従業員一人々々の勤務成績と一緒に、すぐ手にはひるのだが、大佐は決してパンフレットなどを覗く必要はなかつた。そして、殆んど變らない調子で、人のいゝ、腹からの笑ひ聲を立てゝは、會談を賑やかにし、相手も一緒に笑つた。小柄な白髪まじりの女が、大酒飲みの亭主の不身持ちを訴へにきて、「あの人も、ね大佐、あのお手紙いだいてからは、わたしを苦しめちやいけなかつたことは辨まへてゐるんですけどね、今度は、またほかの女と熱くなつてゐるんですの。」とこぼしたが、それでさへ、大佐が、「私から話してあげよう。」といつたとき、彼は、吸り泣きを止めて、今にもつこりしさうな顔になつた。

この事務所はまた、笑ひ聲で暮にはならぬ、種類の違つたインタビューでも有名であつた。

朝の訪問の殿りを承はつたのは、オルゴナの社會主義鍛冶工の大ビル・モリソンである。この男は、誠首になつて流れてきたのではなく、招かれて働らきにきたのだ。工場の職工たちは、古い假小屋が取壊しになるのを祝つて、一杯やうといふことになり、大佐にもぜひ御出席を願ひたいといつてきたわけだ。

「あすの朝御飯には、一九〇七年に、モリソン君の細君のところで御馳走になつたやうなやつを、御馳走

して貰へるかね？ ありやあ、地峡にきて以來いちばんうまかつたね。」

「きつと、御馳走しますよ！」

「それぢや、いくことにしよう。」

大佐は煙草を廻し、二人は、世界ぢうに参謀肩章もなければ、赤旗もないといったやうな、親しさうな態度で向ひ合つてゐた。

「大佐がドイツにいつたとき、社會主義をどつさりみてこられましたか？」

「カイゼルは、根こそぎやつてるところだといつてをられたよ。」

「ビスマルクがやつたでせう、御承知のやうに。」

「ちよつといつておくが、モリソン、君は地峡で社會主義が行はれてゐるなどいつちやいけないよ。選挙制度などやつてみたまへ、われわれは木つ葉微塵になつちまふぜ。これは専制政治だよ、そして、それがいちばんいゝ政治の形式なんだ。」

「さうですな。」社會主義者の大立物が、笑ひながら同意する。「大佐が善良な専制王になればね。」

最後の訪問者が辞去すると、ゴータルス大佐は、ぐつたりと、デスクの椅子の背にひっくりかへる。煙草の箱は空になつてゐる。しまひの三時間の間、いらいらしながら煙草に火をつけ、半分吸つては、灰皿にほうりこんでゐたからだ。顔の皺は非常に多かつたし、頭のでつべんの捲毛はだんだん薄くなつてゐたが、そ

の微笑だけは辛抱強く、倦むことを知らなかつた。隅の方にゐる對談者を眼鏡越しにみながら、大佐はいつたものだ。

「君は、いつかは、これが、ほんの笑ひ話になつちまふ、といふことを知つてゐるかね？」

第十三章 世紀の偉業成る日

ガツン閘門にはじめて水が導入されたのは、一九一三年の九月二十六日であつた。この日、幾本もの特別列車が運轉され、家族連れの運河従業員が何千人も繰り出して、閘門の岸壁堤を埋め、泥水の大奔流が、圓形の導水口から、塵埃だらけの水渠の基底に噴出する光景を見守つてゐた。圖體の大きな大金線蛙が何百となく、上の方の湖の導水渠から流れ込む水に押し流されてきて、みるみる水位が高まつてゆくの、滑稽な面喰ひやうをして、グルグル廻りをやつてゐる。いちばん低い閘門の水位が、外側の海平面運河と同じ水位に達したとき、巨大な補扉「防護扉」と本扉はバット左右に開き、渦巻く水のなかを徐々に向きを變へつゝ、それぞれ岸壁の凹所に納まつた。

勝利に顔を輝やかせたハリ・エフ・ホツヂス大佐は、岸壁の上で躍りあがつた。

「一分四十八秒、——操作完了、——豫定時間より十二秒少ない！ この五月、空で開門したときとすっかり同じだ！」

「ライジング・ステム機【昇降機】の具合はどうだね、大佐？ ブル・ホイール【主輪（鐵輪）】の具合は？」
「完全だ、完全だ！ 何もかも設計通りに動いてゐるぞ！」

この日こそ、ホツヂス大佐にとつての大旗日であつた。また、委員會の電氣、機械技師であり、あのブル・ホイールの發明者である、エドワード・シルドハウアーにとつての大祝日であつた。——ブル・ホイールといふのは、岸壁の内部に装置された、ゆつくり廻轉する巨大な圓盤であり、その廻轉控架によつて、巨大な閉扉を、人が寢室の扉でもあけるやうに、軽々と開ける装置である。この日はまた、サイバート大佐にとつてのめでたい日であつた。かれは、満船飾を施し、汽笛を鳴らしつゝ、自力で水渠に進入してきた曳船ガツン號の前甲板に立つて、左右にむかつて禮をしてゐる。曳船が自力ではひつてきたのは、牽引電氣機關車を使ふ準備がまだできてゐなかつたからだ。それは、われわれ一同にとつても祝福すべき日であり、心から簡素な開通式を祝つた。ひとり大佐だけは表に立たず、部下たち一同に、その苦闘によつて闘ひ取つた勝利を楽しませた。ゴータルスは曳船の客にもならず、岸壁の上をいつたりきたりしながら、罎やブル・ホイールの具合について報告を受けてゐたが、ガツン號が湖にはひつていつたとき、その後をちつと見送つてゐた。この日撮つた大佐のスナップショットは、どれもこれも、かれを取巻くグループの人々が、みな眞つ向からその顔を見てゐるのに、本人はその人たちやカメラの方へ顔をむけず、寫眞にはひつてゐない何かの方を眺めてゐるポーズばかりであつた。大佐の心は絶えず工事の上にあつて、自分自身の上にはなかつたのだ。

それから二週間後の十月十日、タフト大統領の後を襲つたウィルソン大統領は、ホワイト・ハウスのなかに装置された艇を押した。電流はたちまち、海底電信局から海底電信局へとリレーされて、南に走り、つひにガンボア堰堤に達して、そこに装置された九噸のダイナマイトを爆發させ、ガッソ人造湖の水をキュレプラ切割カットに流れ込ませた。カットには、あまり猛烈な奔流を防ぐために、前から相當水が張つてあつた。大佐はすばしく映畫撮影技師の裏をかき、新聞の特派員たちが走つて追つかけてきて、ステートメントを求めたとき、かれはニコニコして、頭を振り、ゴム・バンド一本と、針金で作つた釘二本と、葉巻箱の木片三つで作れるやうな玩具の船について、四つになるピーター・ルソー君と話し續けてゐた。

けれども、最後の人工による堰堤はすでに爆破されたが、切割カットの航路はまだ、自然の大障壁によつて閉ざれてゐた。それは、われわれの古くからの敵である、ククラシャの地じりであり、一九一三年の一月に突發して、切割カットの底を殆んど完全に埋没してしまつた大事件である。引續き九ヶ月間に亘る、蒸氣シャベル必死の活動も目立つほどの効果をあげ得なかつたので、大佐はつひに、建設線を取外し、水上に轉じて、浚渫船によつて復舊工事の完成を計らうと決意するにいたつた。

線路は取外すされ、鰐臺カッターもの蒸氣シャベルは姿を消し、機械の唸り、人の奔めきに渦巻く切割カットが、物音は絶え、ガラ空きになつてしまつた光景は、想像もできぬ淋しさであつた。どこかすこし先の方で、こゝ何年來もと同じやうに、確かに掘鑿機ドリルは動いてゐるし、汽車は走つてゐるに違ひない、といふ氣がしてならな

つた。それは、休戦成つた後の朝のやうな姿であつた。

大佐は、そのときの感想をエル・ケイ・ラークに報じてやつた。ラークは區の次席技師として切割カットの工事を擔任し、一九一〇年六月、ボストンの道路工事主任に就任するため辭職するまで、切割カットの工事を監督してゐた。

「工事のやり方は、すつかり一變してしまつた。建設軍を解體することは、恐らく私が今當面してゐる仕事のうち、もつとも困難な仕事であらう。」

その仕事は、ワシントン當局の緩慢な措置によつて、一層容易ならぬ仕事になつてきた。一九一三年の十月、ギャリソン陸軍長官が地峽視察にきて、大佐の家の賓客になり、國民のすべてが、大佐が運河を完成させるために、地峽に留まつて奮闘してゐることを、いかに熱心に賞讃してゐるかを、愉快さうに語つた。——「ゴータルス大佐が地峽に留まつてゐる主要な理由は、感情的な理由であつたが、——大佐はそれに答へて、いさゝか露骨に、いづれにせよ、自分はこゝに留まつてゐたくはない、しかし、當局の方では直ちに、建設から運用に切換へる準備を整へなければならぬ。それから、大統領が一九一二年のパナマ運河法規定の措置をとらなければ、だれにせよ、自分の後任者は一層困難な立場におかれることが豫見される、といふ趣意の話をした。

一九一二年八月二十四日制定の法律は、大統領の意見により、運河の建設が、地峽運河委員會の存續を必要ならしめ、かつ爾後、「パナマ運河知事を通してパナマ運河を完成、管理、運用し、並に運河地帯を管

理し、若くはこれが完成、管理、運用せらるゝやう措置する……」に十分な程度進捗したと認められる場合には、行政命令をもつて地峽運河委員会を廢止し得る権能を、大統領に付與したものである。

ギャリソン長官は、その趣意がよくわかつた。そこで、地峽における錚々たる智者で、事情通のフランク・フニール判事に相談したところ、判事も大佐の意見を支持して、長官の考へを一層固めさせる一役を勤めた。フニール判事は長官の依頼によつて、即時ゴータルスを知事に任命すべき理由を明らかにした、覺書を起草した。ギャリソン長官はそれを承認して、ウィルソン大統領に送付した。

ギャリソン長官は歸米後、ワシントンからゴータルスに電報を打つて、ウィルソン大統領が貴下をパナマ運河知事に任命された場合、少なくとも二ヶ年間に在任して貰へまいかと内意を訊してきたが、その發案者はフニール判事であつた。ゴータルスは大統領を「わが隊長」と呼んで、大統領が在任しろと命令される期間、在任すると回答したことを、フニールに話した。

地峽運河委員会は、翌一九一四年一月二十七日大統領署名の行政命令をもつて、四月一日より廢止されることに決定した。發令の翌々二十九日、ウィルソン大統領は、ゴータルス大佐を初代のパナマ運河知事に指名した。上院は全員一致で、この任命を迅速に承認した。皮肉屋は、ゴータルス大佐は、地峽運河委員会の委員長兼技師長として、一萬五千ドルの年俸を貰つてゐたが、パナマ運河知事としては、一萬ドルしか貰へなひと囁きたてた。

「世間ぢや、共和黨は恩知らずだといつてゐる。」と、ドゥーレイがいつた。「だが、みたまへ、君、パナマで大陸を二つにチョン切つた男に對して、共和黨がどんなことをしたか。あの男は英雄である、私はさう認める、その名前の發音ができないので、遺憾であるが……かれは何を受けやうとしてゐるのか？ え？ いゝかね、ヒニッシー、政府はすでに、グッとサラリーを下げて、運河知事に任命したんだぜ。」

その同じ記事(註)において、ドゥーレイは、ニューヨーク市から發した、ゴータルスを市の警察部長に招聘したいといふ緊急の招聘狀に對して、獨得の解釋を述べてゐる。「最近數年間において、名譽と危険の伴ふ地位を占めてきた、幾千もの名士連の名と不滅な繋がりをもつた、——いや、一緒に手錠に繋がれたといつてもよからう、さういふ地位だ。……われわれは、少なくとも一週間、君がこの重要な地位にあることを保障する。それから、君の帽子に凹みをつけて送り出し【ソフト帽、民間人に歸らせるの意】、それから誹毀罪の告訴をしいしい、名譽ある平和の一生を送つて貰はうと思ふのだ。」と、その記事にでゝゐる。

「不思議なことに、大佐はこの偉大な名譽を避けてゐるらしい。」

(註) ビー・エフ・ダンヌ「ドゥーレイ氏ゴータルス大佐と警察を論ず」一九一四年二月十五日(日曜)附「ニューヨーク・タイムズ」紙所載【ルーズヴェルト、タフト兩大統領は共和黨であるが、民主黨のウィルソンが大統領に就任して以來、大佐が虐待されてゐるかの如くいひ觸らし、ニューヨーク市政を壟斷する、民主黨タマニー・ホルのボス征伐を諷したものである。】

ゴータルスは一月十四日、ミツチェル市長に手紙を書き、自分は運河が完成するまで地峡で働きたいこと、現役武官であるから、現役を辭するか、——それは全然問題にならないが——或ひは、大統領からの退役許可がなければ、公吏の地位につき得ない事情を述べてやつた。運河が完成した後、陸軍を退役した場合といへども、法規が改正されて、勤務状態不良の部下は、だれでも免職し得る権限を付與されぬ限り、大佐は警察部長に就任する意志はなかつたであらう。かれは、権力を伴はぬ責任を負ふことを欲しないのだ。

その年の三月四日、上院は公開の本會議々場で、ゴータルスを大佐から少將に飛級せしめる異動案を承認した。上院の議事記録員イー・ヴィー・マーフィーは、ゴータルスに、手紙でかういふ興味ある事實を知らせてきた。それによれば、今度の場合と同じな承認議事の例は、ほかに、危篤状態に陥つてゐたグラント將軍が、アーサー大統領により、大統領の任期の將に盡きやうとする最後の時間を控へて、一八八五年の三月四日、退役の陸軍大將に任ぜられたときの前例が、たゞ一回あるだけである。その承認議事は、殆んど上院の先例として確立されてゐた議事法の秘密會ではなく、公開の本會議々場で行はれたのであつた。

ゴータルスはそれと同時に、議會から感謝決議を贈られるといふ、異例の名譽を荷つた。

マーフィーは、さらにかう述べてゐる。「もつとも同じ日の朝、ホッヂス大佐、サイバート大佐、ゴータス軍醫大佐の進級が承認され、すこし遅れてルソー海軍大佐の進級も承認されたのですが、閣下の進級承認は劈頭に行はれました。かくして閣下は、世界史上最大の土木工事の建設者としての、比類なき功勞に對す

る報酬として、一時に二階級進級させられたのみならず【準將を飛び越えて】、わが史上二回目の、合衆國上院の公開本會議々場における進級承認をも受けられたといふ、ユニークな榮譽を贏ち得られた次第であります。」

ゴータルスは、このマーフィーには一度も會つたことがないが、そこがかれの特徴で、その名前と、一八六〇年以來多年に亘り、上院の議事記録員として忠實に勤続してゐる事實を知つてをり、返事にはそのことを書いてやつた。ある新聞記者は、將軍の昇進を、「少數政治家の行爲ではなく、アメリカ國民の行爲」として迎へたが、かれはこの祝辭に對する挨拶に、かう書いた。「貴翰を拜誦して、私も善意をもつて信じた貴下の空想を破ることは、はなはだ不本意であります。——しかし、地峡に着いた次の便は、貴下の御感想を散々に粉碎してしまひました。といふのは、そのとき、あの件全體は、議會が自由に自發的に發動した結果ではなく、あの案に關與せる一部のものが、議員に壓迫を加へた結果であるといはれてゐることを知つたからです。面白からざる事態は、政府の公務に携はるものゝみを全部承認し、民間人を全部除外することによつて、それ自體不公正であるのみならず、すでに相當考慮すべき感情をも惹き起してゐる、階級的差別觀念を生ぜしめたことであります。これは、私の豫想し、かつ恐れてゐた事態ですが、その結果、本來ならば、あの進級によつて示されたであらうところの、いはゆる親切とか感謝とかに基づく報酬は、失なはれてしまつたのです。」

陸軍の將校は、老年になれば恩給を貰へるが、民間人にはそれが無い。陸軍將校には、住宅料が支給されたが、民間人は家賃を拂つてゐた。かれのやうな地位にある他の軍人で、ゴータルスのやうに、部下の民間人に公正な待遇を與へるやう闘つたものは、果して何人あるだらうか？

ゴータルス少將は、一九一六年十一月十五日、自ら願ひ出て、現役を退いた。

さて、その間クラシヤの現場では、ダブリュー・ジー・（「ブレイク」【おほじか】）コンバーの指揮する浚渫船隊は大地にりと格闘を續けてゐた。ミラフローレスとベドロ・ミゲルの開門を通つて、當時世界一の強力を誇る、浚渫船コロサル號がはひつてきた。この浚渫船は、一日に一萬噸の浚渫能力があり、爆破作業を行はずに、柔らかい火山岩を掘鑿することのできる、土砂槽の無限の連鎖チェインを備へてゐた。スコットランドのレンフリーで建造された新鋭浚渫船であるが、それを造つた造船所は、熱帯の潮濕地に、二十年間半は沈没状態で繋がれてゐたにもかゝらず、修理を加へれば操業に堪へ得ることを發見された、あの數隻の小型浚渫船をフランス運河會社のために造つた、良心的な造船所である。コロサル號は自力で大西洋を横斷し、南米南端のケープ・ホーンを廻つて、運河の太平洋側の入口まで廻航してきたのだ。その僚船のなかには、アメリカで新造した、十五立方ヤード汲揚げ式浚渫機を備へたバライソ號とガンボア號、それより小型のシャグル號、ミンディ號、鑿岩機船テレド號、——後に爆發を起して解體處分を行はねばならなかつた——そのほか多數の補助船隊があつた。各浚渫船は、できるだけ接近して繫留し、固い赤粘土の巨大な塊を、挟み撃ちに攻撃し

た。二倍の乗組員と強力な照明燈は、晝間と變らない夜間作業を可能ならしめた。掘り上げた岩石や土砂は、傳馬船に積まれ、曳船に曳かれて、ガツン湖かミラフローレス湖の、航路から離れた場所にほうりこまれた。一九一四年の五月までかゝつて、クラシヤ地スエーデンにりは相當の水深の水路が通ぜられ、曳船に曳航された傳馬船が、大洋から大洋へと通航できるやうになつた。アメリカ・ハワイ汽船會社は、メキシコの複雑な國內戦の連続のために、未だにテファンテペク鐵道による兩洋間の物資輸送を阻まれてゐたので、運河の傳馬船隊は、その社船の貨物輸送を引受けてゐた。

アメリカの大西洋艦隊が、四月にヴェラ・クルスを砲撃、占領したとき、米墨戦争は、すでに開始されたとはいはれないにせよ、極めて切迫してゐた。中米諸國には、當然メキシコに對する同情が翕然として起つた。陸軍長官は、四月二十四日ゴータルス知事に對し、運河防備に對する警戒を嚴にするやう電命した。歩兵第十聯隊の二ヶ中隊は、夕刻までにガツンの守備につき、一ヶ中隊はベドロ・ミゲルに、もう一ヶ中隊はミラフローレスに配置されて、開門と溢水溝の警備についた。全運河は戰時態勢下におかれて、突發事件に備へてゐたが、結局杞憂に歸した。けれども、それは、意外にも世界大戰勃發の機熟した時機であつた。

浚渫船隊が、クラシヤ地スエーデンにりから、二百七十五萬立方ヤード以上の莫大な岩石土砂を取除いたので、つひに浚渫作業は完了して、多年期待された、航洋汽船を大洋から大洋へ通航せしめる水路が開通した。最初にパナマ運河を通航した汽船は、パナマ鐵道汽船會社のクリストバル號であつた。このパナマ運河の通航は、世

界史上の一大事件として、多年世界の各國から注目されてきた劃時代的な事件である。けれども、いよいよ第一船が通航したとき、世界はそれに大した注意を拂はなかつた。その日は、一九一四年の八月三日であつた。しかし、恐らくその方が好都合であつたらう。といふのは、この試験通航はさう順調には運ばなかつたからだ。ゴータルスは、ワシントン事務所のボッグス少佐宛に、次のやうな秘密報告を送つた。「われわれはクリストバル號を、何等の困難なく、首尾よく地入り地點を通過せしめ、切割も、非常に精巧な操作によつて通航させたところが、豫期しなかつた缺點が水渠における操作動力に起つた。ガツンの某々は、船の前後に機關車各二臺をつければ、牽引作業に十分だらうと主張した。低い方の水渠に進入する際、船の重量のために、一臺の牽引機關車のモーターが焼け、そのために相當遅延を來した。ペドロ・ミゲルでは、牽引機關車のケーブルが一本切れたが、別の機關車がそれに代つた。船が水渠に進入してきたとき、いさゝか速度がつき過ぎてゐるやにみえて、開閉扉を損壊しやしないかと心配したが、危ないところまでいかずに、停止させるに成功した。ミラフロレスの上の方の閘門でも同様の状況を呈したが、私が電話で命令しておいたので、係員は前後に各三臺づゝの機關車を使用してをり、船はずつと容易に停止させることができた。この経験の結果、牽引力の強度に關していさゝか疑惑をいだかされた。モーターは定速交流式で、時速二ノットであるが、これは、重量の大きい船には確かに速過ぎる。牽引機關車からもケーブル巻胴からも 絶えず増大する力を加へられぬやうにするために、ケーブル巻胴の操作は緩衝装置によるほかない。鋼索そのものに

は、絶対に伸縮性がないので、その缺陷のために、機關車の速度が開扉に危険を及ぼす恐れがある。で、船の動力を使ふ必要があるであらう、といふので、私は、水先案内に船の牽引と操縦の指揮に當ることを命じた。それは、スピードと、必要が起つた場合、船の動力を使用することの適否に對する、最適の判断者はパイロットだからである。私は今、十分チームワークがとれるやうにと、パイロットたちに機關車の運轉を練習させて、アンコン號の通航が行はれる前に、實地の経験をさせておかうとしてゐる。試運轉には、日曜にアドヴァンス號、火曜にバナマ號を使用することに決定した。それは、現在溜まつてゐる船舶の通航申込が、最初に運河の引受くべき任務のある標準になるものとすれば、アンコン號の通航後には、この訓練を實施する機會は、殆んどあるまいと思はれるからである。私は、陸軍長官から、アンコン號試乗の乗客名簿を送附されることを、衷心期待してゐる。それは、特別パスを發行しなければ、群集を整理することは困難だらうと思はれるからである。」

ゴータルスは八月十三日、ジョセフ・バックリン・ビンショップにかういふ手紙を書いた。ビンショップは、地峽運河委員會の廢止以來ニューヨークに歸り、ゴータルスが「スクリプナース・マガジン」に執筆する四篇の原稿の發表に關する打合せを行つてゐた。

「私は、水渠における操作動力に缺點があることを發見して、非常に驚いた。そのために船舶の操作に當る、陸上牽引装置に基因する事故に對して、私は責任をとることができなくなつた。そこで、通航船舶と牽

引機關車の指揮を海軍に任せたが、そのために、——の感情を害したとらうと思つてゐる。クリストバル號の試験通航以來、牽引機關車の操作にチームワークがとれるやう、開門の係員たちに、傳馬船と曳船で練習を積ませておいた。その結果、アドヴァンス號とバナマ號は、なんの故障もなく、前の方法によるよりも早く通航することができた。八月十五日の土曜日には、アンコン號の通航を行ひ、いよいよ運河を通航のために開放することになった。」

アンコン號は、運河従業員、陸軍將校、バナマ共和国の大官連、その家族たちの大一行を乗せて、無事、大洋から大洋への公式の通り初めをへた。ゴータルスはこの日も船客の仲間にはひらず、機動車をこの地點からあつちの地點へと走らせながら、岸から、岸壁の上から、船の進行ぶりを吟味してゐた。かれの與へた訓練と實地練習が、いかに美事なチームワークを係員たちの間に作り上げたかは、當日アンコン號の招待客の一人であつた、汎アメリカ聯盟の理事長ジョン・バレットが寄せた、祝ひ状の最後の條くだに示されてゐる。

「祝賀は、貴下にとつては大した意義はありませんが、運河の開通式に際して、もつとも印象深かつた事柄について、私一個の感想を申上げるとすれば、それは、あだかも運河が疾に完成され、何年もの間使用されてきたかのやうに、一切のものが整然と、スラスラ動いたことであります。」

さうだ、あのクリストバル號のときは、船客が一人もなかつたのが勿怪の幸ひだつたのだ！

バナマ運河は、この通り初めをもつて、世界の通商のために開放することを宣言された。

最初の十二ヶ月間に運河を通航した船舶は總數千二百五十八隻、その積載貨物總量五、六七五、二六一噸、通航料總額四、九〇九、一五〇・九六ドルに上つた。アメリカ大統領主宰の公式の運河開通式は、一九一五年三月ちうに舉行のことに決定してをり、その日はメイフラワー號に座乗した大統領が、アメリカと参列各國の軍艦、ヨット、汽船の先頭に立つて、運河の通航を行ふことになつてゐた。アメリカ政府部内では、世界大戰勃發後も、なほこの計畫を實行すると意氣込んでゐたので、ゴータルスはヒュー・ロッドマン海軍大佐と協力して、觀艦式の計畫書を起草した。このロッドマン大佐は、當時かれの下にあつた運輸局長で、後に、世界大戰の英國大艦隊の第六（アメリカ）戰團艦隊の司令官となつた人である。けれども、大戰が進展するに及んで、その計畫は中止となり、ゴータルスも非常に助かつた。

世界大戰勃發の結果は、地方的紛糾が捲き起された。對立する二つの平和團體が、ゴータルス相手に、また相互間で揉み合つてゐた。ことの起りは、ゴータルスが、陸軍長官からの命令により、對立團體の正式の標旗は止めて、「自由と平和の世界旗」を、八月十五日にアンコン號の前橋に懸がへしたにある。一方大佐は、兩方の側の交戦國軍艦による中立侵犯を防止するため、運河防備を即時戰時態勢下におくべしといふ、ギャリソン長官の別の命令を實施するのに忙殺されてゐた。沿岸砲兵隊の數ヶ中隊は、すでに完成してゐる各所の砲臺に配備され、射撃指揮装置は改良され、掩護の歩兵部隊は増強された。それと同時に、運河地帯パイロットに、一切の通航艦船の指揮監督をさせるといふ、ゴータルスの最初からの主張が、——それは、

すでにパナマ運河法に規定させることに成功した——いよいよ實施されることになった。すなはち、甲板と機關室には、それぞれ監視兵を配置し、熟練した運河労働者群が、船の高等船員や船員から干渉を受けずに、大索、曳索、牽引索を投げたり、締めたりできるやうにしようといふ方法である。それから數年、世界大戰も終つた後、英國皇太子プリンス・オブ・ウェールズの座乗した、英國戰艦リナウン號が運河を通航したとき、英國皇帝の海軍の戦士らが皇帝の艦の甲板に立つて、この水路を通航することを許されないといふ事實を、いさゝかも不都合な仕打ちだと思ふものはなかつた。運河當局は、あらゆる通航艦船に對する、完全な指揮監督權を握つてゐるのであり、その責任は絶對的である。

世界大戰に際して、ハンブルグ・アメリカン船の四巨船、サヴォイア、グルネワルド、プリンツ・ジギスマンドとザクセンワルドが中立港クリストバルに避難した。乗組の高等船員らは、ゴータルスガ中立違犯を構成すると警告したにもかゝらず、船の無線電信で發信するといつて肯かなかつた。その無電は、勿論地方の無電局によつて妨害された。十分な確證を握つたゴータルスは、船内の無電局を取壊させ、監視兵を乗組ませた。その結果は、アメリカ港灣に抑留されたドイツ船のうち、サボタージュで損壞を蒙むらず、アメリカが一九一七年に參戰したとき、早速使用することができたのは、この四隻だけといふことになった。

ゴータルスは、その後一九一六年九月まで、地峽を去ることができなかつた。一九一四年の運河開通は、結局一時的開通に過ぎないことになった。それは、翌年の十月、金山ゴイタルスのすこし北の、ちやうど眞向ひにな

つた切割カットの兩側岸壁の上部に、恐るべき大地じりがあり、そのために、水路が完全に埋没されてしまつたからだ。この地じりは、いづれも「斷層地じり」といふタイプの地じりで、岸壁の重量のために、下積みの材料が崩れ、支へ切れぬ重荷を積んだ床桁のやうに、ドンと陥ち込んでしまつたのだ。地じり現場はいづれも、約八十一エーカーの廣さの土地が、殆んど垂直に、平均二十フィートの深さに陥没した。運河の底は、兩側の陥没した岸壁に挟み撃ちを喰つて、當然隆起を來し、最初は島ができ、やがて半島になり、しまひに完全な隔壁になつてしまつた。浚渫船がこの隔壁を掘り除けるや否や、兩側からまた別な土砂が盛り上つてきて、それが波打つやうに規則的に續いた。この新しい地じりのつべんは、あまり細かに碎けてゐるので、蒸氣シャベルを使つて掘り出すことができず、前にクラッシュでやつたやうに、切割カットからすつと離れた山腹にある、強力な水壓管嘴ノズルで土砂を洗つたところで、どうにもならない。たゞ浚渫機をコキ使つて、掘るものがすつかりなくなつてしまふまで、掘り續ける以外に施すべき策はなかつた。かくして、運河がやうやく再開されたのは、翌一九一六年の四月であつた。

ゴータルスは、すつと以前から、知事の後任たるべき人物を選定してゐた。それは、工兵團のチェスター・ハーディング大佐（現在退役准將）である。この人は、一九〇八年から一三年まで、大西洋區の次席技師を勤め、ワシントンに歸つて、續いてコロンビア區（首都ワシントンを含む）の土木部長に就任した。かれがなぜ保全技師として、ふたゝび地峽に派遣されたか、こゝにその経緯を明らかにしておかう。

一九一四年八月二十二日附、陸軍長官宛のゴータルスの秘密覚書には、かういつてゐる。「ハーディング大佐は、知事の地位に非常に適任である。かれは、地峽の土木局に五年以上勤務し、その間終始、ゴータルス大佐と完全なる一致を保ち、各種の法規、組織案の起草された當時ゴータルス大佐の抱懐してゐた、運河の運営に關する意見に通じてゐる點において、恐らく同階級の工兵將校の何人にも勝るであらう。ハーディング大佐を保全技師として——後に知事に任命する——派遣することは、初代知事ゴータルス大佐の計畫が、何等の實質的修正を加へず實施されることを保證するであらう。

ハーディング大佐は、あらゆる問題を處理するその圓熟せる判断、あらゆる階級、あらゆる種類の民衆との間に摩擦を生ぜず、圓滑に接觸し得る資質からいつて、……本質的にこの地位に適任である。

ハーディング大佐がこの地位に選任されるならば、それは疑ひもなく、パナマ運河關係事項が、閣下及び大統領のいづれにとつても、もつとも面倒と勞苦少なく實施されるといふ事實を意味するものである。」

ゴータルスはこの覺書を承認して、かう語つた。「ハーディングは理想的な資格を備へてゐる。そして、君は實に申分なくそれを要約してゐる。」

ゴータルスの仕事は終つた。

パナマ運河の建設は成り、その運営は見透しがつた。もはや、ゴータルスを地峽に引留めておく何もかもなかつた。かれはすでに、一九一五年の三月六日、ティヴォリ・ホテルで開かれた、シヤグル協會の年次

宴會の席上、告別の挨拶を述べてゐる。そして、その挨拶を次の言葉で結んだ。

「われわれは今夜、まだ何事をか成し遂げようといふ希望をいだいて、こゝに集まつたのではなく、現實に成し遂げたといふ愉悅をいだいて集まつたのであります。二つの大洋は結ばれたのです。地這りは、數日の間通航を妨げ、遮斷するでせうが、やがては取り除けられるでせう。運河の建設は、將來におけるその世界に對する貢獻、その實現するところに比すれば、微々たるものに過ぎません。その完成は、こゝに集まられた諸君、——忠實に、申し分なき働らきをされた諸君の、頭腦と筋肉の賜であります。そして、パナマ運河の建設に私とともに働らいた以上の、忠實なる大軍をもつた司令官は、未だかつて世界に例をみなかつたであります。」

第十四章 大西洋を跨ぐ橋

ゴータルスが、合同青果會社の汽船バストアズ號に乗つて、最後にパナマ地峽を去つたのは一九一六年の九月であつた。越えて十月の二日、船がニューヨークの港口に着いたとき、大勢の新聞記者が待ち構へてゐた。大佐は、この次には何をやるつもりか、といふのが狙ひ所なのだ。

「さうだね。」ゴータルスが答へた。「仕事を捜して廻るつもりだよ。」

それから四日の後、ウィルソン大統領は、アダムソン八時間労働法の實施状態を調査する目的で、議會によつて新設された委員會の委員長に、大佐を指名した。他の二人の委員は、州際商業委員會のエドガー・イー・クラークと、聯邦貿易委員會のジョージ・ラブリーであつた。ラブリーの方は敏腕な辯護士で、間もなく非常商船隊會社で、ゴータルスと同僚になる人である。

ゴータルス將軍は、その年七月にだしておいた退役願により、四十年に亙る現役生活を後に、十一月十五日附退役者名簿に編入された。それから數日後、翌年一月から、エクステンジ・パレリス四十三番地の事

務所で、コンサルティング・エンジニア【技術上の相談に應じ、設計監督の引受を業とする工務技師】として、業務を開始する意圖を發表した。ジョージ・エム・ウェルズはその事務所で働くことになつてをり、シドニー・ビー・ウィリアムソンはチリーから馳せ参じて、後に新会社にはひつたが、「個人秘書」といふ札の貼られたデスツには、あのお馴染みのウィリアム・エチ・メイの姿が控へてゐた。

開業勿々の訪問客の一人に、ニュー・イングランドの、背の高い、學者らしい風貌の紳士があつた。マサチューセツ州ミルトンのエフ・イー・ユースティスといふ人で、自分の木造船の大量建造計畫に對する、ゴータルス將軍の意見をききにきたのであつた。

エドワード・エヌ・ハーリーが、その著書^(註)にいつてゐるやうに、「アメリカはまだ平時であつた。それ故、船舶局を新設した一九一六年【九月七日】の船舶法は、嚴密にいへば、アメリカの戦時立法の一環ではなかつたのみならず、通過當時のままの船舶法は、われわれを、アメリカがつひに捲き込まれる運命にあつた、戦争の緊急状態に應じさせ得る内容を備へてゐなかつた。」

(註) エドワード・エヌ・ハーリー著「フランスを繋ぐ橋」二二頁、一九二七年、フィラデルフィア及びロンドン
ジー・ビー・リップピンコット社版

その法律の名稱そのものが、目的を明らかにしてゐる。すなはち、「合衆國の、その領土、屬地及び諸外國との通商上の必要に應ずる海軍補助兵力、海軍豫備兵力及び商船の獎勵、發達及び建造を目的とし、――

他の目的をもつて、合衆國の對外及び州際通商に従事する、水上運輸機關を規制する、合衆國船舶局を設置する法令』となつてゐる。この船舶局は、大統領が、上院の勸告と同意によつて任命する、五名の理事をもつて構成され、通商及び陸海軍用に適する船舶を建造し、艤装し、乃至獲得し得る廣汎な権限を付與された。なかんづくもつとも重要な権限は、船舶局が、特定の條件を具備する、合衆國の通商に従事する商船の購入、建造、艤装、賃貸、備船、維持及び運用を目的とする、一會社乃至數會社を設立し得る権限である。船舶局はこれら會社の株式を所有し、政府の利益を保護し、大統領の承認を得て、所有株式を市場に賣却することができる。その他の権限ももつてゐるが、それはこゝに詳説する必要がない。——要するに、船舶局の有する権限は、アメリカの船舶と海運業に對する完全な支配権である。」

(註) 後に、一九二〇年の商船法によつて、七人に増員された。

ウィルソン大統領はその五名の理事に、サン・フランシスコのウィリアム・デンマン、ボルチモアのバーナード・エヌ・ペーカー、ニューヨークのジョン・エー・ドナルド、カンサス・シティーのジェームス・ビー・ホワイト、及びニュー・オルリーズンのセオドル・プレントの諸氏を任命し、この順に並んだリストを、承認を求めるために上院に提出した。排日議員で有名だつた加州選出のフィランが、かつてドナルド氏の社長であつた會社が、アメリカ人の船員を使はず、支那人の苦力を雇ひ入れたといはれてゐると横槍をいれ、その議論がひどく永びいたために、ドナルド氏の任命案は、やつと翌年の一月二十三日に承認を得た。

た。だから、それ以前は、船舶局といふ組織は、法律上では成立してゐなかつたわけだ。しかし実際には、理事の間に豫備的な協議が行はれたらしく、意見の衝突から、突然一人の理事が辭職するにいたつた。

財務長官ウィリアム・ジー・マカドゥーは、一月二十七日に、この公式のステートメントを新聞に發表した。

「バーナード・エヌ・ペーカー氏が船舶局理事を辭任し、大統領が辭表を受理したことは事實である。ペーカー氏が辭任したのは、私が氏に對して、現在の事情の下において、船舶局が局長の地位を太平洋沿岸に與へるやう考慮することは、賢明であらうと考へると、参考までに述べた結果である。大統領は、私の提言に賛成してをられる。ペーカー氏は、その案を一晩熟考してみたいと語つた。そして、その翌朝辭表を提出したのである。」

船舶局を構成し、それを適切に組織する適任者を選定することは、船舶法の通過以來、政府の大なる關心を有する問題であつた。局長に關する提言は、協力の精神と、お役に立つやうにとの希望に基づいて行はれたのである。船舶局は、法律によつて局長を選任する権限をもつてゐるが、政府からの提言に考慮を加へてはいけないといふ理由はない。私は常に、ペーカー氏に對して衷心より敬意を拂つてゐるが、今回の性急な行動に對しては、遺憾の念を禁ずるを得ない。」

ペーカーの辭任に關する経緯は、マカドゥー財務長官とウィルソン大統領宛の、二通の手紙に明らかにさ

れてゐるが、かれはその寫しをゴータルス將軍に送つてきた。序でながら、このバーナード・ベーカーは、先に大西洋貨物ラインを創立し、その社長在職うちに、たつた一隻であつた航洋汽船を十六隻に殖やし堂々たる商船隊を建設した人物である。

大統領宛の手紙には、「過去十年間、アメリカ商船隊を創設する努力に、自分以上の時間と個人財産を捧げたものは、アメリカに一人もない。……四年以來は、その特別の仕事のために、全部の時間を捧げ、四萬ドル以上の金を費つた。……マッキンレイ、ルーズヴェルト、タフトの三大統領は、私の多年に亘る實際的知識と體驗を買つて、かうかういふ仕事に私を任命された。……米西戦争の際には、政府と陸軍省に病院船ミズリー號を献納し、自費をもつてそれを維持した。……」など、散々手前味噌を並べた後、豫期に反して、デンマンの局長任命を、マカドゥー氏から仄めかされたことに對して鬱憤を洩らし、その直後、當のデンマンと議論した経緯をかう書いてゐる。

「……私はデンマン氏との議論において、氏は、船舶局は、國務省に溜まつてゐる、英國政府及び船主から抗議してきた差別待遇事件を、嚴重に糾明する政策をとるべし、といふ主張であることを知つた。私は、さういふ政策が國家の最善の利益であると思へなかつた。そこで、當時非常に緊張してゐた國民感情を、一層刺戟するやうなことは、言葉や行爲によつて、できるだけ避けるやうにといふ、あらゆる善良な國民に對する、閣下の不斷の呼びかけのことを思ひ、自分は船舶局を辭任しなければならぬと考へた。」

その手紙には、マカドゥー長官宛の手紙の寫しを同封してあつたが、それには、ボルチモアの半白の老海運業者が、マクヘンリー要塞の守備兵もどきに、大砲の照準をつけてゐるやうな強情な文句があつた。

「……それとは別に、船舶局の成立する以前に、局長の選挙に對して、私自身誓約をなし、或ひは理事の何人に對する私の勢力を利用することも、正義或ひは公明の原則と認めることができなかつた。私は、船舶局を構成する紳士たちは、その能力の最善を盡して護るべきことを誓約した利益にとつて、最善なりと考へる行動をとること、絶對的自由をもつべきであると信ずる。」

このエピソードからみて、次の二つの事實が非常に明白であるやうに思へる。第一、政府は、完全にウィリアム・デンマンの意見に賛成であること、第二に、船舶局の氏の同僚が、いかなる獨立的行動をとることも歓迎されないといふことである。

船舶局の機能に關するデンマンの抱負は、ニューヨーク州商業會議所における氏の演説に(四月五日)、すこぶる明瞭に述べてある。

「船舶局の組織には、二つの意見がありました。第一は、バーナード・エヌ・ベーカー氏の意見で、局は内閣の直屬機關たるべく、その行政的機能は、必ず政府を組織する多數黨の政策に一致すべきことを要望されました。この案によれば、『船舶』といふ表題の、非常に興味ある氏の著書に述べてあるやうに、この行政府との政策一致は、五人の船舶局理事うちに、大統領の内閣の官吏二名を任命することによつて、確保

されることになつてをります。かういふ案は、政治的伸縮性を保持し、相異なる政黨の政綱に有効に追従し、歩調を合はせることを主眼として考へ出されたのであります。

氏以外の理事は、船舶局は、州際商業委員會の如き裁判所的機關とすべきであるといふ考へであり、但し、取締及び處罰の権限は、アメリカの海外貿易及び海運業の開拓、助成を管掌する上級官廳に、完全に歸屬せしめるといふ考へでありました。そして、この後者の意見が勝つたのでありますが、今年の末には、諸君は、州際商業委員會の委員に對すると同様、理事の政治關係を問題にしなくなれると確信いたします。」

デンマンは、この演説のはじめの方で、「私は業務上、船舶を告訴した」といふ言葉を使つてゐる。——これは、直感的でわかりのいふこと、「船を休サティン止させる」といふ、ゴータルスゴータルスのヘンテコな船舶用語と好一對である。一方は辯護士のお里をあらはし、もう一方は、軍人の地金をだしてゐる。たまたまこの二人の間に展開された論争は、殆んど大部分、法律的な頭と軍人の頭の、根本的な相違の齎らす當然の結果であつた。下院委員會の公聴會で陳述した、デンマンの海事關係事件における多年の閱歴は、ゴータルスの、士官學校一年生から少將に昇進するまでの、四十年間に互る軍人生活に匹敵するものであらう。

デンマン氏 おゝ、私は一八九八年以來、海事關係の事件に關係してをります。最初に手がけた事件は、暗殺された大統領の未亡人マダム・バリオスの財産返還訴訟で、私はその事件のために、太平洋沿岸を下つて中米まで出張しました。……さうです、私はマダムの顧問辯護士だつたのです。カブレロ大統領相手の

その事件の審理が進行ちう、當時グアテマラに勢力を有してゐた、太平洋郵船會社からかなりの助力を得ました。……

さういふ關係から、同社に知己を得、パシフィック・マイルの事件を引受けたこともありますが、同社を相手取つた事件を扱つたことが多かつたのです。で、さういふ事件を通して、海運業關係の多くの問題に關する知識を得たわけです。私は、造船契約實施の監督に當つたこともあります。また、その沿岸の一造船所の顧問もいたしました。そこは、元來木造船を造つてゐたのですが、大戦前に木造船を止め、大戦ちうには一隻も造りませんでした。それは、鋼鐵船の造船所になつたのです。私はその後、合衆國檢事次長に就任し、當初石油問題の訴訟を擔當したので、石油界の情勢に接する機會を得、石油業の實情を研究いたしました。私は、フレッドの事件を引受けたこともあります。オルゼンのディーゼル機關船隊は、私が船舶局にはひるすつと以前から、アメリカ、スカンチナヴィア間に就航してゐました。私は、自分でも海運業をやりました。事實、この二年間に、二隻の木造のホック型帆船【ホック海軍大佐の設計した型の帆船】に、太平洋を十二萬マイル以上航海させて、二億立方フィート以上の木材を輸送しました。私は、木造船について、その時代遅れになつてしまつたことゝ、殆んど効用が残つてをらぬことについて、多少の知識をもつてをります。^(註)

(註) 第六十六議會第三會期、合衆國船舶局の運用に關する下院各派委員會公聴會記録(ワシントン政府印刷局、一

九二〇年）次に引用した質問應答も同一記録による。

この公聴會が開かれたのは、一九二〇年十二月三日であつた。

デンマンは、この委員會の公聴會において、ゴータルス將軍との關係を詳述してゐる。

（委員會は、二月一日午前九時十五分、ニューヨーク、ペンシルヴァニア・ホテル展覽室第六號において開會、委員長ジョセフ・ウォルシュ議員司會、他の出席者、委員バトリック・エチ・ケリー議員。）

カリフォルニア州サン・フランシスコ

ウィリアム・デンマン氏の證言

（證人は委員長に對し適法に宣誓せり）

委員長 貴下は、簡単にわれわれの注意を促がしたいと望まれる、今後の委員會の調査の題目となるべき案件をもつてをられます。そこで、私はその案件を簡潔に陳述されんことを要求します。

デンマン氏 私は、委員長との談話の結果、本委員會の主要なる目的は、建設的な政策に到達すること、及び、多少の資格を具備するものゝいてゐる、建設的な提言を受くることにあるものと考へます。

私が適當の時間に互つて詳述したいと思つてゐるのは、後者に關する事柄であります。さらに、それと同時に、木造船に關するいはゆるデンマン・ゴータルス論争なるものを、否認したいとも考へてをります。

委員長 貴下は、それを十分間でやれますか？

デンマン氏 いや、それを十分間でやらうといふものではありません。私は端的に、そんな論争は決してなかつた、といふ事實を明らかにしようと思ふのです。ゴータルス將軍は、はじめてお目にかゝつたとき以來、私との接觸の最後にいたるまで、一貫して、できるだけ多數の木造船を建造せよといふ意見であり、私の最後の會談においては、將軍が反對の意見をもつてゐるやうな説が傳へられたことに對して、非常に憤慨してをられました。その會談は、速記者が速記をとり、船舶局の記録にはひつてをります。のみならず、私は、鋼鐵船の建造費で木造船を造ることには、決して賛成しませんでした。私の政策としては、補助的な木造船隊の建造を計畫してゐたこと、及び、私がゴータルスを招聘し、或ひは招聘を受けさせたすつと以前の、私の主要政策は、鋼鐵船隊の建造にあつた事實を明らかにしようと思ひます。

ゴータルスが莫大な契約を行ひ、大量の契約計畫をもつてゐたことも、適當のときに述べませう。それは、船舶局の記録の妙な間違ひから、全部次の責任者の仕事になつてゐるものです。——二月といふ短期間内に、ゴータルスが署名した建造契約の件数と、ゴータルスが手配した船舶の隻数は、實に莫大なものです。その隻数は、會計六百隻ぐらゐに上りました。

事實、かれと私は、六十日の期間に、だれの加筆も受けず、まただれの指圖をも受けず、總額約三億ドルの契約をいたしました。その契約は、後に承認を得ました。

このことを簡単に申上げておくのは、私がかつて、戦時目的のため以外に木造船の建造を主張したとか、乃至は、われわれの主要な鋼鐵船建造計畫の補助として以外に、木造船の建造を主張してゐたとかいふやうな印象の下においては、國家は、私が提起せねばならぬ提案の採用を、躊躇するだらうと思ふからであります。

木造船建造計畫は私の計畫ではありません。私が船舶局で實施し、非常に重要な実績をあげた計畫は、アメリカ商船隊の一部、後にはその大きな部分たるべき、ディーゼル機關船の建造だったので。……

委員長 私は貴下の陳述によつて、貴下は、これより述べようとするそれらの事項を立證する、論據を提示される用意あるものと諒解します。

デンマン氏 さうです、ゴータルス將軍の木造船との關係、及び、將軍の地位の木造船に對する價值に關する論據を呈示いたすつもりです。

委員長 貴下は、木造船建造計畫に關して、貴下とゴータルス將軍との間に、論争はなかつたと申されるのですね？

デンマン氏 おゝ、それは計畫の根本に關してです。大して重要でない設計に關しては、いくらか意見の不一致がありました。

委員長 論争は、何等かの問題に關してはあつたわけですか？

デンマン氏 ありました。

委員長 そして、その論争が、お二人とも船舶局を辭する理由乃至原因だったのでですか？

デンマン氏 その論争は、われわれ兩人を船舶局を辭めさせることに利用され、その結果、ディーゼル機關船建造の大計畫がまさに完成せんとする時期に、われわれは辭任したので。

(これをもつて、委員會は午後一時五分閉會、委員長の召集により、ワシントンで續開されることになつた。)

ゴータルス將軍の合衆國船舶局における經驗は、一九一八年一月、自ら第一人稱で口授した談話に語られてある。本人の承認を経たその筆記原稿は、かれの死後、その個人的書類のなかより發見された。

「マサチューセッツ州のユースティスといふ人が、對聯合國物資輸送を目的とする、木造船の建造計畫に對する私の意見を求めるために、ニューヨークの事務所を訪ねてきた。」ゴータルス將軍は、その冒頭にかうらつてゐる。

「私はそれに對して、小馬力の補助機關を備へた、スクーター型の木造船なら、その役に立つであらうと答へた。しかし、蒸氣機關で走らせる木造船の建造には賛成しなかつた。それは、波浪の衝撃と、エンジンの拷問に堪へるやうな、木造船を造ることはできないと信じたからである。」

ユースティス氏は冶金の技師であり、ヨットの熱心家でもあつた。冶金の仕事に従事してゐる間に、沿岸

用の大型スクーターと傳馬船の石炭、鑛石、その他の重要貨物の運輸能力に注目してゐた。その結果、當時まだ中立國であつたアメリカの船腹不足を救ふために、船舶局に標準化された木造船の大船隊を建造させる、といふ案が生れてきたのである。

ユースティスは、ゴータルス將軍とのこの最初の會談の回想を求められたとき、かう書いた。「貴下のはれる、ゴータルス將軍との會談については、あまり記憶してゐない。私は、政府に應急用船舶建造案を進行しにワシントンにでかける前、應急用船舶、特に木造船建造計畫の實現性に關して、數人の人と相談してゐるので、恐らくその當時にゴータルスに會つたはづである。」

當時ゴータルスと一緒に仕事をしておたジョージ・ウエルズは、ユースティスが、エクステンジ・ブレイスの事務所、將軍を訪ねてきたことをはつきり記憶してゐる。

デンマンは、先に述べた委員會の公聽會でかう證言してゐる。「木造船建造計畫を船舶局に持ち込んだのは、有名なヨット操縦者で、金屬製煉業のエフ・エー・ユースティス氏であります。氏は、一九一七年二月の半過ぎに私を訪ねてきて、當時非常な大量に達しつゝあつた、北大西洋における喪失船を補充するため、できるだけ多數の木造船を建造すべきことを主張されました。私は木造船に關する知識をもつてゐました。それは、ある木造船の造船所の辯護士であつたことがあり、多數の木造船を告訴した経験がありまして、木造船の船體、特に太平洋の沿岸通商に使用されてゐた大型の木造汽船の實情に通じてゐたからであります。

私はユースティスに對して、エンジンが手にはひるまいと思ふと申しました。が、船體を建造できることは承知してをりました。かれは、オハイヨ河とミシシッピー河流域には、木造船に手頃なエンジンを作れる工場がたくさんあると申しました。

そこで私は、さういふ計畫を議會に承認させることはできまいと思ふ、木造船は貿易用には時代遅れなのだから、必らず強い反對論が起り、議會は冒險を敢てしないだらうと申しました。するとかれは、「では、あなたが、たれかアメリカ最大級の人物の支持を得ることができたら、議會は承認すると思ひになりますか？」と申しました。

そして、數人の人の名をあげました。ゴータルス將軍の名もでたと思ひます。私は、「あなたがその有力者たち、或ひは將軍自身に、木造船の建造を主張させることができるならば、議會は喜んでその計畫を承認するだらうと思ひます。但し、常に鋼鐵船の補充船隊として、……」と申しました。

「その年の三月、フィラデルフィアにいつてゐるとき、ユースティス、デンマン兩氏は、フィラデルフィアで私と連絡をとりたいたと申し出られた、といふ電報を事務所から受取つた。」これはゴータルスの談話の續きである。「そこで、事務所を通して、私の宿はベルヴェー・ストラットフォード・ホテルで、これこれの晩にはお目にかゝれると二人に通じた。」

ホテルの短期宿泊客元帳を調べてみると、ゴータルス將軍は、三月五日から七日までの間、ベルヴェー・

ストラットフォードの六一九號室に宿泊してゐたことが明らかになつた。將軍は、その月には、それ以外にそのホテルに泊つたことがないのだから、會談は、その三晩のうちどの晩かに行はれたのに違ひない。

ゴータルスは言葉を續けて、

「デンマンから電話があつて、自分は、その晩ニューヨークに約束があるのでゆかれませんが、ユースティスはお伺ひするだらうといつてきた。ユースティスは、船舶局は大統領に對して、重大なる船腹不足の緩和策として、來る十月完成を目標とする、約三千噸級の木造船隊建造案を提出したと語つた。そこで、だれかその監督者が必要になつたが、船舶局では、私とその任に當つてくれることを、熱心に希望してゐるといふことであつた。私は、木造船にはなんの信頼も置いてゐないが、それとは別に、その仕事に興味を感じないので、全然就任の希望がないといふことを説明した。アメリカが參戰するものとすれば、自分は陸軍の方の仕事を選びたい。私は、造船の細目に關する完全な知識の所有者なら、さういふ地位に望まれるタイプであらうといひ、アメリカの大造船所の首脳部こそ、その地位に打つてつけの人材たるべきだと語つた。そして、いかなる事情の下においても、私はその就任の問題を考慮しない、といふ諒解の下に別れたのであつた。」

ユースティスは、ゴータルスのこの談話筆記の寫しをみせられたとき、うなづきながら、「この通りだつた。」といつた。當時かれと共同に仕事をしてゐた、これも木造船論者のエフ・ハンティントン・クラークも、ユースティス宛の手紙で、「その後、あなたはゴータルス將軍を訪ねられ、將軍が、仕事の技術的方面の知識を缺いてゐるからといふ理由で、さういふ任命は受けられないといはれた、その日の會談の内容を私に話されました。」といつてゐる。

ユースティスは、それに對して、かういふ返事をだしてゐる。「ゴータルス將軍は、私がフィラデルフィアにお訪ねした後に、船舶局の役所にこられ、デンマン氏に紹介されたのだ、といふ私の記憶ははつきりしてゐます。」

ゴータルスは、その談話筆記において、ベルヴェー・ストラットフォード・ホテルの會談の件を述べる前にかういつてゐる。「一九一七年の初頭、八時間労働法の仕事の關係でワシントンにゐる當時、船舶局長デマン氏が、私と會ひたいといふ希望を傳へられた。そこで、役所にお訪ねしたところ、太平洋沿岸で現に建造され、使用ちうであるといふところから、木造船建造案に非常に感心してをられるところだつた。そこで私は、私のいだいてゐる意見を繰返し、その會談に列席してゐたユースティス氏に對して、その趣旨を敷衍した。」

ユースティス氏は、ゴータルスをデンマンに紹介したのは自分であるが、紹介が済んだ後、あまり長いこと同席しなかつたと確言してゐる。デンマンは、下院委員會の證言では、全然ベルヴェー・ストラットフォード・ホテルの會談には觸れず、木造船案に對する將來の賛成をとりつけようといふ、ユースティスの申出

があつたといふ事實を承認した後、話は一足飛びに飛んでゐる。「それから一週間ほど後、ユースティスがまゐつて、ゴータルス將軍が役所の製圖室にみえてをられると申されました。私はその室へ出向いて、將軍に會ひました。將軍はその會談ちう、私自身がオペレートした、あの二隻のホック型帆船の計畫を膝に載せてをられました。……その二隻は、われわれが後に造つた船より小型でしたが、強い點では大型船にまさり、大型も小型も、ともに成功でありました。ゴータルス將軍は、「デンマン、これがあなたの實行しようとしてゐられるところです。英佛海峡と北海における喪失船舶は、非常な多數に上つてゐますから、あなたはできるだけ多數建造なさるべきです。」と申されました。

討議はしばらくの間続き、私が呼んだホワイト氏以下、多數のものが同席してをりました。將軍は辭去されましたが、去るに臨んで、「これからは、なにかこの計畫の實行にお役に立つことがあれば、喜こんでいたしませう。」と挨拶されました。

將軍のそのときの肚は、われわれが議會委員会に出席していたよきたいと頼んだ場合に、喜こんでその勞をとつてくれるおつもりだつたのだらうと思ひます。ところが私は、それを、船舶局を助けて、建造監督に當つて貰ひたいと申し出た場合、喜こんで引受けてくれるおつもりだと解釋したのです。ゴータルス將軍は、仕事を捜してはゐなかつたのです。が、私はその點に思ひつかず、年俸五萬ドルだすやうにお話しました、いや、ひとつの案として、その額をあげたのです。すると、將軍は笑つて、「いや、私は陸軍から月給を

貰ひますよ。」といはれました。

將軍に關しては、俸給についての問題は全然ありませんでした。あの方は立派なアメリカ人です。」

デンマンとの會談の席には、ほかに、バーナード・ベーカー氏の後任に任命された、ニュー・ハムシャーのレイモンド・ビー・ステイヴンスもゐた。この人はそれまで民主黨の下院議員であり、海運に關する經驗は全然もたない、デンマンのいはゆる「われらの政治的理事」であり、後に船舶局長、聯合國海運會議の船舶局代表、シャム國政府の外交顧問等の任についた。一九二九年の夏、シャムから歸國ちう、インターヴューを受けて、ゴータルスがはじめて船舶局を訪問したとき、自分を訪ねてきて、しばらく自分の部屋で話したこと、そのときゴータルスは、問題の木造船建造案に對して非常に好意のない意見を述べ、特に、アメリカが參戰するとすれば、フランスで軍務に服したいといふ理由から、その建造に従事したくないと確言した旨を明言した。

エドワード・エヌ・ハーリーは、一九二六年の七月ちう、その著書「フランスを繋ぐ橋」の原稿を執筆してゐたが、七月の十二日に、ゴータルスに宛てゝかういふ手紙を送つた。

「私はデンマン氏に、『非常商船隊會社』といふ名の由來を知らせて貰ひたいと頼んでやりました。木造船建造計畫のことは、何もきかなかつたのですが、氏は非常商船隊及び木造船案に關する、同封の資料を進んで御送付下さいました。閣下において、この資料ちうの異議を有せられる部分を消して下さるならば、有

難き仕合せに存じます。」

ゴータルスは、七月二十日にかう返事した。「デンマン氏の陳述に對しては、強硬な異議がありません。『：ゴータルス將軍は、マンシー・ビルディングにわれわれを訪問して、船舶局の主要計畫の補充として、木造船を建造せんことを主張された。……』……勿論、貴著においては、當時デンマン氏と小生との間に行はれた論争を、お取上げならぬものと拜察いたしますが、貴下において、かれの陳述を引用された後に、小生は、木造船隊の建造を主張し、またはそれに賛同したといふ事實を否認してゐる旨、明記して下されるのが適切であらうと存じます。」

ハーリーはそれを諒承し、「御來示に従ひます。」と回答した。そして、その著書には、デンマンの陳述も、將軍の否認も載つてゐなかつた。

船舶局は三月十日、大西洋、メキシコ灣沿岸の主要な木造船造船業者に招請狀を發して、三月十四日、一種乃至數種の標準型による、三千噸乃至三千六百噸の、木造船の大量建造計畫を審議するため、ワシントンで開催される船舶局の會議に出席するやう要請した。

ゴータルス將軍は、ニューヨーク州知事エッチ氏から來訪を求められたので、三月十二日、協議のため、トレントンの州廳に知事を訪問した。協議の目的は、州議會を通過したばかりの、豫算千五百萬ドルの新州道建設工事の監督を、ゴータルスに引受けて貰ひたいといふ問題であつた。新聞には、ゴータルスは就任を

承諾するだらうと、非常に正確な觀測がでゝゐた。かれとしては、明白に就任を承諾し得る、完全に自由な立場にあると考へてゐた。

一方デンマンは、その翌日の十三日、ニューヨークのビルトモア・ホテルで、深更まで海運業者との協議會をもち、その足ですぐワシントンにむかつた。それは、海運専門家の會合、——すなはち十日に招請狀を發してゐいた、木造船の造船業者との協議會に出席するためであつた。

デンマンは、「ニューヨーク・タイムズ」記者のインターヴューに答へて、かういふ談話を試みた。

(三月十四日附同紙所載)

「熟練労働者の供給が不足してゐるが、商船の建造が、そのために遅延を來すことが明らかになるに及んで、船舶局は、その標準化木造船建造計畫に基づいて、仕事に着手した。われわれは約三週間の間、その案の検討に當つた。太平洋沿岸には、重量噸三千六百噸に達する木造船がある。かういふ大型船の各部を規格化し、太平洋沿岸、南部、或ひはニュー・イングランド沿岸等の木材産地の、諸所の製材所で切り込めるやうにする。多數の製材所で切り込まれた船體の各部分は、各所の造船所に輸送され、そこで組立てを行ふわけである。」

鋼鐵船建造の増加につれて、船大工の供給は不斷に減少しつゝあるが、これは、木造船建造に當つて當面する困難のひとつである。しかし、われわれは建築大工を動員し、七人乃至八人毎に熟練した船大工一人を

つけて働らせる案を樹てた。この木造船は、最初は、四ヶ月毎に一隻の割合で竣工することになつてゐるが、計畫が全面的に實施されるにいたれば、遙かに短期間に竣工する豫定である。」

この會見談は、かう結んでゐる。「船舶局は、一切の努力を軍備充實問題に傾注してゐる、とデンマン氏は語つた。船舶局が木造船計畫を完成せんとする目的のひとつは、戦後通常の通商目的に有用なる船舶を造らんとすることにある、と氏は語つた。」

このデンマンの談話には、三つの注目すべき點がある。談話の時期の早いこと、船舶局の建造計畫が全部木造船になつてゐること、及び、一九一七年の三月に、デンマンが、この標準化木造船が、戦後通常の通商目的に有用だらう考へたといふ事實である。氏は、例の公聽會の證言では、「われわれは兩人とも（氏及びゴータルス將軍）、木造船案に大反對であつた。われわれは、木造船の時代遅れであることを知つてゐました。」と述べてゐる。

氏は、さらに證言を續けて、「……私はニューヨークにまゐり、われわれの主要計畫たる鋼鐵船建造を聲明し、ニューヨークの會合では、われわれの木造船計畫について詳述しました。それは、宣戰布告の前日でした。國をあげて、ヒステリーの状態に陥つてをり、ニューヨークの新聞記者連は、一夜にして、ニューヨークとリヴァプールをつなぐ木造船の橋を、私に架けさせ、その橋を渡つて、アメリカ國民の常勝軍と、從軍商人の荷馬車が、ヨーロッパ救援に乗出すこととしてしまつたわけです。そのときの記事には、われわれ

の主要計畫である鋼鐵船建造には一言も觸れてゐませんでした。しかし、幸ひなことに、當時の意見の記錄として、私の演説が速記にとられ、後に公刊されました。」

そのニューヨーク州商業會議所の演説は四月五日であつたが、それより二十四時間前、すなはち四月四日に、ウィルソン大統領は議會に對して、ドイツ帝國の行動により、ドイツ、合衆國間に戰爭状態が存在する旨の宣言をなさんことを要求した。

デンマン船舶局長は、商業會議所會頭イー・エチ・アウターブリッチの紹介の辭に次いで、一場の演説を試みたなかに、かういふことを述べた。

「太平洋沿岸出身のものは、木造船にはお馴染みであります。木造船は、大西洋においては、極めて最近まで海運界から退却してをりました。それには相當の理由があることで、すなはち、たとひ建造當時には通商上の價値が同一であるとしても、現在の木造船の造船術の下においては、木造船は到底鋼鐵船と競争できないのであります。木造船を使用する場合、維持費その他の経費が、鋼鐵價格の正常状態下における鋼鐵船との競争に、落伍せしめるのであります。しかしながら、この非常時に際し、わが商船噸數の増加を計るために着眼し得る唯一の資源は、森林であり、未組織の製材勞働力であり、鋼船造船所の下請けをやつてゐない小機械工場、小汽罐工場であります。大木造船隊といふ考へは、太平洋沿岸のわれわれが、久しい以前からいできてゐた考へであります。それは、地方の大山持ちが、あの莫大な森林資源を活用する方法を求めて

ゐたからであります。けれども、われわれにはひとつの危惧がありました。——それは、エンジンに關する懸念であります。そこでわれわれは、二月にこの仕事に着手して以來、これから造る型の木造船に使用するエンジンの製造促進策の細目を立案するのに、大部分の時間を費やしてまゐりました。それらの調査の結果、われわれは大統領及び國防委員會に對して、ゴータルス將軍のやうな人物を首班とする、適當な機關によれば、船舶局は、製鋼業に混亂を齎らすことなく、毎月二十萬噸前後の木造船を建造し得るであらうといふことと、そして、この状態に達する時期は、事業に着手してから七ヶ月乃至八ヶ月後であらう、といふことを報告することができました。その木造船は、大體重量噸三千噸乃至三千六百噸、時速は、大西洋横斷航路の安全な個所においては十ノット、危険水域にはひつてからは、十二ノットにしようといふ方針でありました。この型の木造船隊八百隻乃至一千隻を、十四ヶ月乃至十六ヶ月の期間内に所有し得ることは、可能の範圍内の問題であります。

聯合國の支配下にある鋼鐵船の供給力をもつてすれば、潛航艇が最高の破壊力を發揮したと假定しても、聯合國は、八ヶ月乃至十ヶ月以上の期間は、絶対に安全であると計算しました。もし聯合國が、その期間の終りに、鋼鐵船、木造船の建造量計が、潛航艇の破壊力を追ひ越し、或ひはそれと肩を並べることが確實であるとすれば、そのときこそ、戦争の有利な結果は確實なのであります。そこでわれわれは、船舶局の調査が全然無價値なものでない限り、船舶局は、適當な壓力の下において、毎月、まあ二十萬噸の割合をもつ

て増加する運輸機關を、十一月一日或ひはその前後の期日以後、聯合國に提供し得ることを期待してゐるのであります。【拍手】

この木造船は、戦後經濟的全損とはならないであらう。太平洋沿岸では、二十五年乃至三十五年の壽命を保つてをります。私は、業務上、船齡三十年以上の木造帆船、木造汽船を告訴しましたが、いづれも、まだ變質性貨物の運輸に従事してゐたものばかりであります。太平洋沿岸地方の木材は、極めて簡單な防腐法しか要りません。生な木材をもつてきて、それで船を造れるのです。しかもなほ、伐採後相當期間經つた材料、——勿論、われわれはその方を手にいれたいと思ひますが——さういふ乾燥した材料で造つた船と實質的に同一な、或ひは五パーセント以内しか劣らない船が得られるのであります。しかし、さういふ木造船の壽命が、戦後まで續くものとすれば、それは大して重要な問題ではありません。」

商業會議所會頭のアウターブリッツは、一九二三年六月の所報に次のやうに述べてゐる。

「デンマン氏は、その演説の冒頭において、鋼鐵船建造能力の擴充には言及せず、……船舶局の方針は、木造船を建造するにあると言明した。……この聲明は、會議所の海運業の友人の間に、文字通り驚愕を捲き起した。

午後の會議においては、それが船舶局の採用せる正式の計畫として聲明された後のことゝて、その人々の自由に意見を述べることを妨げ、困難ならしめた。

しかしながら、この困難にもかゝはらず、木造船建造に適當な材料と、勞力を得る見込なきこと、十分な大きさと速力をもつた木造汽船建造の實行不可能なことが、熱心に主張され、さらに、たとひ實行可能であるとしても、その種の船舶は、戦後の商船としては役に立つまいといふ意見が述べられた。討議は、午後いつばいから夜にまで及んだが、デンマンは、いさゝかも自分の意見を變へたらしい様子を見せなかつた。

かれは、その演説のなかで、「ゴータルス將軍のやうな人物を首班とする」木造船建造の機關云々と述べたほかに、まだ二度も將軍の名をあげてゐる。

「船舶局が立案した計畫は、國防委員會、陸海軍長官、多數の技術者及び大海運業者によつて承認されました。その技術者のなかには、特に、一週間ほど前に船舶局を訪ねられた、ゴータルス將軍も含まれてをります。ゴータルス將軍はそのとき、援助と助言を與へるやう申し出てをられるので、われわれは將軍の手腕を利用できるだらうと期待してをります。」

ゴータルス將軍の與へた承認の限度——將軍自ら述べてゐる——は、すでに明らかにされてゐる。かれがそのとき船舶局に對して、いかなる援助と助言を申し出たやうにみえたか、のみならず、實際に申し出たかは、三月二十七日から四月九日までの間に將軍とユースティスとの間に往復された、一聯の書信によつても明らかである。その手紙において、船舶局の「特別代理人」としてのユースティス氏は、ゴータルス將軍に對して、だれかいゝ造船技師を推薦してくれと頼み、ブラウンといふ技師のアドレスを知らせてくれたこと

に對して、禮をいつたりなどしてゐる。けれども、どの手紙にも、ゴータルスが船舶局の仕事をするといふやうなことは、全然書いてない、ユースティスは、その點については、すでに直接の消息に接してゐたのだ。かれは、その手紙に關して質問を受けたとき、自分は、將軍が助言してくれた人選に従ふことによつて、將軍と接觸を保ち、好意をつないでおいて、しまひには將軍を説得して、決心を變へさせようと思つてゐたのだと説明した。

さうかうする間に、ゴータルスには別の仕事ができてゐた。かれは三月二十九日に、ニュー・ジャージーの州技師の地位についた。そして、四月四日の水曜日に、他の技師たちと一緒に、州内の道路視察旅行の途に上つた。^(註)

(註) 第十七章參照

デンマン氏の公聴會における木造船問題に關する證言は、委員長が、この證言の後ほかの問題に移つたので、これが結びになつてゐる。

「それから一週間ほど後、私は大統領を訪問して、ゴータルス將軍を呼んで、船舶局の戦時船腹建造の仕事を手助けさせていたゞきたいと頼みました。そこで、大統領は將軍を呼び、ゴータルス將軍は船舶局に就任し、一切の鋼鐵船の建造を行いました。といはうか、建造し得る一切の鋼鐵船と一切の木造船の建造を開始し、着手したのであります。木造船問題に關する論争の噂が飛んだのは、それ以來のことです。……」

大統領からの招請については前觸れが行はれ、續いて、すこぶる効果的な發表が行はれた。ウィルソン大統領は四月九日、木造船一千隻を建造せんとする、船舶局の計畫を正式に裁可した。デンマン氏はその計畫に關して、「大西洋及び太平洋の造船所は、豫見し得ざる障害を突破して、十月までには、一日二隻乃至三隻の割合をもつて、新船を建造し得るにいたるであらう。……」と、相當樂觀的な聲明を行つた。それから二十四時間後、「大統領は、ゴータルス少將に、この木造船建造の總監督を委囑せんことを考慮しようであつた。」十一日には、ウィルソン大統領は本日ゴータルス少將に書翰を送り、右の事業の監督に當らんことを要請した云々の、極めて正確な記事が新聞に載つた。翌十二日には、ワシントンのだれかゞ、右計畫は「實際に完璧な」案であること、ゴータルスが任命されたことを聲明した。一方、トレントンの、新設の州道委員會の會議に列席してゐたゴータルスは、ニューヨークの事務所に電話をかけた結果、事務所には大統領からの書翰がきてゐないことがわかつたので、新聞記者に對しては、これ以上お話しするわけにはいかないと斷はつた。——「何なりと、國家に御奉公せよといふ命があれば、欣然お受けするだけです。」

その日遅くなつて、大統領からの書翰が着いた。これは、その當時、ウィルソン大統領からゴータルス將軍に送つた、五通の書翰の最初のものである。

歴史家の立場からいつても幸ひなことには、この書翰以下、他の一、二の書翰の内容について述べたゴータルスの言葉は、實際、大統領自身の用語に極めて近いものであつた。

かれは、例の口述筆記で語つてゐる。

「一九一七年四月二日、私は大統領からの書翰を受取つた。それには、大統領は最近、木造船隊を建造せんとする船舶局の勤告を承認したこと、この事業の遂行に當る機關の首班には、ぜひ貴下を煩はしたい意向であることを、船舶局から聞いてゐる旨を述べて、私とその地位につくことゝ、船舶局と直接連絡をとらんことを要請された。私は船舶局に對して、その週の土曜日、九時半から協議したい旨電請し、先方はそれを承諾した。」

レイモンド・ビー・スティヴンスは、その四月十四日土曜日の朝、船舶局の首脳部と會見する部屋の外の廊下を往つたりきたりしてゐる、ゴータルスの姿を鮮やかに記憶してゐる。

「將軍は時間前に船舶局に着いた。かつてみたことのないやうな、おつかない顔をした人である。かれは、たゞ睨め廻してゐた。が、ひよいと私の方をみたとき、私に對して怒つてゐたのではないといふことがわかつた。」

「私は大統領の手紙をもつて、デンマン、スティヴンス【七月二十四日、ホワイト氏辭任の後を襲つて、次長に就任】、ドナルド【船舶局理事】三人の前にでた。」と、ゴータルスは言葉を續けて、「デンマン氏は、殆んどフィラデルフィアのユースティス氏の主張の線に沿つて、計畫の概要を説明し、船舶局は、私とその衝に當つてくれることを熱心に希望してゐる旨を語られた。私は、フィラデルフィアでユースティス氏に話した、私が

その仕事に不適任であること、その地位を希望してゐないといふ心境を繰返して述べた。……私は、以前にも増して、就任を受諾したくない氣持になつた。……

私は、すこぶる面倒な立場におかれてゐることを發見した。自分は陸軍武官であるから、命令には従はねばならない。もし大統領から懸望された仕事は軍務であつたなら、受諾するほかはない。そこで、テュマルティー氏に電報を打つて、大統領との會見を求め、その機會が與へられるならば、直接大統領に事情を述べたいといつてやつた。その日は、それだけで辭去した。

私は、テュマルティー氏に會ふために、ホワイト・ハウスにいつた。氏のいはれることには、……大統領はお目にかゝれない、しかし、私はその任につくことを期待する、それは、私は命令服従の地位にあり、大統領は、この仕事を私の戦時任務とするに決定したからだといふことであつた。そこで、私はデンマンを訪ね、自分が窮境に立たされてゐることを知つた事情を述べ、そこで、自分がその衝に當らねばならなくなつたについては、何等かの取極めを行つて、その建造事業の關する限り、デンマン氏からも局からも干渉を受けることなく、事業を遂行し得る全權限を與へて貰はねばならないといつた。それからかれは、法律に基づく會社を設立して、お役所につきもの面倒な手續や、財務省への報告などを抜きにして、商事會社の普通の商行爲と同じやうに仕事ができるやうな組織にしたい、といふ問題を論じてゐた。その會社は、非常商船隊會社と命名されることになつてゐた。法律の條規によつて、船舶局長は新會社の總裁を、船舶局理事はそ

の理事を兼ねることになつてゐた。その計畫が大統領の承認を受けたとき、支配的權限を一人の人間に集中する方針が考慮され、非常商船隊會社法の細則において、總支配人を任命による職と規定することに決定した。總支配人は同時に、實行委員會の委員長を兼任し、理事會の會議は年一回開會することになつた。會社の定款は起草された。私は理事、總支配人兼實行委員會委員長に就任し、他の二名の實行委員を任命する權限を付與された。」

ゴータルスは、四月十九日ニューヨークから、令息ジョージ宛の手紙を書いた。——ジョージも今では、ウェスト・ポイントの實用軍事工學教官といふ、昔の父と同じ地位にあつた。

「造船の仕事は、その主張者や提案者などの考へてゐるより、すつと大きな仕事だ。だから、私は、自分の氣乗りしてゐない木造船の建造計畫においては、できれば、その若干を鋼鐵船に變更しようといふ提唱をはじめてゐる。たゞ厄介なことは、何によらず仕事を實行させ、或ひは決定させることが困難なのだ。

私がワシントンにいつたとき、空氣はまだ熱してゐることを發見したが、船舶局の方針に對する私の意見を述べた結果、熱度はいよいよ昂まつた。かれらは私の意見を聞いて、私が自分らの下に、或ひは自分らとともに働らけないのだらうと推察した。私は、かれらの抽き出した結論の正しいことを確言した。私は、全然新たにスタートした方がいよといふ考へであつた。その結果は、別個の會社が設立され、私がおの方を引受けた。かれらは、即時政府の許可を得るつもりであつた。私は、會社が設立されるまでは留任するといつ

た。勿論、何の手續もとられない。そこで、私は月曜の午後裏面工作に着手し、火曜日には會社設立に成功した。

私は、何等計畫もなければ、事務所の組織もできてゐない、單なる口だけの話だといふことがわかつた。適任な人間を知つてゐたので、それを事務主任(註一)に任命して、事務所の仕事を開始させることにした。ある海軍の造船技師を日曜に呼んで、設計、仕様書、材料の書出しを作らせた。ある辯護士(註二)を雇つて、會社の契約書の雛形を作らせ、そのほかいろいろの仕事を進めてゐた。私は、朝の八時から晩の七時まで仕事に没頭してをり、——日曜日には、四時に切上げたが——だれにも面會せず、船のこと以外なんにも念頭になかつた。」

(註一) フィラデルフィアのジョージ・イー・オラー氏

(註二) ニューヨークのジー・エチ・サヴェージ氏

その日、ゴータルスは、十一日附の大統領の書翰を受取り、大統領の希望に副ふべき旨を回答した。その返事の手紙に、ゴータルスはかう書いた。

「今日までこの問題を研究してきた結果、私は、木造船の大量建造の速度について、船舶局のいだいてゐる樂觀的見解が果して實現され得るかどうか、疑ひなきを得ません。その可能性は、恐らく、今日の實情の許す以上に有望に、閣下に報告されてゐるものと思はれますので、それに對する私の意見を閣下に具陳いた

すべきものと存じます。同時に、任務の遂行、及び最善にしてもつとも迅速なる成果の達成に對し、及ぶ限りの一切の努力を傾注すべきことを誓言いたします。」

四月二十五日に、ゴータルスは、デンマンに次の覺書を送つた。

「十八ヶ月の期間に、一千隻の木造船を供給する計畫は、實行不可能である。故に、木造船隊の隻数を鋼鐵船によつて増加する必要が起つてきたが、鋼鐵が入手できれば、その計畫は實行可能である。私は製鋼會社のファレル氏より、かういふ助言を受けた。すなはち、その計畫實行の線に沿つた行政命令が發せられれば、合衆國船舶局非常商船隊會社の建造する船舶に必要な鋼材は、現在の建艦計畫(註)に全然支障を及ぼすことなく供給を確保し得るといふのである。もしそれが可能であるとすれば、木造船の代りに鋼鐵船を建造する方が得策であるといふ事實に、貴下の注意を促す必要はないわけである。私は、決定された線に沿つて、仕事の進捗を計るため、でき得る限り速やかに、行政命令の發令を確保すべき手續をとられんことを勸告する。」

(註) ダニエルス海軍長官は、一九一七年三月十四日、大巡洋戰艦五隻及び多數の輕巡洋艦、驅逐艦の即時建造を聲明したが、そのために、すでに手いつばいのアメリカ民間造船所は、一層繁忙を増さざるを得なかつた。

「會社が、直接の使用に充てる、自由運用を認められた資金を所有する必要があり、さらに、追加資金を獲得すべき手續をとる必要がある。もし、木造船と同時に鋼鐵船の建造をもなすべきものとすれば、私は五

億ドルの経費を獲得すべきことを提案する。これに關聯して、木造船建造の經驗を有する、英國海軍省のカナダ代表より得た助言によれば、噸當り平均單價一三五ドル、最高單價一四七ドルであつたといふ事實は、注目すべきであらう。この計算に従へば、パナマ運河公債の賣却によつて得られる五千萬ドルに、二億五千萬ドルを加へた豫算では、たとひ木造船の建造が可能であるとしても、必要額に満たないであらう。」

この覺書に同封された行政命令は、アメリカの法域内にある、一切の造船所の建造する全船腹の處分權を、國家に與へることを規定してゐる。が、それはつひに署名されなかつた。

ウィルソン大統領は四月二十七日に、十一日附のゴータルスの手紙に答へて、その率直さに感謝し、いづぞや、共通の友人であるハウス大佐を通じて、將軍の意見を一層詳細に知る喜びを得た旨書き送つた。

ゴータルスはその日、ニューヨーク造船會社のジョージ・ジー・ボードウィン宛に、次の手紙を認めた。「私は、貴下が木造船について申されたことを、十分尊重してをります。私は木造船に賛成ではありませんが、命令があつたので、建造に従事してゐる次第です。私は現在、それを鋼鐵船に變更せんとする努力を試みてをり、船舶局をしてその計畫を達成せしめる、行政命令の私案を送付しておきました。船舶局において、その發令を確保するに必要な行動をとらんことを希望してをりますが、未だにその行動はとられてをりません。」

「先週ははなはだ困難な週であつた。が、やつと經過してしまつたので、喜こんでゐる。」かれは、二十九

日のジョージ宛の手紙にいつてゐる。「次の週も、同様に惡戰苦闘だらうと豫想してゐるが、漸次事態を軌道に乗せつゝあるから、もうすこし揉めば、船舶局も干渉できなくなつてしまふだらう。理事のあるものが、私に相談なしに、サヴァンナにある會社と、もうひとつジョージア州フランスウィックの會社に、非常商船隊會社が支拂をなすべき船舶の建造を、事前に開始する許可を與へたといふ、意外な事實が突發した。その事實を聞いたとき、私は跳び上るほどびびりして、命令を取消したが、當然ゴタゴタが起つた。私は一同の前で、地峽に勧めたわたラドケ氏にむかつて、君は、私のO・Kを得なければ、どんな指令も事務所からだしてはいけない、といふ私の命令を受けてゐるのだといひ、他のだれでも、電報や手紙に署名する場合には、この命令に従ふ必要があると申し渡した。それに對して反對するものがあつたが、私は、諸君が私を免職するか、後任者を得るまでは、命令に従はねばならないのだと申し渡した。

ウッドがやつてきた。かれは、無報酬で私を援助するといつてきてゐたのだが、未だにこつちから消息がないものだから、やつてきて私に會ひたかつたのだ。かれは、後で働かせることにしよう。私が現在望んでゐるのは監査役である。その人を得ることは困難らしい。といふのは、私の望んでゐるのは、全國に互る會計制度を樹て得る大物だからだ。細かい問題の大部分を、その監査役に持ち込まずに済ませるために、多數の方係員をおかうとしてゐる。地方における支拂があるだらうから、立派な會計制度がほしい。朝早くから夜遅くまで、骨の折れる研ぎ仕事はつかりだ。で、私は、しよつちう鼻先を砥石の方へもつていつてゐ

る。……」

(註) ウェスト・ポイント士官學校におけるゴータルスの生徒の一人アール・イー・ウッド准將、ゴータルス時代の地峽運河委員会の補給局長、後にゴータルスの後任として陸軍兵站總監代理となる。

次男のトムは、名醫カッシング博士の指揮する、マサチュセッツ病院本隊附として出征することになったが、過勞に悩まされてゐる三人の軍醫の、こんがらかつた三人三様の處置が面倒な手續問題に絡んで、危うく機會を逸するところであつた。

「これはあまりひどい。」二人の父は、五月四日ジョージ宛に書き送つた。「で、私は赤十字社にいつて、キーンに書類を貰ひ、それをノープルにもつていつて證明させ、さらにそれをマッケインに提出したところ、受理して、早速辭令を下さうといつた。——ベーカー氏の秘書に頼んで、辭令書が廻つて來次第、長官に署名して貰ふやうに話をつけた。きのふ戻つたが、辭令書がきたので、トムに書留で送つた。何事でも纏めたいと思ふときは、自分でやれ、といふことを生涯忘れぬやうに。

私自身の仕事は、未だかつて經驗したことのない、非常に骨の折れる仕事だ。しかも、木材をもつてゐるトム、ディック、ハリーの三人に對して、買上の豫約が與へてあるために、非常なハンディキャップを背負はされてゐる。また設計ができてゐない。船舶局に、木造船と同時に、鋼鐵船建造の許可をとらせようとしてゐるが、それができない。何か仕事をやれるだけの金を要求してゐるのだが、かれらはその豫算を提出せ

ず、毎日々々、あした提出するばかりいつてゐる。——そのあしたは、いつになつてもこないし、豫算も決らない。私は、製鋼業者を鋼材入手のために、代議士を豫算獲得のために動員した。設計はまだ完成はしてゐないが、進んではゐる。私は、たゞ椅子にかけて、煙草を吹かしながら、朝の八時半から夜の七時まで、ひつきりなしに押掛けてくる訪問者の流れに對して、なぜ何もできないかといふ理由を説明しようとしてゐる。……全事態を通じての唯一の光明は、ぜひ成功させるやう助力したいといつて、商人その他から申し出てくれる支持である。木造船と並行して、鋼鐵船を建造する権限と、その經費が得られさへすれば、仕事に活をいれることができるのだが、しかし、困難はそこに存するのだ。大統領は私に會つてくれないだらう。だから、私はテッディー、【セオドル・ルーズヴェルトの愛稱】と行動を愛慕するのだ。

テッディーが、その義勇師團を編成し得るかどうか疑問だ。それは、私の會つた人々が、ウィルソンはかれの出征を許可しないだらうといつてゐるからだ。トムは確かに出征できるだらう。私は、かれが機會を握つたことを羨やんでゐる。」

(註) ゴータルス將軍の長男ジョージは、義勇師團に關して、ルーズヴェルト大佐【元大統領ルーズヴェルトは、南北戦争時代の大佐】と協議し、師團編成の認可があつた場合には、部隊長に任命するといふ確約を得てゐた。

マサチュセッツ病院本隊は、その年五月十一日、キューナード・ラインのサクソニア號で、ニューヨークを出帆した。これは、兵種の如何を問はず、フランスにむかつたアメリカ軍の二番目の部隊である。第一陣は、

クリーヴランドのクリル病院隊である。

(註) マサチューセッツ病院本隊は、フランスに到着後、英國遠征軍に配属され、早速英軍の第五基地病院として有名になった。

「デンマン氏と私は、きのふの朝、三時間に互る上院豫算委員会の會議に出席した。」ゴータルスの十三日附の手紙である。「私は、あらゆる橋梁製作工場を徴發し、あらゆる非軍事的鐵工所の事業を停止せしめ、鋼鐵の全生産量を引受けるといふかれの案、その他の……提案(註一)に關して、かれと協力することを拒絶した。また、十億ドルを要するといふ意見にも同意しないし、自分はそんな額を要求もしない。われわれの間に摩擦があるといふ新聞報道を否認する、共同聲明を新聞にだすことも拒絶した。その理由は、私は新聞記事の内容を意に介しないし、かつ、紙上の論争に頭を突込むといふ、これまで一度もやつた例のないことを、今更やりたくはなかつたからだ。われわれが委員會に出席したときは、さういふ關係にあつた。そして、委員會から引揚げたとき、私は、三億ドルの契約權と、二億ドルの建造費支出の約束を得てゐた。——この三億ドルといふのは、現在建造ちうの鋼鐵船引受に充當する追加豫算である。それから、船舶局によつて造船所を徴發する法案の起草を委嘱された。……私は辯護士(註二)にその起草を依頼し、造船所の監督權を握るやうにした。われわれ兩名は、あす午前、また委員會に出席することになつてゐるので、デンマン氏は、ワシントンの議會にでかけていつた。かれは、造船所の監督權を私の手におくことに反對した。——船舶局の權限に

すべきだといふのだ。かれが委員會で言明した通り、もし私が、造船關係において獨斷專行を許されるものとすれば、これは純然たる造船關係事項であるから、それに同意することはできないし、變更を考慮するわけにもいかない。私の起草した法案通りしておくべきである。が、かれはあした委員會で、自分の意見を主張することになつてゐる。——そして、私も同様、議論の準備をしておいたが、いまだらうといつた。私は、議論をするつもりはないが、單に、どうあるべきものかといふことを、委員會で述べるつもりだと語つた。どんな結果になるか、それはこれからの問題だ。私は、鋼鐵船の先頭に立つて進んできた。」

(註一) デンマン氏は、先に述べたニューヨークの公聴會で、船舶局は三月五日議會に書翰を送り、船舶局の命によつて、高層ビルディングの建築、橋梁建築、その他一切の形式の非軍事的鋼使用工業を停止し得る立法を要求したと證言した。

(註二) ジョセフ・ビー・コットン氏、後に國務次官となる。

「私は仕事に不満であつたので、その理由を述べて、辭職しようと思つて考へた。きのふは、今までより事態が有望らしかつたので、事務所の組織に没頭することに決心した。ダニエルス海軍長官を訪ねて、約束通りルソーをくれと頼み、それからベイカーを訪ねて、これも約束のウッドを、購買部長に貰ひたいと頼んだ。この二人が揃へば、今周圍にゴロゴロしてゐる、船舶局の役に立たぬ材木を、いくらか取り除けるだらう。設計と仕様書ができたから、今週は前進の準備ができ上るだらう。」

「きのふ、マルチン上院議員^(註)の訪問を受けた。」これは、三月二十日附のゴータルスの手紙である。「そして、造船所の監督権を私の手におく法案は、委員会の報告通り可決された旨知らせてくれた。大統領がこれを船舶局に送付し、それから私の手に廻付されることは確かになつた。それが手にいりさへすれば、萬事〇・Kだ。萬一それができなければ、一切の仕事を放りだすばかりだ。」

(註) 上院の多数黨民主黨の領袖で、非常に有力な人物。

辭職のしらせのちやうど二ヶ月前に書かれた、かういふ文言は、鋭い洞察力をもつて、ことの成行きを臆はせてゐる。

「鋼鐵船建造計畫に着手する準備として、ニューヨークにでかけていつて、こちらの鋼の價格を決定したいと思つてゐたが、トムのこと^(註)がひつかゝつてゐるので、でかけかねてゐた。……現在の豫定では、木曜の晩に出發して、しばらく滞在しようと思つてゐる。土曜の晩には、アメリカ鐵鋼協會から晩餐に招待されてゐる。……」

ゴータルスは、演説することは豫期してゐなかつたが、司會者ゲイリー判事に促がされて起ち上つた。

「強制兵籍編入徵募の原則に基づいて、私はふたゝび政府の仕事に召し出されました。造船技師でない私が、なぜ選任せられたか、その理由は存じません。私は、十八ヶ間に、一千隻の三千噸級木造船を建造しようといふ案にでつくはしました。船舶局が木造船案にむかつたのは、鋼の入手が不可能だからであり、かつ

たとひ入手できましても、木造船は鋼鐵船より短期間に建造され得るからであります。私は、木造船建造契約の約束が、あらゆる方面に與へられてゐることを發見しました。然るに、かれらが建造しようとしてゐる船の設計、仕様書の問題を調べてみたところが、何もできてゐないので、船になるべき樹には、今鳥が巢を作つてゐるのです。潜航艇の發射する魚雷を逃れ、或ひは逃れる機會をものにし得るためには、この木造船は十ノット半を下らざる速力をもち、必要に応じて十一ノットにスピード・アップできなければなりません。諸君がさういふ事實に想到されるとき、この案は、端的に實現の見込がないやうに思はれるのであります。私は、機會ある毎に、自分の意見を表明するに躊躇しませんでした。しかし、意見を述べる前に、友人のファレル氏を訪ねて、事情をお話いたし、木造船と並行して、鋼鐵船を建造することはできないものだらうかとお訊ねしました。氏は、できますと請け合はれました。私はその言明に基づき、私が擔當を命ぜられた案の實行不可能を聲明して、木造船と同時に、鋼鐵船建造の許可を求めました。そして、つひにその許可を得るに成功いたしました。

パナマ運河公債賣却によつて得られる五千萬ドルが、船舶局の經費に充てられることになつてをりました。その當時は、その公債賣却の手段が講ぜられてをりませんでした。世のなかのすべての問題と同様、船を造るにしても、先立つものは金であります。そこで、私は經費獲得の運動を開始しました。そして、私は、しばしば申してゐるやうに、あらゆる委員會組織を、長い、狭い、木造だとみてゐるので、【笑聲と拍手起る】

かつあらゆる事業における絶対権といふものゝ熱心な信者でありましたので、私は金と権限とを要求したのであります。

その金と権限とは、今下院豫算委員会で討議されてをりますが、委員会は、多分十日乃至二週間のうちに、金はできるだらうと約束されました。

ファレル氏との最初の會談に續いて、二度目の會談をいたしました。そのとき氏は、もし私が鋼鐵船計畫に着手するならば、私を支持して、計畫を實現させようと約束されました。さういふ保證を得た私は、議會兩院の委員會に出席して、十八ヶ月間に三百萬噸の船舶を建造するやう努力すると言明しました。「拍手」われわれがこれから建造する船は、潜航艇の厄さへ免かれれば、最後にはアメリカ商船隊の一部分をなすべきものであることを考へれば、でき得る限り、鋼鐵船でなければならぬのであります。私はこの席より、貴協會がファレル氏を支持せられ、あのお約束を實現させて、私を御援助下さるやうお願いいたす次第であります。造船所は手いづばいでありませぬ。私は、目下建造ちうの船舶の竣工をスピード・アップし、造船所に對して、われわれの發註以外の船舶を建造させぬやうにする、立法を要求しておきました。いよいよこの計畫に着手するとなれば、造船所以外に對しても、別個の手段を發見せねばなりません。で、私は、製鋼業者各位の御協力と御援助とを確保して、組立て船のほかに、できるだけ多數の製作船建造に邁進したいと存じます。私はさらに、もつと廣汎な手段を講じたいと思つてをります。機械の製作者、錨鎖と錨の、

鋼線の製造業者、實際、完全な船を造るに必要な、一切の業者の協力を得なければなりません。この大戦に勝利を得るものは船だ、といふロイド・ジョージの言葉が眞實であるとすれば、完全な船舶の建造に助力するものはすべて、戦争を終結させることに助力してゐるのであります。

(註) アメリカ鐵鋼協會年鑑一九一七年版、二〇八—二一〇頁

この演説は廣く、——かならずしも正確ではなかつたが——各地の新聞に掲載された。まだ鳥が巢を作つてゐる樹といふ言葉を面白いと思つたダブリュー・エー・ロジャースは、「ニューヨーク・ヘラルド」紙に愉快な漫畫をかいた。題して、「小鳥が將軍にさゝやくことに」といふ。樹上に巢を作つた小鳥が、軍服姿の將軍に、「鋼鐵船を造れ！」とさゝやいてゐる。そして説明に、「かれらが木造船を造らうとしてゐる樹には、まだ鳥が巢を作つてゐる」ゴータルス」と書いてある。ゴータルスは、畫家に頼んで、その原畫を貰ひ受けた。

「ケンタッキー選出のシャリー代議士が、けさ訪ねてきて、新聞に私の意見が間違つて傳へられてゐるのは、どういふ點かとたづねられた。」二十八日附、ジョージ宛のゴータルスの手紙である。「それで、私は重要な點二つだといつた。そのひとつは、新聞は、木造船は見込がないと書いた。その二は、木造船のかはりに鋼鐵船を造ることになつたと報じた。第一の點については、私が當面させられてゐることを知つた、その仕事は見込がないといつたのだ。第二の點は、鋼鐵と木材とを使ふことになつたと述べたのだ。それ以外

の一切の點は、私の責任だと語つた。……新聞記者が會見を求めて、續々押掛けてきたことはいふまでもないが、私はその連中のだれとも口を利きたくなかつた。水路委員のチェンバレン氏のほか、一、二人の人が訪ねてきて、私の演説に祝意を表された。ブロンソン提督は、あゝいふ演説をやつた私の勇氣に感謝し、同様の地位にあるもつと多くの人々が、同様の勇氣を發揮せんことを望まれた。バーニー・バルックも祝つてくれ、自分は社會的尊敬を受ける地位にあるのだから、同様の勇氣が發揮できればいゝと語つた。私は、今日までその説明を求められてゐないし、こちらから申込んでおいたデンマン氏との會見も實現してゐない。……それにしても、私はいさゝか失望させられた。

カリフォルニア選出の上院議員ジョンソン氏が、けふ午後遅く來訪され、自分の友人を、あした私に會はせよこしたいといはれた。この友人といふのは非常な木材の専門家で、樹にはまだ鳥が巢を作つてゐるといふ私の言葉を確認し、私と握手したいといはれた。とにかく、私はあの演説によつて何ももの失はず、それによつて事態を明らかならしめたわけだ。」

デンマンは五年二十七日、かういふステートメントを新聞に發表した。

「いかなる人も、また利害關係を有するいかなる資本家の集團も、われわれのなかの何人をも、ゴータルス將軍との論争に引入れることができないし、また將軍がさうしようとしてゐると思はない。十八ヶ月間に建造し得る、一切の船舶が建造されたとしても、——たとひ、ドイツの擊沈率が四月のレコードの半分に

低下したとしても、アメリカ商船の船腹不足の補充として、一千隻の木造船の必要なることは、依然として變らないであらう。私は、一千隻の木造船が十八ヶ月間に建造され得るかどうかは知らない。やれるといふ期待は表明されてゐる。私は、この期待實現の可能性を否定することは、慎重に避けてきた。私がそれを否定しない理由は、ベルリンの敵に對して、それに匹敵する氣樂さを與へたくないからである。ドイツ人に對しては、ゴータルス將軍も同意見だといへるだらう。ゴータルス將軍と船舶局との間に、意見の扞格の存することを明らかならしめんとする一切の企圖は、ドイツの安心を増大せしめるものである。

われわれは、造船に關する政策問題を論ずべき場所は、議會の委員會であつて、製鋼トラストの巨頭との公開的な晩餐會の席上ではないと信ずる。」

このステートメントが、その日のワシントンの夕刊新聞に發表された。

ゴータルスは、五月二十八日附の手紙において、その前日の出來事をかう語つてゐる。

「デンマンは、私に會ひたいといふサン・フランシスコの人間を同道して、十一時頃やつてきた。そして、その客の商賣を説明したゞけで歸つていつた。かれの訪問には、それ以上のことは何もなかつた。然るに、夕刊には、われわれ兩名は意見の相違を解決したとでゝゐた!! 私に會見を求めて、新聞記者が押掛けてきたことは勿論だが、私はだれとも話をしなかつた。」

「木曜日【五月三十一日】に大統領に面會した。」——六月四日附ジョージ宛の手紙——「そして、若干の懸案

について報告した。——しかし、大統領は何の答へも與へず、私の演説には全然觸れなかつた。船舶局は、個人的にも集團的にも、私を全然の獨りぼつちにしてしまった。立法は、暗礁に擱り上げて見込ないらしく、上院は私が監督権を握るべきことを固執してゐる。私はアンダーウッド上院議員に面接し、その主張を撤回して、全問題を大統領の手に委ね、大統領の適當とみなす人物乃至機關に権限を付與せしめるといふ、下院の條項を受諾されんことを乞うた。上院としては、私に権限を付與することを、大統領への委任事項とすることはできない。もしその條項が議會を通過した後、大統領が私に権限を付與しなかつたとしたら、私としては到底我慢のできぬ、ビンタを喰はされるわけだ、といふのが氏の意見である。」

その後大統領は、木造船計畫を支持する、ステートメントを發表しようといふ案をもちだした。

一九一七年のはじめ、エフ・イー・ユースティスははじめてワシントンについたとき、これまた木造船の熱心な信者である、エフ・ハンティントン・クラークといふ若い技師に會つた。その父の、コロンビア大學經濟學部教授ジョン・ベイツ・クラーク博士は、ウィルソン大統領多年の親友であつた。クラーク技師からユースティス氏に宛てた、一九一九年十一月十六日附の手紙には、ゴータルスが大統領と會談した六日後に、ホワイト・ハウスにどんなシーンが展開されたかを語り、さらに、事ここゝにいたるまでの事實に批判を加へてゐる。——

「ゴータルス將軍がワシントンに到着して以來、私は何度も話をした。……かれの質問に答へて、非常時

に役に立つ木造船は建造し得ると信ずるといつたところが、將軍は、自分はそれを信じ得ないから、この任務は君が引受けるべきだといつた。

かれは、貴下及びデンマン氏の承認の下に、私から許可の指令を發し、すでに建造工事に着手してゐた、多數の造船所に對して通告を發し、検査官の任命、配置をみるまで、一切の工事を中止すべきことを命じたが、これが、かれの態度の最初の結果であつた。非常な窮境に陥つた造船業者らは、陳情のためにワシントンにやつてきた。工事が中止されるとなれば、職工は手放してしまはねばならず、違約金のために、造船所は潰れてしまふほかないからだ。そのうちの二、三人は、ゴータルス將軍が、貴下と私は契約に參與する権限がないといつたと語つた。この問題のもつとも重大な面は、ごく少數しかない、アメリカの熟練造船工が、離散せんとしてゐるといふ事實である。

問題がかういふ状態にあるとき、ゴータルス・デンマン論争はその頂點に達した。兩者の主力は、明らかに局面の指導権獲得に集中された。この間、多數の實力ある請負人が造船の引受を申込んできたが、その申込ば全然審議されず、多くの造船所では工事が中止され、乃至中止に近い状態に陥つた。

そのころ、英國使節團がワシントンにやつてきたが、そのなかの一人が、——確かロイド・ジョージ氏の秘書だつたと思ふが——私の事務所を訪ねてきて、工事の監督に當つてゐる技師を訪問して、現在の工事状態の詳細を調べてくるやうにと、ロイド・ジョージ氏から命令されてきたと語つた。それは、使節團がデン

マン、ゴータルス兩氏と會見して、^(註)工事は迅速に進捗ちうだと保證を受けたばかりのときだつた。私はありのまゝの話をブチまけたが、それと同時に、かれは、まだ發表されてゐない、非常に驚ろくべき、潜航艇による撃沈件数の數字をくれた。私は、これからの使節團と大統領との會談に際して、大統領はこの問題の真相をお話するだらうといつたが、後になつて、その通りであつたことを知つた。」

(註) 「ワシントン電報五月二十一日發——バルフォア氏は本日、……デンマン局長及びゴータルス將軍と、船舶問題の現状について論議した」——「ニューヨーク・タイムズ」紙、五月二十二日。

「多數の造船業者が死物狂ひになつて、私の役所に押掛けてきた。それは、ゴータルス將軍から、政府關係以外の仕事をやつてはいけないといふ警告を受け、かれらが準備してゐた仕事は中止させられたからだ。私は、なんとか善後策を講ぜねばならないと思つた。たまたま拙父がワシントンにいつてゐたが、大統領に會つたらよからうといつてきた。そこで、拙父と一緒に會ふ約束ができて、長時間に亙り、その問題について話し合つた。私は、右に述べた経緯の概略を話した。ウィルソン大統領は、その事實は承知してをり、深い關心をもつてゐると語り、ゴータルスとデンマンの喧嘩にはまったく愛想が盡きて、二人とも罷めさせてしまはうかとも考へてゐるといふこと、ゴータルス將軍は議會で非常に有力であり、非常に強力な社會的支柱をもつてゐること、國民は、ゴータルスが監督に當つてゐるのだから、船は最大スピードで建造されてゐるものと信じてゐること、それからさらに、議會と國民に對して相當の理由を明示せず、ゴータルス將軍

を罷免するとすれば、ゴータルス・デンマン論争に乗ずる政略的措置だと評されるであらうと語られた。それから大統領は、私が述べた問題の真相を、貴下と私で、できるだけ廣く發表して貰へまいかといはれた。それに對して、われわれは即時辭職して、お話を發表しませうと答へた。ところが、大統領の考へは、われわれがまだ非常商船隊會社と關係をもつてゐるうちに、聲明を發表した方が一層效果的だらうといふのだ。で、われわれは、早速翌日新聞記者を呼んで、聲明發表を行ひ、それが廣く各紙に掲載された。^(註)

(註) 六月八日の各紙に、六月七日發表の聲明として掲載された。それによれば、ホワイト・ハウス會談は六月六日に當るわけである。

「この聲明の目的は、第一に、船造が遅延すれば、敗戦の可能性あることを知らしめ、國民をして、迅速なる船舶建船の焦眉の急であることに目醒めしめること、第二に、建造は、すこしもこの緊急の必要に應じ得るやうな速度をもつて進行してゐない、といふ事實を國民に認識させるにあつた。われわれは、かういふ事實を公にすることによつて、國民の感情が、工事のスピード・アップを計らんとする、大統領の行動を支持せんことを期待したのだ。」

だから、この行動の責任とその結果は、ウィルソン大統領が負ふべきものである。この二人の部下が、眞實に愛國的動機に動かされた結果であること、一身を犠牲にして、大統領と國家のために盡してゐるのだ、といふ信念をいだいてゐたことについては疑ひがない。クラーク、ユースティス兩氏は、ウィルソン大統領

の靈に對する敬意から、十二年間沈黙を守つてきた。ユースティス氏は、いつかゴータルス將軍を訪ねて、自分の立場を明らかにしたいと思つてゐたが、その機會はあまり遷延し過ぎた。かれがその所志を果さないうちに、將軍は逝去してしまつたのだ。クラーク氏は一九一七年の七月に、その問題の経緯を全部ある人に打ち明け、話を聞いた人間は、早速將軍の個人秘書メイにその内容を傳へた。メイが執筆して、七月二十七日にゴータルス將軍に渡した覺書は、將軍が何も書入れをせず、そのまま保存されたが、問題の経緯を容易に知り得る手引になつた。

ユースティス、クラーク兩氏の共同聲明は、翌朝の新聞の第一面に大きく取扱はれた。「造船計畫を繞る衝突は清算され、ゴータルス將軍は、制肘を受けずに自己の政策に邁進し得るやうになり、今後異議なく、鋼鐵船が計畫の骨子になるのだといふ一船的印象が、局外者の間に有力であつた。」^(註)

(註) 「ニューヨーク・タイムズ」紙、一九一七年六月八日

七月四日、國防委員會諮問委員會の木材委員會が、非常商船隊會社が最初の十八ヶ月間に建造すべき木造貨物船の隻数を、二百五十隻と決定した旨の正式發表が行はれてゐた。ゴータルス將軍が議會の委員會におして、木造船計畫は約二百隻に縮少されるだらう、と言明した旨の報道も新聞に現はれた。

「木造船計畫は、原案の約五分の一に縮少された。」クラークは、その聲明でいつてゐる。「明らかに、鋼鐵船建造の餘裕を作るためである。鋼鐵船の建造にいさゝかの支障も來すことなく、現在考慮されてゐる

よりも、二百萬噸だけ多くの木造船を建造することができる。……期間ちうには、極めて少數の鋼鐵船しか建造され得ない。……鋼材による製作船の設計は優秀なものであり、成功を収めるであらう。しかし、それは新らしい設計であり、施工に移つた場合には、豫期しない遅延に遭遇するであらう。それに反して、木造船は人間文明とともに古い歴史を有し、建造に關して不確實な點がない。……標準設計は工事が困難であり、高率の熟練船大工、巨材及び多量の手工勞働が必要である。」

その標準設計は、フェリスの選定したホック型で、かれは、うち數隻の建造を、その型の創始者たるホック海軍大佐の直接監督の下におくことに同意した。クラークは、ホック型帆船と原價加算契約とを辯護して、かう結論した。「われわれは、この擧沈と建造の競争に臨んで、わが貨物船の建造量を増大するいかなる材料、いかなる設計をも、看過することを許し得ない。」

ユースティスは、一年以内に木造船四九六隻、一年半以内に七八六隻を完成させると約束した、請負人のリストを發表した。そして、その聲明の最後に、かう述べた。「全然この請負人以外に、さらに數百隻の建造能力をもつた請負人が、大西、太平兩洋岸に約七十五人ある。國家として、どの程度にこの非常建造を實施すべきかといふ問題は残つてゐる。私は、非常商船隊會社がいかなる行動をとるかについては知らない。國家は、可能性の程度を認識しておくべきである。」

デンマンは、「ユースティス・クラーク聲明については、新聞記者からみせられるまで、一向知らなかつ

たと断言した。そして、その責任を全然兩氏に負はせ、木造船、鋼鐵船の建造計畫の責任は、ゴータルス將軍に負はせた。そして、將軍は、非常船隊會社總支配人に任命されたとき、完全な全權を付與されてゐるのだから、船舶局からいかなる妨害も受けるはづがなく、實際に何等の妨害を受けなかつたと語つた。^(註)

(註) 前掲「ニューヨーク・タイムズ」紙所載

ゴータルスの反撃は、六月十日附の手紙に現はれてゐる。

「別な意見の衝突が鼻がついて、消滅してしまつた。……木曜日の六時ちよつと前、大勢のものがメイの部屋で、私に面會させると呶鳴つてゐる聲が聞え、いけないと断はつてゐるメイの聲が聞えた、その騒ぎが納まつた後、ユースティスとクラークが、私に對する攻撃の聲明を發表したことを、メイが知らせてきた。交換手が、邪魔をしないやうにといつてゐるのに肯かないものだから、二時過ぎまで、ちよつとの間しか眠れなかつた。翌る朝の新聞で、その聲明とかれらの談話を讀んだ。新聞記者は、一言も話さないといつて断はつたが、事務所にいつてから、デンマン氏宛に覺書を送つた。それは、本人か、或ひはだれか犯罪者の一人によつて公表され、全文が新聞に載つたから、御身も讀んだことであらう。」

ゴータルスは、その「犯罪者」を動かした動機を全然知らずに、デンマンにかう通知した。――

「兩氏の本機關における效用は終つた。ユースティス氏は、貴下の提言に基づいて任用され、責任ある地位を與へられた。その任務の實行よりは、新聞に發表された聲明が語つてゐる。事情かくの如くであるから、

非常商船隊會社實行委員たるユースティス氏の辭任を許容し、その任務を免するつもりである。……これは會社における雇傭關係に適用されるものであり、船舶局代理人の兼職に關係なきことは勿論である。クラーク氏は、同一の理由により、罷免されるものとする。」

船舶局がユースティスを任用したといふ事實は、ゴータルスとしては勿論、船舶局が自分の辭職を強要せんとしてゐる證據と睨んでゐた。そして、令息への手紙に、「自分が不適格外交官【駐在國の受けの悪い外交官】であることは承知してゐる。が、いろいろやつてみても、私を追ひ出せない。かれらは私を敵首にする勇氣がなく、いろいろと事を構へるが、私の方では辭める氣がない。」といつてゐる。

「けふは一日、大統領宛の手紙を書き、この二ヶ月間に進捗した仕事の概要、私が準備した所要船腹の獲得計畫、及びそれに要する期間について述べた。また、すでに成立した契約に基づき、木造船、鋼鐵船建造の所要日數、單價の比較をあげ、兩種の船舶の通商上の價値は、比較にならぬことに注意を促がした。大統領は、それを新聞に公表するだらうと思ふ。この手紙を書いたのは、二つの目的があつた。ひとつは、大統領に問題の正しい認識をもたせるため、もうひとつは、建造工事の權限を、船舶局にでなく、自分に付與させるための楔としてあつた。法案は下院で可決されなかつたが、兩院協議會に送り返された。私は、大統領に委任された、建造關係の一切の問題を處理する權限を、私に付與する行政命令案を辯護士に起草させた。大統領が法案に署名するのを待つて、直ちにこの行政命令案を送つて、署名を求めるつもりだ。大統領

領は署名を與へるか、然らざれば私を無視するかとつちかだ。勿論、船舶局は、私の計畫については何も知つてゐないし、むかふの計畫は何もできてゐない。準備の十分な點からだけいへば、私の方が、この權限争ひにおいて有利な地歩を占めてゐる。もつとも、それには大統領の肚ひとつなのだから、こちらの思ふやうにいかぬかも知れないが。……」

仕事の進捗を報告し、自案を提出した、この大統領宛の手紙は、六月十一日附で、隔行間隔にタイプライターで打つた、五頁と四分の一の長文なものであつた。努力不足が現存鋼鐵船造船所の擴張を妨げてゐる一方、いかに「木造船造船術が過去の遺物である」かを、極めて明快に説明して、ゴータルスはかう述べてゐる。「橋梁や建築物に使用する鋼材と、同時にその種の工事に従事する努力を使用した『製作船』には、船腹を増加せしめる可能性がありません。造船所の代表者らは、最初は、その案に好意をもつてゐるやうにみえませんでした、そのうちに空氣が一變いたしました。……潛航艇造船会社のサットフェン氏は、……ラックワナナ橋梁會社のウォールデン氏と協力して、その案を取上げ、調査を行つた結果、非常な熱意を示してまゐり、一切の細部に互つて完備せる、五千噸級鋼鐵船二百隻を、十八ヶ月以内に竣工せしめる計畫を樹て、建造に着手することを希望してゐるほどであります。鋼鐵船案とそれに對する熱意は、非常に廣汎に擴がり、チェスター造船會社、ニューヨーク造船會社も、興味をいだくいたりしました。……」

この報告は、結局公表されなかつたが、すこぶる詳細を極めたものであり、すでに契約済みの百四隻のり

ストを掲げ、各造船所を一個の全體の構成部分とみなして、必要な時と場所に應じて材料を配給し得るために、現在建造ちうの一切の商船を、政府の手に引受くべきことを勧告し、原價加算契約の形式に、非常に強く反對した。それに對する回答はなかつたらしかつた。

「デンマンと私は、金曜日の午前が開かれた、各造船所代表との協議會を司會した。」ゴータルスが、六月十七日附のジョージ宛の手紙にいつてゐる。「われわれははじめて、何日もの間續けて顔を合はせた。これは協議會の目的を知らなかつたので、私からその趣旨を述べさせるといつて、挨拶を終つた。私は、現在建造ちうの一切の船舶を、政府の手に收用する意向であることを言明し、これは、われわれの建造計畫遂行の邪魔を取除くに必要な措置であることを述べた。デンマンが、アメリカ會社の註文船は、註文主に引渡したい意向であることは承知してゐたが、私はそれに賛成しなかつた。そこで私は、一切を收用する理由を説明したところが、みんな賛成のやうな口ぶりであつたので、デンマンは自分の意見を洩らさなかつた。

金曜日【六月十五日】の夕刻、ちやうど夕飯を食べにいかうとしてゐるとき、デンマンからの手紙を渡された。それは、署名できないといつて、鋼鐵船十隻分の契約書を突返してよこしたのだ。私は先に、カリフォルニアのある造船所で使用させる鋼を、板鋼一ポンド當り四と四分の一セント、型鋼同三と四分の三セントで購買した。私は、鋼の購買價格を、こちらの望む値頃に決定できなかったたので、ほかの發註係もすべて、右の單價で計算するやうに命じ、購買契約に、右の單價以下の契約が成立した場合には、こちらの單價も切

下げ、反対の場合には、それだけ割増すといふ一項を付け加へた。かれが署名を拒んできた契約書は、この方式のものである。かれはその手紙で、鋼の購買価格の高いことを非難し、非常な見當違ひだとか、議會の委員會で抗議するつもりだとかいつてきた。そして、自分の方から議論をもちかけて、板鋼の單價は、二セント半以上しなと思ふといつた。私は議論をするつもりはない。で、その基準に従つて、契約書を書き直させて、また送付してやつた。それから、デンマンからの書面を國防委員會に轉送し、鋼鐵船の建造は停止されてゐるから、遲滞なく鋼の購買価格を決定するやう要求してやつた。私が鋼價格の責任を負はせられることはない。幸ひなことには、發註を報告した手紙において、明確に購買価格を決定する必要を、大統領に對して述べてゐるのだ。」

その價格決定に關する進言は、六月十五日に認めた、大統領宛の手紙において行はれてゐる。

「行政命令案の最後から二番目の項は、船舶建造に要する材料の價格に關するものであり、これは、私が相當の關心をいだかせられてゐる問題であります。實施のできる最高價格決定に關する限り、建造木造船に要する木材に關して、國防委員會木材委員會との間に取極めができました。しかし、建造ちうの若干隻分の鋼の購買は行はれてゐるのに、鋼の購買價格を確定する件については、まだ取極めができてをりません。國防委員會は、一切の所要材料の購買價格を決定する委員會も任命しました。船舶建造の工事は、それより生ずる一切の利益に均霑すべきものであります。現在政府に對して勸告されてゐると聞く、中央購買機關が設

けられることになれば、非常商船隊會社の購買にその便宜を利用し得ることを、非常に欣幸に存じます。」

ゴータルスが、早速デンマンの手紙の趣旨に従つて、鋼の假價格を相手のいひなりに變更したことは、注目すべき態度である。デンマンは、板鋼の價格噸當り九五・二〇ドルを計算するに當つて、二千二百四十ポンドに相當する「英噸」を用ひたことは明らかである。ゴータルスが早速契約書を書き直したにもかゝらず、また一般に二千ポンドの「米噸」が使用されてゐるにもかゝらず、デンマンは新聞に談話を發表して、「噸當り九十五ドルの船材用板鋼は禁止」すると述べてゐる。

「私は、あの價格の契約には署名しない。」これはデンマンの談話である。「海軍では、噸當り三十ドルも安く鋼を購入してゐる際、あんな價格は馬鹿けてゐる。……今ゴータルス將軍が製鋼業者と取極めた、鋼の假單價噸當り九十五ドルを契約面に表はすとしたら、國防委員會の價格決定委員會をまごつかせるだらうと思ふ。そんなことをすれば、政府に考慮させることもでもぬ、テンから馬鹿けた價格に、われわれが折紙をつけたことになるからだ。」

ゴータルスは、六月二十三日のジョージ宛の手紙にいつてゐる。「前便でいつたと思ふが、私は噸當り八十五ドルを、決定價格ではない、假の基準としたのだ。……私はそれが賢明な態度だと思つて、沈黙を續けてゐる。それは、全體の事態は、結果によつてしか批判され得ないからだ。」

第十五章 木と鋼の火花

ゴータルス將軍が、標準化鋼鐵船の建造を促進するためにどういふ手段を講じたかは、當時の非常商船隊會社の辯護士で、後に國務次官になつたジョセフ・ビー・コットンが、當時書いた覺書に記録されてゐる。

「……主要造船所は、長期を要する軍艦、商船の建造で手いっぱいであつたのみならず、標準化といふ考へは、現在の造船術にとつては、——それも、多數の造船所は、まだすこぶる舊式であつた——新奇なものであつた。

そこで、當面の問題は、いかにすれば、現在の造船所以外で成果をあげられるかといふ問題であり、ゴータルス將軍が力を注いだのは、その問題の解決策であつた。

船舶局における將軍の發言（一九一七年七月十八日）に詳述してあるやうに、その運河工事の経験は、橋梁工事と運河開門に使用する優秀な船舶の建造における、かれの才能を證明した。そこでかれは、手始めに橋梁製作所と油槽工場に、鋼鐵組立能力があるかどうか、それを鋼鐵組立工事に使へるやう組織できるかど

うかを確かめにかゝつた。直ちにこの目的にふりむけられるのは、若干の組立工場の全仕事量の、比較的小部分（約三十パーセント）に過ぎないこと、全體としてのこの工業部門は、建造工事の協力者として組織されねばならないこと、各工場間の競争には期待し得ないことが、すぐ明らかになつた。

……スピードの必要と、混乱の生ずる危険を慮かつたゴータルス將軍は、潜航艇造船會社と、チェスター造船、ニューヨーク造船の三會社を、共同して工事に當らせることにした。……たまたまフェリス氏(註)が標準化船舶設計を作るといふ仕事に着手した。——すなはち、手のこんだ施工を省いて工事を單純化し、できる限り標準化された船體の各部分は、造船所外で製作することができ、それを造船所に集めて、組立てるといふ方式である。七月一日に、かれは噸數五千噸の船の設計を仕上げた。……同じころ、橋梁製作業者らは、造船工事に参加する見込あることを確信してきた。大統領からの命令が發せられた七月四日までは、プリストル、ホッグ島及びニューワーク灣の三ヶ所にある、組立造船所用の作業圖ができ上つてゐた。」

(註) アメリカ造船界の權威セオドル・フェリス氏。ゴータルスは、非常商船隊會社の設立後間もなく、氏を技師として招聘し、氏は「フェリス型」木造船、及び右に述べた組立鋼鐵船を設計した。

「七月四日のすこし前、ゴータルス將軍は、最後の動員を行ふために、鋼鐵組立工場の會議を開き、その席上各請負人に對して、主要な造船材料の概算見積りを提出して貰ひたいといつた。……この計畫を實施す

るためには、ピッツバーグとシカゴから、各製作所組立工場にいたる高速の特別運輸組織を作ることが、實際的に必要であつた。この方面の仕事には、ゴータルス將軍が、ウィラード、ハリソン兩氏(國防委員會の)とともに當り、製作所や工場側で貨車の留置をやらないといふ取極めができれば、その特別運輸制度を開始し得る準備ができた。この件は、工場支給金規則に規定された。このやうに、全計畫は、七月一日までには、あらゆる方面から、着々具體化しつゝあつた。しかし、その當時も、また後になつても、全計畫の経費がどれほどになるかは明らかでなかつた。……主要材料の概算見積り書は、アール・イー・ウッド少佐の手で調べて貰ふことになつた。材料發註先の最大なものは、ボイラーのバブコック・アンド・ウィルコック、推進器のゼネラル・エレクトロトリック、アリス・チャーマーズ、ウェステイニングハウスの諸會社で、納入價格の交渉が行はれた。……この實務的な方面の仕事においては、すべて納入希望の業者側から働らきかけ、ゴータルス將軍の總監督の下に、納入の仕事の大部分を果した。

價格の問題については、七月一日以前には、たゞ一般的な話合ひが行はれたゞけであつた。ゴータルス將軍は三商社に對して、各々一時拂制で納入して貰ひたいといつた。……契約書の文案(金額をブランクにした)は、アメリカン・インターナショナル會社の辯護士が、これらの一般方針に基づいて作成したが、ゴータルス將軍の辯護士は、その方針には賛成できないといつた。契約書は、細目の點にも不備な個所があつた。再考の結果、七月六日にいたつて、契約者を有給の政府代理人に任命するといふ、新しい方針を採用する

に決し、その方針に基づく、短かい契約文案が作成された。新方針の根本は、契約者を、經濟的危険を負担せぬ政府代理人とし、納入の仕事を監督する機關を新設せんとするにあつた。一時拂制を止めて代理購買制を採用することに決定すると、契約者も商船隊會社の側も、早速原價計算に骨折ることを止めてしまつた。それは、代理人の個々の職責と一切の行爲は、仕事の進行に従つて承認を受けねばならない故に、代理購買制の下においては、さういふ細かな計算は、まづたく些細な問題だからである。

代理購買制に變更した重要な原因のひとつは、信頼するに足るほど實際に近い、見積りを作ることの困難な點にあつた。フェリスは最初から、どの見積りも信頼できないだらうし(工事に當るものは不熟練労働であり、造船は、工場の完成しないうちから進行してをり、かつ、組織ができてゐないのだから)、どの見積りも非常に高いものになるだらう、そして、工事が第二年度にはひつたときには、廉くなるだらうといふ意見であつた。……」

議會は、六月十五日に戦時豫算案を通過したが、大統領は、ゴータルスから提出した行政命令案と、船船局から提出したものと、どつちに署名を與ふべきかを決定するまで、一ヶ月近も熟考を重ねてゐた。ゴータルスは六月二十二日に、ウィルソン大統領と會談した。

(註) 大統領が法案に署名するのを待つて、直ちに六月十五日に提出。

「二週間前(來週の月曜で)に提出した報告に關して、まだなんの意見にも接してゐなかつた。」ゴータ

ルスは二十三日に、ジョージに書いた。

「そこで、私の計畫全体の概要をお話したところが、大統領ははじめて、われわれの間で議論されてゐる題目に興味を示され、多くの問題に關して質問された。そこで私は、いろいろな問題を説明して、意見を述べた。この點において、今までのうちもつとも満足な會談であつた。……決してデンマンの名をあげず、また、権限を私に付與されたいと主張したり、頼んだりしなかつた。この件については、すでに手紙でいつてあるのだから、それを取上げることは私の威嚴にかゝはる。で、そのまゝ辭去した。」

ゴータルスは、その鋼鐵船建造計畫をドシドシ進めていつた。

七月二日附のジョージ宛の手紙。——「けふは非常に多忙な一日であつた。それは、製作工場の代表者たちとの協議會の日だからだ。協議會では、船體部分製作の請負者に對する、材料配給について取極めを行つた。それは非常に満足な結果に達した。それから私は、船體製作の請負を申込んできてゐる會社の代表者たちと、細目に關する取極めを行つた。それは、大統領の命令一下、直ちに工事に着手し得るやう、契約書を作成しておくるやうにするためだ。……」

船舶局は大統領に對して、われわれの木造船建造豫算三億ドルを取消さんことを主張し、権限を非常商船隊會社に付與せんことを勸告した勸告を送つたといふことを、レイモンド・ビー・ステイヴンス氏から知らせてきた。船舶局は全株を支配してゐるのだから、これは、権限を船舶局に付與したと同じことになる。そ

の勸告の豫算關係の部分は、大統領が氣づきさへすれば、一千隻の木造船の建造の不可能なる事實を承認せるものである。」

この豫言の正確さは、ハーリーの著「フランスを繋ぐ橋」の、五十四頁の左側の、木造船の挿畫の下にてある、次の權威ある適要によつて實證された。

「木造船七百四隻の建造契約が結ばれた。うち二百十四隻分は、休戰條約が調印されたとき解除された。残り三百二十三隻は完成された。賣却されたもの四十四隻、沈没したるもの二十三隻、一九二二年には、戦時用に建造された木造船は不用と決し、——うち二百五十六隻は、廢棄賣却處分に付せられた。二百六十五隻は海外貿易に従事した。」

「しかし、私は、大統領はさうは思はないだらうと思ふ。」ゴータルスの手紙は續く。「この手紙の開函は午後だと聞いたので、午後到大統領宛の手紙を書き、その豫算を獲得するために、われわれの拂つた努力について述べ、その差額が、即時決定方を大統領に要請してゐる、製作船の建造費にちやうど十分である旨を明らかにし、先月十五日に送付してある行政命令案に注意を促がした。大統領がさらに報告を待つてをり、船舶局が材料を蒐めてゐるといふ、一週間前の新聞がけふも正しいとすれば、大統領は問題決定に必要な報告を入手されたのだから、近く行動がとられるであらう。これが戦時でなかつたら、出掛けていつて、すこしいつておきたいところだが。……」

ウイルソン大統領は、七月十一日、船舶建造の一切の権限を「合衆國船舶局非常商船隊會社」に付與するといふ、船舶局案の行政命令に署名した。同時に、大統領はゴータルスに書翰を送つて、自分は、原案は紛更すべからずと決定したこと、この決定は全然ゴータルスの活動を妨害するものでないこと、何人も喜んでゴータルスの計畫の實現に寄與せんとしてゐる旨を述べ、非常商船隊會社の理事たちは、いかなる點においても、ゴータルスを妨害してはならないといふ、大統領の希望に一致してゐる旨を保證した。そこで大統領は、純然たる事務的理由に基づいて、船舶局より要求のあつた行政命令に署名することになつたわけである。

ゴータルスは、十三日の金曜日に、デンマンに手紙を書き、かれの全計畫を實現する建造の仕事に、月曜日から着手しようといふ意向を通達した。すでに契約が成立したか、交渉ちうの、あらゆる種類の船舶四百二十五隻のほか、政府所有の二工場との間に、標準型の鋼鐵船四百隻の建造契約を結ぶわけであり、さらに、現在民間の註文によつて建造ちうの、一切の船舶を徵發すべきことを提案した。かれはこの計畫を新聞に發表した。

デンマンは、即日返事をよこした。

「大統領の行政命令に關して、何等か誤解が存するやうに思はれます。閣下も御記憶の通り、木造船案の原案は大統領の案であり、私はそのいかなる修正も、大統領の計畫でないものと見做さるべきものと考へま

す。大統領は、御承知の如く、その責任に當る機關として、會社を指定されたのですから、大統領に對して當然の敬意を表するとすれば、閣下が提出された提案に對しては、共同の審議を行ふ必要あるものと考へます。お手數ながら、鋼鐵船建造計畫案の寫し一通、及び閣下が建造の一時拂ひ制を變更された理由を御提示願ひ上げます。會社株の多數を有する船舶局も、理事も、この方針變更に關して協議を受けませんでした。新方針は確かに有利ではありませんが、この問題に關しては、熟議を遂ぐべきが至當と存せられます。敬具。

局長 ウィリアム・デンマン(署名)

ゴータルスは、その日折返し、妨害を受けることなしといふ大統領の保證を引用して、かういふ質問を發した。

「貴下は、私が月曜日に本計畫の豫備的措施に着手することを、希望されざるものと、解してよろしいですか？」

デンマンは、十四日附の非常に浩瀚な手紙でかう述べた。

「閣下が最初非常商船隊會社に就任されたとき、われわれは、當時大統領が決定された計畫を實現するため、あらゆる精力をと御援助を吝まないと約束いたしました。それは、鋼鐵船の建造を補充する、大木造船隊の速成計畫に對してでありました。爾來、閣下は、われわれより繰返しその保證を得られ、われわれは、決定された計畫の實現に對して、約の如き御援助をいたす用意ある次第です。これは、大統領が最近の行政

命令によつて、計畫實行の責任と権限を付與した、會社によつて決定されざる計畫を指すものではありません。」

さらに、翌十五日の手紙で、デンマンは書き送つた。

「明早朝、商船隊會社理事會の會議のために、ある報告を御要求する手紙をお届けいたすつもりです。閣下は、局が會議を開くまで、造船所の徴發もしくは契約、または政府工場との契約に關して、何等の行動をもとらざることを保證していただきます。この件に對しては、われわれの會社株の支配が同意いたしてをります。」

この命令が、根本的な問題を惹き起した。それは、翌十六日附の手紙で、ゴータルスがデンマンに指摘してゐる通りである。「計畫案及び造船計畫に關する最後の決定権は、非常商船隊會社理事會に屬すべきか私に屬すべきかについて、現在問題が起つてゐるので、直ちにこれを解決いたさねばなりません。」

私がこの仕事に従事したとき、仕事の性質上、全責任を負ふ、單一の執行機關の必要が認められ、貴下とともに議會委員會に出席したる際、貴下は、私が全責任を負ふべき旨を言明されました。私宛の大統領の書翰ちうにある次の字句は、その事實を意味するものと了解いたします。」

ゴータルスは、その活動は妨害されざるべきこと、理事は大統領と同じ希望をいだいてゐることを保證した、ウィルソンの書翰の一節を引用して、さらに書き續けた。

「貴下の御論旨は、大統領が技術的に、権限を非常商船隊會社に付與したるをもつて、私は、この計畫の實行に當つて、使用人として、會社の理事より命令を受くべきであるといふにあります。それにして、どんな議論でもできませんが、事實問題として、貴下が、現在の如く、私の當面の計畫を中止せしめ、一切の細目事項の申し開きを要求されるにおいては、私は、船舶建造に重大なる妨害を蒙むる次第であります。私の計畫に對するいかなる實質的變更も、恐らくその崩壊を意味する結果となり、新計畫が樹立され、その實行に當る機關が設立される間、また遅延を重ねるであります。私は衷心喜んで、貴下及び貴下の理事會と協議いたし、貴下乃至理事會の抱懷されるいかなる反對、もしくは提案をも考慮せんといたしてをります。しかし、造船の實際問題に關しては、愚見を率直に申し上げれば、私が理事を御援助いたすのではなく、私が仕事を擔當して、自由に理事の助言を求むべき筋合であると存じます。……私は、お互ひの間に存する個人的問題は、一切解消せしむべきことを勸告いたします。われわれに残された唯一の途は、一度御面談の機を得て、私の意見の正しいことを、納得していただくかどうかを確かめることであらうと思ひます。お互ひの意見の相違は、國家の事業に障害を及ぼしつゝあるのです。」

それに對して、デンマンは即日かう返事した。

「われわれは、過去においてさうであつたやうに、今後も常に、何時でも、いかなる政策問題に關しても、喜んで閣下と討議いたさうとしてゐるものであります。但しわれわれは、今朝差上げた當方よりの書面に

指定された報告は、當方よりの同様の照會に對する閣下の通例の形式の通信、すなはち文書によられんことを希望いたします。何卒右の文書御送付に與かりたく、或ひは、文書をもつて御回答願へぬ部分は、その旨お断はりのほど願ひ上げます。

先般申上げた通り、その準備には二時間も要せざるべきものと存じます。そのために、實質的遅延を來すことはなきものと考へます。當方としては、閣下が準備に數週間を要したと申されたる計畫を、當方より要求せる全般の内容、特に船舶の建造費を承知せずして、承認を急がせらるゝことを欲せざる次第であります。……われわれは、わが總支配人を、この上とも御援助いたしたいと希望するものでありますが、總支配人に對して、今朝の當方よりの書面に要求された、文書による重要資料を要求いたすものであります。それらの資料は、『一切の細目事項』に關するものにてはこれなく、廣汎なる政策の線に沿ふものであります。閣下が船舶の建造に當らるべきことは事實であります。政策を決定いたすべきものは、閣下を含む理事會であります。

われわれは、今朝閣下が、閣下の計畫が遅延を來しつゝあると述べられたに際して、率直に當方の要求に答へ、その理由を述べらるべきであつたと思つてをります。お互ひの間の通信には、特權はこれなく、閣下は、この状及び今朝の書面を、隨意に處理する權利を有せらるゝ次第であります。敬具。

局長 ウィリアム・デンマン

一九二〇年十二月十三日、下院委員會におけるデンマンの證言は、この間の關係を明らかにしてゐるので興味がある。

デンマン氏 「われわれは、お互ひ木造船案に大反對でありました。木造船は、廢れてゐることを知つてをりました。ゴータルス將軍は、——さう申しても、感情を害しはしないだらうと思ひますが、——外交家ではありません。で、私もたびたびやつたやうに、木造船の嫌ひなことを表明されましたが、一部の新聞記者は、貿易に使用するその型の船舶を好まないといふ將軍の意見は、戦争の非常時用に供する、その建造計畫にむけられたのだ、といふ印象を受けたものと思はれます。……しかし六月一日から、われわれは、船舶局を辭するまで、できるだけ多數の木造船を建造する計畫に關して、ゴータルス將軍と私との間には、絶対にいさゝかも意見の相違がありませんでした。」

委員長 「貴下は、その問題に關して、將軍の辭職の原因をなしたらうと思はれる、論争をされたことがありますか？」

デンマン氏 「總支配人と局との間に發生した實際の困難は、——これは、ゴータルス將軍と私との間でなく、ゴータルス將軍と船舶局との間に起つたのですが、——大統領が行つた、權限の分割から起つたのであります。……大統領は、船舶局の提案通り、權限は個人たる總支配人にはなく、法人たる非常商船隊會社の手にあるべきものと決定されたのであります。にもかゝらず、ゴータルス將軍は、船舶建造計畫

の責任は自分に存するものとしたのですが、非常商船隊會社理事たる船舶局は、命令の明文によつて、局自らが議會に對して責任をもつものであり、局がその經費の説明をなし、豫算の要求もせねばならぬものであることを知つてゐたのです。

當時ホッグ島の仕事の計畫が、ゴータルス將軍の手で進められてをりましたが、船舶局は、將軍は局とともにその問題を審議すべきであり、われわれが、議會に對してそのアウトラインを説明し、この豫算委員會に出席して、必要な豫算を獲得し得るために、將軍は、ホッグ島の計畫はどんなものかといふことだけは、包括的なアウトラインを示して、説明すべきであると主張しました。ところが、ゴータルス將軍は、われわれと話をして、時間を浪費したくないといふわけなのです。——が、私としては將軍に同情できません。それは、委員會の委員たち、局の執務ぶりが、急速な仕事を處理するには能率的ではなかつたからです。そこでわれわれが辭任するまでの一週間の間、將軍と私との間で、ホッグ島契約案の條項に關して論議を續けてをりました。論争といふならば、さういへるのはこの問題でありまして、それが辭職要求の直前の出來事でありました。それには、木造船に關する問題は、何も含まれてをりませんでした。」

その翌日、十二月の十四日、下院事務局ビルディングの同じ豫選會室で、別の委員がふたゝびその問題を取上げ、デンマン氏との間に次の質問應答が行はれた。

コンナリー委員 「船舶局の政策に關する、貴下とゴータルス將軍との意見の相違は、全然荒唐無稽でした

か？」

デンマン氏 「木造船に關しては、さうです。」

コンナリー委員 「貴下とゴータルス將軍との意見の相違は、どこにあつたのですか？」

デンマン氏 「ディーゼルについては、完全に一致してをりました。」

コンナリー委員 「……しかし、多分、お二人の辭任の原因となつた意見の相違は、どういふ點にあつたのですか？」

デンマン氏 「當時社會の注目を集めた問題は、ホッグ島であつたと思ひます。……われわれはいづれも、鋼鐵組立工場の建設には非常に賛成でありました。……私は、その仕事に着手する以前に、極めて詳細完全な豫想費額の一覽表と、極めて念入りな設計を作成すべしといふ意見でありました。ゴータルス將軍の考へは、明らかに、將較がいつたとき、費額の概算をたて、計畫を示してくれた、このニューヨークの人のグループにやらせるつもりでありました。そこで、われわれ兩人の間で、その問題を討議したのでありますが、……私の印象では、ゴータルス將軍は、それをもつて、今後續發する、自然の活動を妨害する一聯の權限侵犯の皮切りと考へられたものと思はれます。もしさうであつたとすれば、將軍は仕事の監督者たるべきであり、われわれは干渉してはならないのですから、將軍が憤慨されることは當然でありました。ところが、われわれはさういふつもりではなかつたのです。で、その問題は懸案になつてをりました。懸案

になつてゐる間に、全國いたるところの新聞に、「ゴータルス將軍とデンマン氏の衝突、デンマン氏は木造船の建造希望、ゴータルス將軍は鋼鐵船の建造を希望、木材はデンマン氏の頭腦の特徴、鋼はゴータルス將軍の決意の特徴」に關する記事が大きく載りました。それは、當時新聞にでた繪の題であります。」

コンナリー委員 「さう、それは記憶してゐます。そこで、お二人の意見の扞格はどの程度に達したのですか？ 貴下は經費の見積りを求め、その見積りは作成せられたのでしたね。そして貴下は、證言において、その額を二千二百萬ドルと述べられたのではなかつたですか？」

デンマン氏 「さうです。見積りが私のところへ届いたのは、われわれの辭任の當日かその前日でありました。」

コンナリー委員 「それでは、その問題は貴下の意見通りになつたのだから、それにしては面倒がなかつたわけですか？ ゴータルス將軍は、それに反對されなかつたのですか？……」

デンマン氏 「それで萬事終りです。私は、ホッグ島に關する意見の衝突が、友誼的に解決されないだらうなどいふ感情は、すこしももつてをりませんでした。……ところが、その意見衝突の記事を利用したものがあつたのです。聞くところによれば、その人々は國防委員會に對し、また、私は知らないことですが、大統領に對しても、同様に訴へたことは殆んど確實らしいのですが、われわれを罷免せよと訴へたのであります。そして、ディーゼルもなければ、デンマン氏もゴータルス將軍もなくしてしまつて、新しい連

中がはひりこまうと、暗躍を試みたのです。……」

コンナリー委員 「それでは、その一派は、實際にディーゼルに賛成だつたのですか？ かれらが追ひ出しにかゝつたのは、生物だつたのですか？」

デンマン氏 「いや、それは、たくさんのものうちのたつたひとつだつたと思ひます。私の、鋼の單價、低率の貨物運賃、セント・ローレンス河、中立國の操縦、脱船船員法廢止、その他多くの問題に對する政策であつたのです。」

ゴータルス將軍とデンマン氏の書面による應酬の結果は、將軍が、「私の立場を辯明させることを目的とする」といつた、會談が行はれることになつた。

先に述べた口述筆記のなかで、ゴータルスはかういつてゐる。

「このいはゆる『會談』の最後において、私はデンマンから送られた命令の手紙を取出し、その内容を讀み上げて、この命令に従ふことをきつぱり拒絶すること、船舶局は、私が完全な指揮監督權を有するといふ諒解に矛盾してゐること、私の任命は大統領の命令によること、私は、大統領以外の何人の命令も受け得なかつたこと、大統領から罷免されるまでは、この地位を維持すべきことを言明した。

その翌日、大統領から書翰がきた。それは、私が船舶局の意に従つて、その命令通り行動し、かれらと協調して任に當るべきこと、契約の形式、船舶の型、及び建造に關する一切の政策問題を決定すべきものは船

船局であり、私は、船舶局がこれらの事項を決定した後、その実施に當るべきものだといふ趣旨であつた。七月十九日附の大統領の書翰には、船舶局とはいはず、非常商船隊会社理事といつてゐるが、会社理事といふのは、船舶局理事にゴータルスを加へた六人である。大統領はまた、極めて明確に木造船に言及してゐる。すなはち、ゴータルスの意見によれば、潜航艇攻撃に對する安全の可能性を増大せしめるために高速を必要とする、大西洋横斷の貿易に適當な、強力な機關を裝備した木造船を建造することは不可能であるといへ、合衆國大統領及び非常商船隊会社理事は、潜航艇攻撃に曝される危険の殆んどない水域における、海外貿易に使用する、相當多数の木造船を建造すべしといふ意見である、と大統領は聲明した。そして、会社理事が、最初の原案以外の他の方法による、木造船建造計畫を実施することは、勿論自由であるといひ、最後に、今後は公刊物に發表の手段をとらないやうにといふ提言——命令に等しい——を行つた。

ゴータルスは、先の口述筆記で、かう言明してゐる。

「これは、大統領の従來の態度に全然反するものであり、私の地位を變更したものである。そこで私は、かういふ事情の下に、かういふハンディキャップを負はされたのでは、能率的に仕事をすることは不可能だと思つたので、大統領に手紙を書き、私は船舶局と協調して仕事をすることは不可能であること、権限と責任を一人の手に集中することが、満足な成果をあげ得る唯一の方法であることを述べ、自分がそれを負託され得るものではない以上、その権限と責任とを付與し得る他の人を選任され、自分を解任されんことを乞う

た。大統領は、その手紙の趣旨に基づいて私の辭意を容れるとともに、デンマンに對しても、同様辭任すべきことを申入れられた。」

一九一七年七月二十日附の、辭意を表明したゴータルスの手紙の全文は左の通りである。

「大統領閣下

七月十九日附の書翰正に拜誦、閣下の到達したる結論を述べられた、慎重なる御態度に對して、感佩の至りに堪へません。

去る四月四日閣下の御承認を得たる、一九一七年三月二十日附の、『小型船舶の非常急造』計畫には、次の通り明記してあります。

『もつとも肝要なる建造の迅速を期するには、これらの船舶を獲得し、艤装する仕事を、一人の手に專管せしむべきものと考へる。集中的管理は、迅速、能率的な仕事に必要缺くべからざるものである。』

私が、閣下の要請によつて就任いたしましたのは、當方の右の如き諒解に基づいてでありました。この諒解は、後に、私が船舶局との間にその問題を論議した場合のみならず、合衆國上院豫算委員會の、小委員會公聽會においても確認されたのであります。右の公聽會においては、私が、『建造方面の、絶對的、完全なる監督權』を有すべきこと、『船舶局のなし得る一切の行爲は、私の提案と發表に基づいて行はるべく、船舶は、私の提案と發意に基づいて行動すべきものとする』と陳述されてあります。これらの保證は、下院

豫算委員会の小委員会においては、それよりも遙かに明確に述べられてあります。

船舶の必要は、可及的迅速に成果をあぐることを絶対必要といたします。結局價值あるものは、何人によつて達成されたかを問はず、成果そのものであり、その目的の實現に對しては、いかなる妨害をも許すべからざるものであります。私は、船舶局との協調關係を維持することに努力いたしました。成功をみるを得なかつたことを遺憾に存じます。その結果、事業の成功に缺くべからざる、目的の一致を來し得ないやうな状態に立ち到りました。問題全般に亘つて熟慮を加へた後、造船計畫を迅速、成功的に遂行するためには、權限を一人の手に集中することを必要なりと信ずる私は、御來示の條件の下においては、十分なる結果をあげ得ないことを諒承いたしました。そこで私は、事業の妨害とならざる個性を有する、全權を集中し得られる人物をもつて私に代へられることが、社會の福祉に奉仕する最善の途であることを確信するにいたしました。閣下がこの解決策に賛同されんことは、私の緊急の希望であります。そして、異動による事業の遅延を最小限度に喰ひ止めるためには、閣下が賢明とされるならば、私は欣然、後任の選任をみるまで留任いたし、その後任者が、現在の組織機構に對する完全なる知識を得、すでに進行ちうの事業に精通し得るまで、一緒にをる所存であります。

私はここに、閣下に對して、貴翰において與へられたる御命令、並びに將來における一切の御命令に、忠順なるべきことを誓約いたすものであります。敬具。

ジョージ・ダブリュー・ゴータルス

四日の後、この手紙は、七月二十四日の大統領の書翰二通とともに、ホワイト・ハウスから新聞に發表された。大統領の二通といふのは、ゴータルス將軍の辭意を受理した書翰と、デンマンの辭任を要求した書翰である。ウィルソン大統領が、兩者に對して同時に辭任を要求したといふ説は廣く流布されてをり、一部の歴史には、史實として扱はれてさへあるが、それは事實に合つてゐない。そのゴータルス宛の大統領の書翰は、七月二十五日の日刊新聞に載つてゐる。――

「七月二十日附の貴翰は、貴下の大いなる名譽をあぐるものであります。貴翰には、貴下に期待し得ることを承知してゐた、公の義務といふ立派な精神が一貫してをります。この問題は、貴下の申さるゝ通り、考慮すべき唯一のものは、奉公であるといふ場合であります。個人的感情と個人的好惡とは斷然排除し、われわれは、もつとも公のためになることを實行しなければなりません。

私は、かういふ考へを念頭におきつゝ、貴下が貴下の義務を中斷されんことを正當と思ふと、申し上げざるを得ないやうに存ぜられます。

懸案の問題をいかに公平に決定したとしても、今となつては、造船計畫を、完成と成功にむかつて、迅速能率的に進捗せしめることはできません。御來示の如く、従來の行懸りを一掃して、新規蒔直しをすること、――造船工事ではなく、今後の計畫の指揮監督を――最善の方法であります。造船工事は、幸ひにして、

大部分着工されてをりますから、不幸にしてその上に暗影を投じた論争が掃されれば、現在においては、完成にむかつて推進されることは容易であります。

それ故、閣下の寛容なる御態度に深甚なる敬意を表し、閣下が短期間にあげ得られたる御成果に對して、衷心欣仰の意を表しつゝ、閣下の辭任を受理いたす次第であります。そして、かゝる措置にいつることは、私として、私自身と同様、閣下の最善の判断に基づいて行動する所以と存する次第であります。私は、閣下が偉大なる奉仕を捧げられた國民は、他の事業におけると同様、この仕事においても、閣下を正當に、かつ宏量な態度をもつて判断することゝ信じます。私は、閣下も同様の牢固たる確信を抱かれ、また過去に存したかもしれぬ、一切の個人的誤解と誤斷とが、速やかに完全に一掃されんことを希望します。」

ゴータルスは、七月二十九日附のジョージ宛の手紙で、かう述べた。

「私は辭任してよかつた。それは、すでにこれまで好結果を得られなかつたのだから、努力しても無駄だからだ。一ヶ月半以前には、製鋼業者と製作者が私の背後に動員されたのだから、干渉と妨害がなければ仕事を進めていくことができたのだ。鋼鐵委員會の分裂とともに、協力関係は斷絶し、全局面は一變した。議論のために、重要な要素である時間が失はれ、空費されてゐる實状なので、私の辭任が早ければ早いほどいゝわけだ。……」

木曜の諸新聞には、私が、交通線と關聯ある、土木工事の監督に當るため、フランスに赴く意向だといふ

記事がでゝある。その風説に、何か根據があつてくれゝばいゝと思ふが、私はなんにも發見できない。大統領は、私に仕事を與へる意向のないことは確かであるし、私も頼みにいくつもりはない。金曜日に、ハワイト・ハウスから手紙が届けられた。フランス行と關係ある手紙だらうと思つたが、さうではなかつた。われわれの危機は去つた、そして、輿論はわれわれに不利でなかつたことを確信してゐ、といふ趣旨の手紙で、大統領は、この結果は避け得られぬものであつた、しかし、自分は、私の發揮した男性的な、軍人らしい特質を、衷心歎稱すると結ばれた、そして、最後に、カップス提督が、現状の下において、できるだけしつかりした後任者の實を備へるまで、援助してやつて欲しいと依頼された。」

七月二十五日附の、この書翰の現物は、ゴータルスの書類のなかに保存してあつた。かれが纏めたその内容の概要は、極めて正確であつた。かれの批評は簡潔であり、その憤懣の情はよく表はれてゐる。

「大統領は誤解してゐるのだが、大統領から私宛の最初の書翰の眞意が、文面通りであつたとすれば、勿論、あゝいふ解決を不可避的ならしめる理由は毫もなかつたのだ。大統領は、十九日附の書翰を書いたとき、他の方法を決意してゐるか、私の二十日附の手紙を受取つた後、権限の集中を實施するかしてゐれば、まだ事態を收拾することができたのだ。問題の眞相をいへば、大統領は私に仕事を繼續させ、成功を齎らせることができなかつたのだ。……聞くところによれば、大統領の最初の考へは、デンマンを残すつもりであつたが、政治顧問らは、それはいけないといつたのだといふ。……二十日附の私の手紙が、改竄される危険

はなかつた。大統領の書翰が公表されれば、自分も直ちにその内容を發表するつもりであつたからだ。大統領の書翰は、——の手紙とは違つて、侮辱的なものとは思はない。それは、「いかなる代價を拂つても平和を」の、かれの常套手段に過ぎない。私はこの仕事から手を引いたことを、一方ならず喜んでゐる。デマンは驚ろいた。が、辭任の要求は當然の筋であり、かれに對しては同情をもつてゐない。かれが宣傳の樂隊馬車に乗つかり、會社總裁としての成績が成功であつたのなら、一切の名譽を荷へるわけだ。戦争の關する限り、私の、いかなる代價を拂つても望まない徵募兵の營舎以外には、私に用がないのだ。フランス行が實現するならば何ものも吝まないつもりだが、その望みはないから、道路建設工事、その他、成行き次第で、どんな仕事にでも従事するつもりである。」

第十六章 大戦を賄ふ

一九一七年八月三日

ワシントンにて

フランス國パリ市

合衆國派遣軍司令官

陸軍少將 ジョン・ジェー・パーシング閣下

パーシング閣下

私は、造船計畫との關係を絶たざるを得ないことになりましたので、フランスで軍務に服したいといふ、最初の希望に立ち戻つてをります。

現在、遂行すべき土木的性質の仕事が皆無であることを知つてゐるので、私は陸軍長官に、閣下の麾下にある、フランスにおける土木關係の任務に派遣されんことを願ひ出しました。私の部隊指揮の訓練を缺いてゐ

ひことが、軍の立場からは、野戦軍の指揮の障害をなすものとられ得ることは當然であります。従来相當廣汎な経験を経てきた、土木建設方面の任務に御任命を仰ぐといふ、例外を設けていたゞけるかどうかについては、事情を審らかにいたしてをりません。

今朝陸軍長官と會談いたしました際、長官は、土木工事一切を一人の主任者に統一する件に關して、閣下より電報があつた旨話されましたが、それには、私の出征希望には觸れてをられなかつたものと拜察いたします。その結果、私は本日閣下宛、左の如く打電いたしました。

「閣下ノ下ニ一切ノ土木建設工事監督ノ任ニ當ルコトヲ切望ス」

右電報は、すでに御接受のことゝ存じます。

この任務に御任命を仰ぐを得ば、誓つて忠誠なる御援助と御協力を相竭すべく、かつ、閣下の希望される成果をあぐべく、全力を傾注いたす存念であります。敬具。

ジョージ・ダブリュー・ゴータルス

一七年八月七日、パリ

ワシントン、ゴータルス將軍

貴電感佩ノ至リ、土木建設工事ハ目下適切ナル管理ノ下ニ、有能ニ處理サレツ、アリ、御申出ノ儀含ミオ

ク」パーシング

パーシング將軍は、八月三日附のゴータルスの手紙に對して、やうやく九月十一日に返書を認めた。

「戦時に際し、軍務に服せられんとする閣下の御希望に對して、極めて深甚なる敬意を表することは、改めて申し上げるまでもなきことゝ存じます。」アメリカ派遣軍司令官は、その返書にかう書いた。「現地における土木建設は大問題であります。特に最高指揮官より最下級にいたるまでの工兵將校が、すこぶる優秀なる実績を示し、かつ、小官としても、擔當者としても完全に適任なりと信じざる際、異動を行ふことは公明な措置でないと存ぜられます。

閣下の斯界における噴々たる御名聲と御才能とが、能率の保障たるべきことは申すまでもありませんが、上述の次第にて、小官としては、差當り異動は行はざる所存であります。

極めて濫かき好意と多大の感謝をもつて、右御回答まで。敬具。

ジョン・ジェー・パンシング

ゴータルスは深い失望を感じて、ニューヨークへ歸つた。將軍を協同者に迎へた、ニューヨークの土木會社は、「ジョージ・ダブリュー・ゴータルス合名會社」と改稱してゐた。

八月二十八日に、ゴータルスはジョージ宛に、當時の消息を知らせてやつた。

「この水曜日に、ニューヨーク港の合同委員会にで、會談した。そして、報告と所要經費の見積りを作成するまで、委員会と関係をもつことになつた。」

ニューヨーク港の現状と、將來の必要に關する研究は、一九一七年末に、ゴータルスが思ひがけなく、兵站總監代理として現役に復歸させられたとき、大いに役に立つた。セオドル・ルーズヴェルトは、そのニュースを聞いて、「閣下にお祝ひを申上げ、國家に對して、三倍のお祝ひをいたす！」といふ、簡潔な祝辭を送つた。

「今日十九日附の、閣下の御懇篤なる御祝辭、感謝のいたりに存じます。」ゴータルスは、禮狀にさう書いた。「私自身は、愉快ならぬ立場に立たされたものと感じてをります。命令が通達されたとき、フランスにおける交通關係の監督の任に就ける見込みであつたので、やうやくその準備をへたばかりのところでありました。いつまでその任が勤まるかは、與へられる支持の程度と、干涉の有無如何にかゝる次第であります。」

パーシング將軍は、フランスから祝電を送り、さらに手紙でかういひ添へた。「わが軍のなかに、練達堪能の士をもつて代らしむべき部門があるとすれば、それは兵站部であり、われわれはみな、その機能の大改善を期待してをります。」

ゴータルスはその返事に、祝辭よりも、お悔みの方が必要な氣がすると述べ、最後に、「しかし、私はベストを盡す覺悟であり、十分な補給状態の繼續に成功することを確信してをります。」と結んだ。

「一九一七年の十二月に、私が現役に復歸せしめられたこと、即時ワシントンに出頭すべき旨の電命を、參謀總長ビッドル將軍から受けました。」^(註一)一九一九年七月の議會委員会において、ゴータルスは證言してゐる。「私は軍服を用意してゐなかつたのですが、戦争状態が存在してゐたのですから、調製した方がいゝと思ひました。そのために、三、四日遅れました。それから、ワシントンにまゐつて、ビッドル將軍に會つたところ、將軍から、陸軍長官が、私の兵站部の總監^(註二)に就任することを望まれた旨の話がありました。私は、その日後刻長官に會ひ、任地をワシントンとし、全權を付與されるならば、就任を受諾すると答へましたところ、長官はそれを承諾されました。」

(註一) 第六十六議會下院、陸軍省豫算各派委員會公聽記錄第一輯第六部、一九二一年ワシントン政府印刷局。ゴータルス將軍の證言は、脈絡ある談話を構成するやうに、短縮整理したものである。

(註二) その名稱は、一九一二年以來兵站兵團と改稱されてゐたが、ゴータルスは常に舊名で呼んでゐた。

「十二月二十六日に、兵站總監に就任したとき、部内は非常に亂脈な状態に陥つてをり、多くの權限を犯されてをりました。糧食の部門は、組織、運用ともに良好でありましたが、購買の大部分は、食糧局の協力を通じて行はれてをりました。被服と裝備の購買は、事實上兵站部の手から取上げられ、購買は、エイゼンマン、ローゼンワルド兩氏を首班とする、國防委員會の一部局によつて行はれてをりました。兵營及び宿舍

の経費は實際上兵站部の手を離れて、建設局の所管とされ、建設局から兵站總監とともに、參謀總長及び陸軍長官にも報告することになつてをりましたが、これはいさゝか變則的な制度であります。兵站部の所管であつた運輸機關は、部から取上げられ、船舶輸送部といふ、參謀本部の別個の部局が新設されました。陸軍省のいろいろな部局が、各自の資材を舶送する豫算をとり、鐵道、至急便乃至貨物船によつて、糧食を運輸する、運輸部やうの機關をいくつか新設してをりました。現實に機能發揮してゐた兵站部の部局は、糧食の部門と軍馬補充部だけでありました。

部の當務者と組織は非常に不備な状態にありました。兵站總監であつたシャープ將軍は、老年の民間使用人から非常に多數の有能者を選んで、係員に任命しましたが、それは、部にはひつても、以前地方人としてやつたと同じやうに、業務に精勵するだらうといふ期待の下に實行されたのです。が、それが、當時の參謀總長ブリス將軍の注意を惹き、將軍は、その新任者をどこかに移すべきことに決定し、かれらは任命を受ける資格なく、以前の能率を發揮することができないと斷ぜられました。その措置に對しては、何等の理由も明示されませんでした^(註)が、さういふ處分が行はれたことは承知してをります。

(註) ヘンリー・ジー・シャープ將軍は、その著「世界大戦中一九一七年における兵站兵團」一九頁において、「それは重大な打撃であり、夥だしく役所の機能を奪つた。」といつてゐる。ニューヨーク、センチナリー會社、一九二一年版

「私が就任した當時は、將校の配備は非常に充實してをりました。私は、少佐階級以上のものを任命することを許されませんでした。軍にはひらうとする人物を得ることができなかつたので、私は地方人を簡拔して、これを組織しました。この私が雇傭した地方人の多數は一ドル年俸者であつたが「戦時ちう、實業家その他經驗者の篤志家の協力を求め、年俸一ドルを支給して、官吏の形式をとつたもの。なかには、數人のミリオネアもあつた」、それ以外のものに對しては辭令が發せられ、或ひは陸軍長官の特別權限によつて、私から俸給を支拂ひました。軍服には、それを着用した人間の態度全體を、一變させるらしい何ものかあります。われわれの部は、大規模な購買機關でありました。そして、軍人よりも地方人の方が、その機關の運用が上手であると考へたのであります。

私は就任匆々、被服關係の調査をはじめましたが、羊毛市場の商況が非常に悪化してゐることを發見しました。兵站總監が被服を購買してゐる、通信兵團が購買してゐる、醫務局も多少購買してゐる、兵器局も毛布を調辨してゐる、といふわけで、部内がみなお互ひに競争を演じてゐる事實を發見いたしました。兵站部は、驛馬用の馬具、鞍を調辨し、荷馬車を調辨する。兵器局では、軍馬用の鞍と馬具の調辨をやつてをります。兵站部のわれわれは、「自由」トラックの製造を開始させてゐたが、兵器局では隨意のトラックを購買し、工兵團は隨意のトラック、乗用自動車を購買し、通信兵團もトラック、乗用車を購買するといふ風で、生産を擴充しつゝあつた、「自由」トラックに對しては注意を拂つてをりませんでした。すべてのものが、

お互ひに競争を演じてをつたのであります。

その結果は、ある程度の値上りを來し、つひに、われわれの方から、戦時産業局に要求して價格を公定させ、兵站總監たる私が戦時産業局の協力を得て、全部の羊毛を徵發するにいたつたのであります。その當時においてさへ、陸海軍の間には、羊毛獲得の競争が行はれてをり、綿製品については、兵站部は郵務省と競争してをりました。私は、軍需省新設の得策なることを衷心確信するにいたりました。私が、努力したことは、購買を統一するといふことであります。で、一九一七年十二月の月なか後に、その旨を陸軍長官に上申しました。しかし、大統領はすでに、その問題に對する反對の態度を公にしてをられ、さういふ提案には賛成してをられませんでした。長官は、勿論、上長官の意見に同意してをられたのです。

そこで私は、陸軍省内だけで實行し得る最善の方策は、この競争を一掃し得る、購買法の調整と統一を計ることだ、といふ結論に到達しました。私の就任當時、ピッドル將軍は參謀總長代理でありました。その案を將軍に提出したところが、將軍は、各部長と審議してくれといふことであります。なかでその案に賛成らしかつたのは、兵器局のホイラー將軍一人だけでした。私の案の眼目は、一切の物資、資材の購買法を海軍で實施してゐると同一の方法にしようといふにあつたのです。兵器や飛行機の如き技術的資材は、そのなかに包含させようといふのではなく、それはそれぞれの部局の專管に残さうといふのであります。しかし、あらゆる種類の規格に合した物資、及び、技術當局作成の仕様書に基づく、他の一切の技術的資材を、

私の一手で購買することが、なぜいけないのか、その理由を解せませんでした。軍醫と衝突したことも、申すまでもありません。軍醫は私が藥劑の購買に不適任だといふ意見でしたが、私は、軍醫にせよ不適任だ、軍醫も藥劑官をもたねばならないし、私も藥劑官をもてると主張しました。工兵團では、私には種類の違つた各種のロープが買へないといつたので、これとも衝突しました。けれども、マーチ將軍が參謀總長に就任されたとき、その權限によつて、現實に購買業務を接收することによつて、ある程度緩を伸ばしたのであります。

私は、この統一を實現することに、非常に熱心でありました。翌一九一八年の一月には、ステッチニウス氏がワシントンに來任し、各部長の資材購買の調整を目的とする購買補給局が、參謀本局の一部局として新設されましたが、私はその一月にその問題を取上げました。かれは、ニューヨーク、モルガン會社の商會の一員で、モルガン商會を通じて行はれてゐた、聯合國の物資購買に當つてゐた人であります。私は、陸軍省としての、單一購買機關確立の必要をかれに力説したのですが、かれは特別の權限をもつてゐなかつたので、三月だつたと思ひますが、或ひは二月の月なか後かもしれません、マーチ將軍が就任された後、私が將軍との間に、眞剣にその問題を取上げるまでは、何も實施されませんでした。この統一を目的とする購買監督制は、非常な好結果はあけ得ませんでした。そこで、その七月、一切の購買業務をあけて、購買貯藏運輸監督下に統一すべしといふ案が作成され、參謀本部に提出されました。この案は、やつと十月半ばにいたつて實

施されました。部局長が擧つて反対したことは、申すまでもありません。かれらにいはせれば、われわれが、その権限と臨時手當の若干を搔つ浚つたといふわけで、その新制度の實施に當つては、相當の困難に逢着しました。不幸にして、休戦條約が成立し、統一は、實質的にはつひに完成をみなかつたのであります。

私のワシントン赴任當時の、兵站部の實情を申上げれば、總監の権限は微々たるものでありながら、シャープ將軍は、一切の事項に對して責任をもたねばならなかつたのです。將軍は権限の後援をもたず、かれらは恣まゝに、總長から物をとつていつたのであります。將軍は非常に権限を縮少されてゐたので、お氣の毒に感じました。個人的には、私は將軍が大好きです、かれは私の同期生です。兵站部の糧食關係の部門は、部内最優秀の部門であり、そのために兵は糧食を續けられ、しかも十分に給養を受けたのであります。それは將軍の仕事であり、その専門であつたのです。

陸軍長官は、兵站部は再編成を要すると認められました。長官は私に對して、お前が總監になることになつた、干渉はない筈だと申されました。それこそ、私の要求したすべてだつたのです。そして、干渉は全然ありませんでした。私は全權を握つてをつたのです。

私の就任當時、被服の供給はすこぶる不成績でありました。あらゆる種類の供給が、不足を告げてをつたのであります。國防委員會のその部門の首腦者の一人、エイゼンマン氏は引退されたと思ひます。引退前の御職業がなんであつたかは知りません。もう一人のローゼンワルド氏は、私の記憶してゐるところでは、シ

カゴのシアーズ・ローバック會社の幹部でありました。エイゼンマン氏とは毎日顔を合はせました。ローゼンワルド氏の方は、問題に對して積極的でなかつたやうであります。

兵站總監は、法規によつて、購買の責任の衝に當ることになつてをり、私は他の何人とも、その責任を分擔することを欲しなかつたのであります。私がワシントン赴任當時、陸軍の計畫は、私の出席した、陸軍委員會の公聽會の質問應答によれば、百三十萬に増員する計畫であつたやうであります、われわれは、それだけの兵員に補給を行ふことは困難であつたのであります。私は、その増員は必要であると考へ、發註品の受渡しが、必要な程度に迅速に實行されないがために、軍需の不足を來しつゝある實情に鑑がみて、これは、豫め實際兵員數以上の發註をしておく方がいと考へたのであります。私はローゼンワルド、エイゼンマン兩氏に對して、簡単に、私が監督の任に當ると申入れました。これは、論議を要する問題ではなかつたのです。兩氏は、その取扱つた契約が、實際上履行をみるまでその衝に當つてをられ、それから私が乗出して、餘分の兵員分の補給物資を購買しました。兩氏は強硬に反對され、統計をもちだしてきて、從來のやり方がいかに經濟的であつたかを示されました。私はたゞ、黙つて聽いてをりました。御承知の如く、私が陸軍省に就任した當時、事情は非常に緊迫してをりました。私は、既往の事實には一切關はりませんでした。とにかく、兵員に被服を被せねばならなかつたのです。

エイゼンマン氏は、私が放漫で、政府に不必要な經費を濫費させようとしてゐると申されました、當時、

陸軍はまだ兵員を増加してゐなかつたと思ひます。それにしても、恐らく増員をみるだらうと、私は睨みました。それは、私が進んで試みた博奕だつたのです。かれは友人として、私に警告するにいたりました。エイゼンマン氏は、いさゝか辛い感じをされたものと思ひます。かれは、この任務のために招聘され、立派に任務を果されたのであつて、その點については問題がありませんでした。しかし、相當の非難はあつたので、私はその非難を引き繼ぐ立場になつたわけであります。私は常に、仕事を自分の自由に處理するやり方を好んでをりました。そして、仕事を順調に進め、摩擦を少なくして運用していくのであります。

すでに服役ちうの兵員の被服も、不足を告げてをりました。すなはち、襦袢、袴下、軍靴、軍衣、その他さういつた種類の物品であります。で、アメリカちうの給養係を一齊に市場に派遣して、利用し得るあらゆる物品を買い上げさせたのです。靴、衣服、その他入手できるあらゆる物品、——その必要な兵員に支給し得る物品を、一切合財掻き蒐めさせたのです。その後、組織的な購買業務を開始してから、必要な資材入手するまでに、六ヶ月乃至十ヶ月を要することがわかつたので、兵員實數以上の註文を發しました。私は、三百萬の目標を樹て、市場との折衝にはひつたのであります。

當時認可を受けてゐたのは、百三十萬人分であります。それが、三月に三百萬人に増加されたので、私は救はれました。それから、四百萬人を目標に業務を進めていつたのですが、七月には、さらに五百萬人に増員され、私はふたゝび救はれました。八月、九月、十月には、必要な軍需品が不足し、沸底を來して、つひ

に行詰つたことであらうと思ひます。然るに、幸ひに休戦條約が調印されました。私の見透しは、十分先までは立つてゐなかつたのであります。

新たに採用された被服の重量は、パーシング將軍の勸告に基づいたものであります。一九一七——一八年の冬期の末ごろ、將軍は被服の重量を増加しました。兵站部では、外套と毛布には、戦前使用されてゐたと事實上一の仕様書を用ひましたが、それには、あるパーセンテージの再製羊毛が混織されてあります。海軍では、従來再製羊毛を使つてゐないので、褒められてゐたことだらうと思ひますが、今度は、海軍でも當然兵站部から毛布を購買することになりました。それには、再製羊毛がはひつてゐるのです。われわれは、物資不足に應ずるために、それを混用せざるを得なかつたのです。羊毛の量は、需要に應じ得るだけ十分なかつたのです。濠洲毛の購入は困難でありましたし、英國政府との購入交渉も困難でありました。と申すのは、英國自身羊毛が必要だつたからであります。そこで、われわれは、羊毛を徴發しなければならなくなりました。そのほか、實際上、綿布、重ズックも徴用せねばなりませんでした。

兵站部では、工場の生産能力に應じて、羊毛を製織業者に割當てました。価格は、價格決定委員會によつて決定されました。それから、その羅紗地を仕立業者に割當て、仕立賃も、價格決定委員會によつて決定されました。材料を受取り、または羊毛を製織することを喜ばない工場がある場合には、否應なしにその工場を徴發しました。徴發を行つた場合は數件あります。

兵站部は、生産される食料品を徴發しました。また、トマト、その他の野菜類の如き、數種の罐詰食料品も徴發しました。肉類は全部、食糧局の決定價格をもつて購買しました。但し、兵站部で冷凍工場を設けたパナマ運河においてだけは、コロンビアから生牛を購入して、軍用の牛罐を製造しました。食糧局には、兵站部の食糧課から代表がでゝをりましたが、その關する限りにおいては、私に責任があります。私の眞意を申上げれば、あまり價格は重視しなかつたのであります。私の求めてゐたものは、糧食と被服だつたのです。そして、われわれは軍を養ひ、軍に被服を着せたのです。

この點に關しては、問題があらうとは思ひません、——巨額の金が浪費されたといふ點については。私は、浪費をせずに競争しようなどといふ人間は、みたことがありません。私自身、最初に、買へるだけの値段で被服を購入しようとして、金を浪費しました。豫じめ用意ができてゐたならば、多額の節約ができたであらう。だれでも、われわれが放漫であつたといひたがつてゐるだらうと思ひますが、わが國が參戰したとき、事の性質そのものが、すでにこのことあるを斷定してゐたのであります。

私は軍需品購買に、原價一割加算契約制を探る必要を認めませんでした。この制度によれば、契約者は、政府の支拂額の増加を顧慮しなくなるのです。契約者は、とにかく生産原價の一割を貰へるわけです。すなはち、この制度の骨子は、契約者の利益が、原價に對する比率に基づくところにあるので、勞力と材料に多額を支拂へば支拂ふほど、利益が多くなるわけでありませう。従つて、請負人に對する節約の刺戟があまり

ん。一切の危険を負擔するものは政府であつて、請負人は全然危険を負擔しないわけでありませう。

私が就任したとき、兵站部の建設局で、この原價加算契約制をとつてゐることを知りませう。しかし、私は建設局を放棄しました。それに、當時行はれてゐた二元的權限に反對だつたからであります。それは、私が放棄してしまふか、私の所管として他のものに手を引かせるか、どつちかといふ場合でありませう。先方がどこまでも所管したい意向であることを知つたので、こちらから手を引いたのであります。兵站部の契約には、原價加算制によつたものは、ひとつもないと信じます。もし以前あつたとしても、後に解除されました。それは、私とそのやり方に反對だつたからであります。

運輸については、私の就任當時、各部局が區々に貨車を契約して、海岸まで搬送するといつたやうな運輸の無統制状態、運輸機關と兵站部との關係が密でないこと、及び兵站部が國內運輸機關から切り離されてゐることに基因する、兵站部の當面しつゝある困難について、參謀本部の注意を促がしました。

兵站部、工兵團、兵器局、通信兵團及び醫務局、——この五つの部局が互ひに關係なく、それぞれ物資を海岸に搬び出すといふ有様でありませう。なんでもかんでも、でき上がり次第、内地から海岸へ搬送されましたが、それはいづれも貨車によつてをりました。その結果、各鐵道は貨車を逆送することができなくなりませう。資材は續々、航洋に適しない船舶で沿岸に輸送されてゐたので、恐るべき輻輳を來し、ニューヨークは特になほはだしかつたのです。

国防委員会には、貯蔵委員会といふ機関がありました。——が、この委員会は、これらの船舶の指揮にはなんの関係もなかつたのです。委員会は、海岸に若干の貯蔵施設を新設する仕事の指揮に當つてをりました。その貯蔵施設は、ニューワーク港終點、及びガヴァナーズ島にも建設ちうでありました。ニューワーク港は、船積みの場所から遠隔の地點にありましたが、貯蔵委員会によつてその施設が設けられたのです。シャープ將軍は、それに賛成してゐませんでした。——が、將軍は、だれかそれを望んでゐるものゝある問題には、敢て反對しない人であります。ニューワーク港はニューワーク灣の入口の海峽が狭隘なために、入港に困難な港であります。——その海峽は、潮流の方向が悪いために、沈泥のためにだんだん淺くなるばかりでなく、冬期結氷するといふ難があるのです。一九一七年の冬、同地に火災が起つたとき、消火艇さへ、現場に進航できなかつたのです。われわれは結局、内地向け物資の貯蔵所として、ニューワーク終點を使用するにいたりましたが、船積み機關の關する限りは、途方もない大失策でありました。

私は、ニューワーク港擴張委員會に關係してをりました結果、同港の状態には非常に精通してをりました。就任當時、ニューワークに貯蔵施設を新設する必要を感じて、ブッシュ終點の徵用を實施いたしました。線路に沿つて、若干の貯蔵施設を行ふ豫算の問題を議會に交渉して、その工事に着手しました。私は、さらにその問題を參謀總長とも協議した結果、參謀本部の一部として貯蔵運輸部が新設されるにいたり、私が部長に任命されました。

この新制度によつて、アメリカの陸軍關係の輸送問題は、あけて私の手に統一されました。その後権限が擴大されて、請負人に對する、及び各局部に對する請負人による船積み一切も、私の権限内におかれるにいたりました。軍需資材を、貯蔵または海外向け積替へのために諸港に船送することを目的とする、貯蔵所を各所の港灣に獲得、新設する手段が講ぜられました。この部が新設されるに當つて、兵員、軍需品の輸送を船舶の運輸と調和を保たさせるため、兵員の船舶輸送事務が貯蔵運輸部長に移管されました。

兵員の船舶輸送事務が移管されると、私はその再編制に着手しました。従來その衝に當つてゐたのは、米西戦争當時、フィリップピンへの輸送事務に當つた陸軍將校でありましたが、この事態を處理し得るほどの手腕家ではないので、私はできるだけ最大級の海運業者を物色して招聘し、その目的遂行に助力させようとなりました。

一月に、私は口頭をもつて、兵站部は、陸軍省の利用し得る全船腹の能力以上の軍隊を、海外に輸送せねばならぬことになつた、といふ事實に注意を促がしました。そして、陸軍長官室でハリー氏と會談した結果、二月一日までに若干隻の船舶を提供するといふ約束を得ました。これは、結局實現をみなかつたのです。……さういふ事情で、陸軍省の記録には、即時もつと多數の船舶を供給して貰はなければならぬ、さうでなければ、兵員の海外輸送を停止せねばならない、兵站部は今その岐路に立たさせられてゐるといふ事實に注意を促がした書面を、私から陸軍長官に手交したことが記載されてをります。この書面の結果として、

陸軍長官、参謀總長代理ビッドル將軍、ハーリー氏及び私、それからインターナショナル商船会社のフランクリン氏との協議會が開かれました。一層多數の船舶を就航させることの必要、聯合軍に送る軍需品購入の必要が討議され、フランクリン、ハーリー兩氏、及びアメリカにおける英國船舶の管理に當つてゐた、カンナブ・ガスリー卿の三人をもつて構成する、船舶管理委員會の必要が論ぜられました。その委員會の任務は、アメリカ海運に對して、必要な船舶を供給するにありました。その結果、もうひとつの機關が生れました。兵員の取扱ひは陸軍の手に残され、軍需品その他の取扱ひは、この輸出管理委員會の手に委ねられました。その結果、われわれは船積みにおいて一層能率をあげ得るやうになり、かつ、アメリカちうの利用し得る船腹の關する限り、軍事輸送の目的に利用し得る一切の船舶を入手することができました。

私の意見としては、戦争の當初において、各部局を、能率的で集中的な單一機關に統合することは、陸軍省の権限内の事項であつたと考へます。なぜならば、われわれがその後その仕事に着手して、遂行し得たからであります。われわれは、その物資が不足してゐる場合でなければ、いかなる工場製品も船積みせず、それを受取る設備がある場合でなければ、いかなる資材も海岸向けの船に積込みを許さなかつたのです。私がいだいてゐた方針は、軍需品が大西洋の彼岸に到着するまで監督をなすこと、全體の指揮監督を一人の手に集中することでありました。私は、それが立派な管理法だと思ひます。購買貯藏運輸部の下に、統一的な購買部門があり、その手によつて軍需品の購買を行ひ、それから、それを大西洋岸向けの船積みをなし、さら

に大西洋岸で積替へて、海外に輸送する、——この仕事を、全部同一の人間に受持させるのです。さうすれば、摩擦も起り得ないし、干渉も行はれ得ないわけであります。この機構は、端的に、直接に一人の人間によつて運用されたのです。何かなすべき仕事がある場合には、それを一人の人間に與へ、そのものに遂行すべきであると考へます。」

ゴータルスの果すべき第二の任務を與へたウィルソン政府は、經驗によつて體得する能力を備へてゐることを實證した。政府は、その任務を十分にかれに任せ、かれをして遂行させた。大統領は、嚴格にかれに自由手腕を揮はせ、陸軍長官も、参謀總長代理ビッドル將軍も干渉しなかつた。ゴータルスは、ビッドル將軍の後任マーチ將軍とは、完全な調協を保つて活動した。ピートン・シー・マーチは、一九〇三年、最初の臨時参謀本部員に選任された、優秀な將校團の一人である。かれは、パーシング將軍と同様、フィリップピンで數次の激戦に参加した經驗をもつてゐる。その従軍記章の綬には、五回の戦勝を語る五つの星がついてゐる。若い砲兵將校であつたかれは、名譽進級によつて大尉に進級し、「拔群の戦功」によつて殊勳十字章を授けられた。一九〇三年から七年まで参謀本部に勤務し、日露戦争には、日本陸軍附の觀戰武官として派遣された。

世界大戦には、アメリカ派遣軍の砲兵司令官として、フランスに出征してゐたマーチ將軍は、一九一八年三月四日、参謀總長就任のために歸還したが、そのとき將軍は、派遣軍の各兵科の必要に關する、完全な知

識をもち歸つた。かれは、自己の任務を知り、いかに権限を委任すべきかを心得た、理想的な參謀總長となつた。南北戦争における、陸軍省のあの惨憺たる成績に比較したらどうであらう。——異動と變更はのべつに行はれ、政策は殆んど皆無といふべき状態であり、優柔不斷で、干渉好きなハレックが、一八六四年、グラント將軍が最高指揮權を強要して、その手に掌握するまで、參謀總長（職名は陸軍總司令官）の要職に嚙りついてゐた、あの南北戦争當時に。——その恐るべき混亂ぶりを、世界大戦に臨んだ、その當時の實情に比較してみたらどうか？ 仕事の擔當者は、殆んど最初から發見され、非常に圓滑にその任務を遂行したので、國民はつひにその重要任務に氣づかないほどであつた。それといふのも、たゞ何等非難すべき點がなかつたからなのだ。ゴータルス將軍の意見によれば、——かれは、なかなか點の辛い人間であるが、——勝利を齎らすに與かつて力あつたマーチ將軍の功績は、決してそれに相當する名譽を博する時がないであらう。それは、將軍の任務は、華やかなライムライトの圏外にあつたからだ。

そのマーチ將軍が、ゴータルスをどう思つてゐたかは、同僚のゴータルスが永眠したとき、未亡人に送つた弔電にいみじくも表現されてゐる。

「わが友人にして、大戦ちうわが右腕たりし、御主人の御訃音に接し、驚愕措く能はず。將軍は偉大なる技術者、偉大なる軍人にして、世界大戦に各國の生みいだせるうち、最大の兵站總監なりき。」

ゴータルスは、アメリカ參戰の全期間を通じて、絶えず、折あらばフランスにいかうとしてゐた。一九一

八年の四月八日に、工兵中佐として西部戦線に出征した令息ジョージ宛の手紙に、かれはかう認めた。「兵站部の任務が終つたなら、兵員の船舶輸送業務を整備してから、そちらへゆく機會を得たいと思つてゐた。が、全部局の購買業務を監督せねばならぬとすると、戦線行の希望は薄らがるを得ない。」

ゴータルスは、自分の後任として一人の人を選んだ。それはアール・イー・ウッドである。かれは、パナマ地峡では補給局長として、非常商船隊會社では購買主任として、將軍の下で働らいた人間であり、當時（一九一八年四月末）、陸軍長官に隨行してフランス戦線から歸國したばかりのところ、近く肩章に、新らしいピカピカした星が殖えることになつてゐた。「マーチから、かれを准將に進級させる旨申し越した。」ゴータルスは、ジョージに知らせてやつた。「私はその事實を知らなかつたが、後に確認を経るまで、私宛に發令になつて、それを本人に傳達するのだとは信じられなかつた。戦地における後方勤務の状態に關するウッドの報告は、非常な樂觀を許さざるものだつたので、どこまでもこの任務を遂行していきたいといふ希望が、一層強くなつた。」

ゴータルスは、下院委員會の證言で説明してゐる。

「ウッド將軍は、私の輔佐官として、兵站部に就任しました。それで、私は至極圓滿に任務を譲り、購買貯藏運輸部の方の任務に専念しました。この任務に當りつゝ、兵站部全體に對する監督權はそのまゝでありましたから、私は、事實上、全期間を通じて、兵站部の實權を握つてゐたわけであり、兵站總監たる任務を

購買貯蔵運輸部の任務に合併したのであります。」

ゴータルスは、さらに参謀次長を兼任してゐた事實を述べることを省略した。かれのこの方面における功績は、最高の軍事的重要性をもつものであるが、六月にジョージにいつてやつたやうに、「そちらの戦線の、私が適任だと信ずる、役に立つ仕事ができることを承知してゐるとき、デスク・ワークは好みに合はない。」のであつた。

好みといふのは土木工事であり、この老運河工事従業員は、手を貸したくてムヅムヅしてゐたのだ。「月曜日にウィリアムソンが訪ねてきて、近々海外に派遣される豫定になつてゐる、工兵聯隊の中佐に任官するつもりだと語つた。身體検査がちよつと疑問だが、輕微な缺點なら問題にならないだらうといつてゐた。その子息のリーは、同じ聯隊の少尉に任官してゐる。この聯隊の任務は鐵道關係の仕事だ。もし、マーチが私のために考へてゐてくれる仕事のために、そちらへ出掛けることになれば、勿論、ウィリアムソンを私のところへ派遣して貰ふつもりだ。」

話はそれつきりになつて、一ヶ月経つたが、七月末に、「實際上、私は要らないといふ意味の知らせが、パーシングからきた。明白に私の名はあげてないが、多分長官が手紙でいつてやつたのだらうと思ふ。とにかく、これは大きな激しい失望だ。が、微苦笑して、我慢するほか仕方がない。マーチがいふやうに、これからでもゆくやうになるとすれば、いつ何時でも出發できるやうに、すつかり準備ができてゐる。」

けれども、さうはならなかつた。

ゴータルスは、次男のトムに消息に接したので、同じく出征ちうの、ジョージの許に知らせてやつた。ドイツ軍の四月攻勢に多數の負傷者がでたので、トムは今、英國派遣軍第五基地病院の同僚たちとともに、激務に忙殺されてゐるのであつた。その後、トムはカナダ軍に勤務し、最後にアメリカ派遣軍勤務になつた。八月に、陸軍醫務局の少佐がフランス戦線から歸還して、直接に本人の動靜を傳へてくれた。「その人は、トムはもつとも軍人らしい軍人だといつてくれた。あれがもし、このオークリー軍醫少佐以上にやれるとしたら、それこそ相當なものだ。といふのは、オークリー軍醫は、私が部屋にはいつていつたとき、部屋をでるときは、擧手の禮をし、話ちうは靴の踵をキチンとくつつけて、直立不動の姿勢をとつてゐるといふわけで、それにはいさゝか面喰はされたからだ。」

十月の末に、「きのふゴータルスが訪ねてきて、ツール戦區のカッシングの病院に勤務ちうの、トムに會つた話をしてくれた。コールが傳へてくれた御身の勤務地とトムのあるところは、そんなに離れてはゐないだらう。そのうち、偶然會ふときがあるかもしれない。」

戦線の兄弟が、つひに相會ふ日 came。二人を會はせてくれたのは、護國軍第一軍の經理部長ジョージ・リューパーロフ大佐である。この人は、古い歴史をもつた護國軍の長期服役下士出身の異材で、アメリカの参戰當時は、一給養軍曹に過ぎなかつたのが、實力ひとつで伸し上げ、アメリカ史上空前の大部隊である、第

一軍の經理部長に昇任させられた人物である。

一九一八年の十月一日、デュー・ヌーの新編第六移動野戦病院隊副官を勤めてゐた、トム・ゴータルスに出會つたのは、この將校であつた。リューバロフ大佐は、早速ジョージにその旨を知らせてやつた。ジョージは、そこから僅か十五キロのスイイーにある、第一軍司令部の砲兵監の幕僚を勤めてゐた。その知らせを受けたかれは、非常に驚ろいた。弟はまだ、英國派遣軍についてゐるものとはかり思つてゐたからだ。で、翌る日早速自動車を都合し、デュー・ヌーへ飛ばして、弟に會つた。トムの野戦病院は、その後間もなく、アルゴンヌ戦の進行うちに、ヴァランヌ、シュビー間に開設され、休戦條約の直後まで診療が續けられた。

「どうも、船舶輸送が思はしくいかない。」十月二十七日の手紙で、ゴータルスが續けていつてゐる。「パッシングから、最小限度の要求だといつてよこした分量を輸送するだけの船腹も得られない。軍需品の輸送状態はいよいよ悪化してゐる際だが、われわれは兵員の輸送を急いでゐる。兵站部は、船舶局の見込に基づいて、來年七月までに八十ヶ師團を輸送する計畫を樹てたが、この機關はすこぶる慘憺たるていたらくに陥り、現在の缺陷をそのまゝにしておいたのでは、毎月の豫定量の建造を遂行するに足る、刺戟を受ける機會がなさうに思はれる。一朝輸送體制の全面的崩壊に直面することがあるとしても、敢て異とするに足りな

5。1

ゴータルスは、船舶局は、休戦のベルのお蔭で救はれたのだと評してゐる。十一月十日附の手紙には、かう述べてゐる。「戦争が繼續するとすれば、兵員の輸送数を、輸送の可能な範圍に減少せねばならなかつたであらう。船舶局は手のつけられぬ状態に陥つてゐたのだ。」

ゴータルスは、自分が作り上げた組織の、平時における效用を念頭におきつゝ、戦争の最後の瞬間にいたるまで、致々として、その細部の仕上げに打ち込んでゐた。「われわれは、一日に工兵の購買業務を接收した。」十一月三日の手紙である。「五日には通信兵團、十五日には醫務局、三十日には兵器局を、それぞれ接收することについてゐる。大戦が終結したら、再編制された軍のなかに、補給と經理の二部門に分れた、補給部を設置することを希望してゐる。私は、面倒臭い資産管理責任を改正しようと思つて、いろいろやつてゐる。」

けれども、情性と先例が有力に支配してゐたために、ゴータルスの理想である補給部は、つひに實現をみなかつた。兵站部を再組織し、購買貯藏運輸部を組織して、これを有効に運用した功績に對して、將軍は殊勳章を授與された。同時に、フランスからはレジョン・ドノール勳章を授與され、英國皇帝ジョージ五世は、將軍を名譽ナイト爵に叙して、セント・マイケル、セント・ジョージ最高勳章を授與し、中華民國政府は二等文虎大綬章を授與した。

「西部戦線異状なし」にでゝくる典型的なドイツ兵が、アメリカ軍の戦線の方を眺めて、「あそこをや、

コーン・ビーフがあり餘るほどある。小麦のパンがあり餘つてゐる。」といったのは、ゴータルスに對して、皇帝や共和國から授けられた、どんな名譽にもまさる偉大な名譽を捧げたものである。また「ニューヨーク・サン」紙の煙草基金によつて戦地に贈られた、二億圓の煙草のひとつを貰つたアメリカ兵は、みなかれに特別な感謝をしなければならぬ。同紙の一九一九年七月一日の社説に、かういつてゐる。「船腹不足がその極に達し、殆んど絶對的に、貨物積載の餘地を得られなかつた當時、「サン」煙草基金による積荷が、幾噸も幾噸も、毎週々々、そして毎月々々、間断なく大西洋を渡つていけたのは、船舶輸送部長ジョージ・ダブリュー・ゴータルス少將のお蔭である。」

その年の三月一日、ベイカー陸軍長官から、手紙でゴータルス將軍にかういつてきた。「閣下が、今日をもつて現役を退かるゝに當り、戦時ちう國家に盡された閣下の御功勞に對する、私の深厚なる謝意を閣下の許にいたし、閣下の記録に残したいと思ひます。大戦の必要に應ずるため、急激に平時の必要より擴張された、政府補給機關の廣汎複雑なる業務は、最高の才能と至深の熱誠を要求してをりました。閣下が現役に復されたとき、その兩者を兼ね備へて事に當られました。閣下の任務の御成功は顯著なるものあり、この大戦の歴史が綴られる時期がくれば、アメリカの勝利に對する閣下の御貢獻が、特筆大書さるべきことを信じて疑ひません。」

私がいだかされてきた、個人的な安全感と自信の念に對しては、個人的な謝意を表するものであります。

公式には、閣下の御功勞に對して、省及び政府の謝意を表する次第であります。」

それから二年と三日の後、ベイカー氏はかういふ言葉を附け加へた。「陸軍省との公式の關係を終るに際し、大戦ちう閣下が國家のために盡された御功勞に對して、私の深厚なる謝意を表し、感謝の辭を、高級副官に命じて、閣下の武官としての記録の一部に残したいと思ひます。閣下は、他のすべての軍人と同様、勿論戦地勤務を望まれたことでありませうが、内地において提起され諸問題にも、同様の重要性和困難がありました。そして閣下は、極めて重大なる時期に、陸軍省に就任されたのであります。閣下の補給業務の御成功は、主として閣下の優秀なる御手腕と、任務に對する御熱誠との賜であります。こゝに私は、個人的謝意とともに、公式の謝意を表する次第であります。」

第十七章 死の床の顧問技師

これは、上院議員ウォーター・イー・エッチの手記である。

「一九一七年一月、私のニュー・ジャージー州知事就任式が舉行されたとき、州民に對する宣誓のなかに、デラウェア河の橋梁架設、ハドソン河底の車道トンネルの開鑿、及び、當時の制度である、郡の所管に代るべき州道制度に必要な立法及び豫算の準備をなすといふ項目があつた。

その當時、普通に各郡役所が實施してゐた請負契約の方法、及び硬路面公路を構築させる方法に對して、相當の非難が起つてゐた。州全體に亘る制度を州において樹立するといふ案は、一般の承認するところであつたが、同時に、少額の州税から支出することになつてゐた、約一千五百萬ドルの經費に關して、多少の疑惑と不信の念が存してゐた。この豫算額は、州知事に當選する以前、州上院議員當時に私から提出したものである。

私は、この非常に巨額な經費に絡む、さうした不安定な感情を一掃する途は、だれにも納得のいく、聲名

の高い技術者を招聘する以外にないと考へた。私は、當時ワシントンにをられたゴータルス將軍と、電話で會見の約束をしたことをはつきり記憶してゐる。電話では、會見の用向はいはなかつた。私は、單身ワシントンに出掛けていつて、將軍と會見し、陸海軍俱樂部で一緒に夕飯を攝つた。それから、夜まで懇談を續け、新設する豫定になつてゐる、州技師の地位に就いて貰ひたいといふ希望を披瀝した。

年俸は二萬ドルださうといつた。これは知事の年俸の倍であり、ニュー・ジャージーのどんな官公吏も、足下にも及ばない最高給である。さういふ決定を行ふ立法的権限が自分にあるといふことは、さう確實なことではなかつたが、ニュー・ジャージーには、知事と、州財政部長と、州會計検査部長をもつて構成する、州廳委員會の決議によつて使用し得る回轉基金が、ずつと以前から設定してあるので、ゴータルス將軍の受諾を得て、まづ州道建設に當つて貰ひ、續いて、豫定のトンネルと架橋工事に當つて貰へるとすれば、俸給の問題乃至その出どころに對して、非常にムキになつて異議を唱へたり、非難したりするものは、決してあるまいと思つた。

ゴータルスはその問題を熟考し、數時間後に、電報であつたか電話であつたかは忘れたが、承諾の回答をしてきたことを記憶してゐる。ニュー・ジャージーでのかれの仕事の手始めは、コンクリート州道工事の仕様書を作成することであつた。その仕様書は、公開的な自由競争といふ條件の下においてのみ、特許材料の使用を許すといふ趣旨であつた。それに對しては相當の非難が起つたが、私は全然かれの意見に賛成であ

り、仕様書はそのまま承認された。」

將軍が、正式に州技師就任を承諾してから二週間経たぬうちに、トレントンの州道委員会で協議を行つてゐるとき、四月十一日附（一九一七年）のウィルソン大統領からの書翰を受取つた。それは、ワシントンにきて、船舶局の仕事をやつて貰ひたいといふ依頼状であつた。將軍は、ワシントンに着いた翌日、パナマ運河でもつとも信頼してゐた部下の一人で、ニュー・ジャージー道路局の組織に當ることを約束してゐた、ダブリュー・ジー・ビー・トンブソンに電報を打つて、ワシントンへ報告をよこすやうにいつてやつた。

トンブソンは、四月十七日火曜日に報告を送つてよこしたが、ゴータルスはその日、非常商船隊会社の組織を仕上げようと努力してゐた。その助手は、將軍がすでに、マンシー・ビルディングの事務所を立て籠つて、猛烈に働らいてゐるのを發見した。「將軍は、議會委員會の開會前の朝のうちいつばいを、木造船計畫關係の仕事に費やした。」と、トンブソンは書いてゐる。「私に、ニュー・ジャージーにいつて仕事に當るやういひ渡されたとき、將軍は、いつもの特徴的な態度で、『よろしい、——むかうへいつて、仕事をはじめたまへ！』といはれた。」

それが、ゴータルスのやり口である。——有能な人間に自由手腕を揮はせて、その結果に對して責任をもたせるのだ。

ところで、將軍自身の方は、非常商船隊の建造といふ仕事は、ニュー・ジャージーの道路建設に費やす時

間の餘裕を、殆んど、或ひは全然與へないことを、間もなく發見した。そこで、エッチ知事に對して、この際全然解任されんことを申出た。が、話合ひの結果、ゴータルスは、ニュー・ジャージーの仕事に當ることのできた日だけ、俸給を貰ふといふ取極めができた。州道は、すべてコンクリートで構築すべしといふのがその主張で、まづ全州を通ずる道路計畫圖を引いた。かれの道路建設に關する意見は、一九一九年、ニュー・ジャージー州グロスター郡ピットマン町會の一議員から提出された、資料請求に對する回答に整然と述べられてゐる。

「わが國の道路は、戦時運輸の重壓の下に、はなはだしい破損を來した。然るに、歸朝者の談によれば、フランスの道路は、驚ろくべきほど優秀な状態を維持してゐることがわかる。前者は、最初から堅牢な道路を造らず、適當な監督を缺いたためであり、完成後修理を怠つた結果である。フランスの碎石道路は、基礎が堅固であること、路面に對する不斷の注意によつて、四季を通じて、もつとも優良な状態に維持されてゐた結果、あらゆる種類の運輸交通に堪へてきた。フランスにおける一層新式な道路構築法は、重量あるコンクリートを基礎とし、接ぎ目の非常に優秀な、木塊で路面を鋪裝する方法をとつてゐる。わが國では、問題を組織的に研究し、フランスの道路の教へる教訓に従ふ氣になるまでは、フランス式の道路工事を實施しないであらう。ニュー・ジャージーの道路に對しては、私は熱心にコンクリートを主張してきた。反對論者は、コンクリート道路は龜裂を生ずる、コンクリートちうの砂利や礫が飛びだす、そして、やがて路面がデコボ

ロになつてしまふといふだらう。さういふ段階がきたときには、その上からアスファルト舗装を行へば、第一級の道路になる。そして、不斷の注意と修理を怠らなければ無限に保つ。碎石道路の難點は、それを無視した結果、適当な基礎を缺ける點に存し、その結果、比較的短期間しか保たないといふことである。」

エッチ知事は、ゴータルスが兵站總監代理として、ワシントンに赴任して間もない、その年の十二月二十七日に、將軍宛にかういふ手紙を送つた。

「ゴータルス將軍が、顧問の資格の範圍において、工事に氣をつけてゐてくれることを言明し得ることは、われわれにとつて非常な價値があります。私は州道委員會に對しても、特に、閣下が部分的に工事關係から引退されたのだといふ事實に鑑み、新たに州技師を任命せざるべきこと、及び、トンブソン氏を、引續き道路技師として留任せしむべきことを言明しました。……それは、かれは閣下の御意見を代表するものと見做されるからであり、閣下が、少なくともこの程度に工事に關係をもつて下さることは、州道制度の成功に極めて重要だからであります。」

ゴータルスが、一九一七年七月、失意の裡にワシントンを去つたとき、「だから、道路建設工事、その他、成行き次第で、どんな仕事にでも従事するつもりである。」と、ジョージに心境を傳へてやつた。それから、殆んど間をおかず、二つの新しい仕事が出来た。そのひとつは、ライト・マーチン飛行機製造會社の社長になつて貰ひたいといふ交渉であつた。この會社は發動機と飛行機の製造をやつてゐたが、發展が抄々しく

なかつたのだ。將軍は自由手腕を揮はせて貰ひたいと主張した。それが承認されたので、社長に就任し、ふたゝびワシントンの新任務に赴くまでの五ヶ月間に、完全に業績を建て直し、生産量を激増させた。

もうひとつの新らしい仕事は、ニュー・ジャージーの州技師としてやつてゐた仕事に、非常に密接な關係ある仕事であつた。一九一七年八月二日、ニューヨーク州知事の任命した三人の委員が、同じくニュー・ジャージー州知事任命の、他の三人の委員と同じテーブルで協議を開き、この六人をもつて、ニューヨーク、ニュー・ジャージー港灣擴張委員會を組織した。これは、自然に背いて、自然の一大良港を二分する想像的劃線を挟んで鬭はされた、二世紀半に亙る論争の幸福な結末であつた。——その政治、經濟的鬭争は、一九一六年に極點に達して、有名な「ニューヨーク港事件」を展開した。この争ひは、兩岸の新聞と民間團體との間に應酬される、痛烈な非難と殘忍な嘲笑をもつて、殺氣滿々火蓋を切つたが、州際商業委員會が、從來の關稅收入の状態を惡化せしめることを非として、左の判定を下したとき、承認の同一歩調をとつて、和氣藹々の裡に結末を告げたのであつた。

「ニューヨーク港の大終點を、實際上一ヶ所に統一すること、多年終點擴張の建設的計畫の抜き難き障害であつた、個々の運輸機關の個別的利益は公共の利益によつて規制されるべきことが必要である。ニューヨークと、ニュー・ジャージー州北部の工業地域とは、歴史的、地理的、經濟的に、單一の共同體を構成するものである。」

この判定が下る前に、ニューヨーク州の法律顧問は、この懸案の包蔵する問題の重大性と複雑性を強調して、「本件の最終的解決には、パナマ運河の設計を作つたやうな、大技術者の建設的精神を要するだらう。」と、豫言的な感想を述べた。合同港灣擴張委員會は、そもそも最初の會議において、ゴータルスをその主任顧問技師に選んだ。

一九一七年の残る五ヶ月間、かれは全力をあげて、港灣の無數の細目事項と、こみいつた問題の研究に打ち込んだ。そして、工事の準備に要する時間と經費の見積りを作つた。かれは、委員會の會議には缺かさず出席し、委員たちは間もなく、あらゆる問題に關する眞理をゴータルスに求めるやうになつた。かうして得た、ニューヨーク港に關する知識が、ゴータルスが兵站總監代理に任ぜられた後、いかに國家のためになつたかは、先に物語つた。アメリカの世界大戦への參戰は、やがて、ニューヨーク港の統一を軍事的必要と化した。多數の廣大な鐵道終點には、なんの調整も行はれてゐないし、多數の埠頭、倉庫、曳船、列車航送船、舟等には、なんの統制もない。軍隊と軍需品は續々送り込まれ、積み重ねられるので、複雑な全機構はそれを消化し切れず、しばしば押し潰されてしまひさうな危機に瀕した。諮問機關に過ぎぬ港灣委員會は、ニューヨーク港戰時委員會を新設させるに成功した。初代の委員長はマカドゥー財務長官で、その次が船舶局長のハリリーであつたが、この委員會は、聯邦鐵道管理局と、陸軍の購買貯藏運輸部長たるゴータルスと密接な協調を保つて活動し、港務の組織化と統制、混亂と輻輳の緩和調整に全力を盡した。その結果、ニューヨーク

ク港は最後に、兵員、軍需品のいづれにおいても、割當以上の對歐輸送を實行し得るにいたつた。

ゴータルスは、一九一九年に最後に陸軍を退くと、「今は有名になつてゐる、綜合計畫を確立する仕事に着手した。この綜合計畫といふのは、尨大な資料の蒐集、選別、比較と、鐵道、汽船、その他の運輸機關、特に船荷主、造船業者、議員との間に、頻々と長期に亙る會談をせねばならぬ仕事である。

綜合計畫の骨子は、一切の部分相互間を直通せしめる、多數の連絡線を敷設することによつて、港區に集まる鐵道の機能一切を、完全に調整せんとするにある。この計畫は、三州に跨がる地域の、商業的意味の統一を目論み、また明らかに巨額の經費を要する事業なので、利己的な、偏見に捉はれた、怯懦な分子から積極的な反對を受けたにもかゝらず、綜合計畫は、當然ニューヨーク、ニュー・ジャージー兩州の採用するところとなり、兩州の間に協定が結ばれた。そして、聯邦議會の承認によつて計畫の實施に當る、ニューヨーク港務局が創設された。

港務局の管轄區域は、約八百平方マイルの水面を含む、約千五百平方マイルの廣表に亙り、三百に近い市町村と、約九百萬の人口を包含してゐる。これこそ、世界ちうでもつとも高度に發達せる商工業地域である。綜合計畫を實現する、各個の計畫ひとつひとつが立派な大事業であつた。港務局が最初に實施した事業のひとつは、ニュー・ジャージー州内のハドソン河岸に沿ふ、延長十七マイル半の、周廻連絡線第十三號の實現であり、これによつて、ニューヨーク港のこの區域の鐵道終點を連絡した。ゴータルス將軍は、この計畫を

完成させるために、致々として精勵された。^(註)

(註) ニューヨーク港務局書記、ウィリアム・ジェー・ヴァンス氏の起草せる、ゴータルス將軍の功勞回顧録(一九二八年二月十八日)

それは、技術の勝利ではない。十七マイル半の鐵道は、すでに世に存在してゐるからだ。技術の勝利ではなくて、實に外交の勝利であつたのだ。それは、その所有權が、互ひに排他的な經營方針をとる、四つの獨立した鐵道會社に分屬してゐたからである。ゴータルスは、その四鐵道會社を説得して、各社の線路を、單一經營制の下に、周廻連絡線第十三號に統合させることによつて、信じ難いほど莫大な量の無駄と不便を排除したので。

キュレブラ^{カト}切割からバラ土を搬び出すやうに、ニューヨーク港が莫大な量の貨物を吞吐する機能上問題になるのは、主として鐵道關係である。可航水域、乃至容易に可航水域となし得る水域は、港區の殆んどあらゆる部分に通じてゐるが、多量の貨車積みの亞麻仁油は、今なほロビン・フッドの厩^{倉庫}を廻り歩かねばならなかつた。そこで、鐵道終點施設の徹底的な再組織計畫が、ゴータルスの指導する、大人數の有力な技術者の機關によつて立案された。この大規模な計畫は、「左の改良及び新規事業を必要とする。すなはち、ニューヨーク州内の現在の連絡線連鎖の共同使用、ニューヨークの可航水域に沿ひ、さらに後方の地域に互る他の連絡線の敷設、ブルックリン、クイーンズ、ステータン島及びブロンクス河に近接する可

航水域に沿ふ、同様の周廻鐵道線の敷設、これらの周廻鐵道線とロング・アイランド鐵道、及びニューヨーク連絡鐵道の利用による、ニューヨーク州連絡線系統の構成、最初は列車航送船により、最後には、アップー灣底を貫通するトンネルによる、ニューヨーク、ニューヨーク・ジャージー兩州の連絡線系統の連接、新鐵道終點施設を通じて行ふ、これら全線の共同運營である。……港區に集まる一切の鐵道を、港區のあらゆる部分に直通せしめ、それによつて、港區のあらゆる部分に對して發展の機會を與へ、その商工業の振興と發展に必要な、經濟的運輸機關を享有せしめんとするこの組織が、綜合計畫を構成してゐるのである。^(註)

(註) 港灣擴張委員會「綜合計畫に關する共同報告並に勸告」二頁(一九二〇年)

ヴァンスは、ゴータルス將軍の功勞回顧録で、さらにかう述べてゐる。「當時のニューヨーク市當局は、ステータン島とブルックリンを繋ぐ、車道と人道を併設したトンネル開鑿の猛運動を開始した。これは誤解に基づく運動であつたが、そのために綜合計畫は挫折の危機に逢着し、巨額の經費が空しく損失に歸しさうな形勢になつた。ゴータルス將軍は、この運動を叩き潰す反對資料を、大部分自分で作り上げ、その反對論を自らニューヨーク州議會に提出した。その結果、ニューヨーク市に對して、右の計畫の續行を禁ずる法令が制定された。

港務局が、兩州から架設の命令を受けた四大橋は、極度にゴータルス將軍の時間とエネルギーを要求した。ニューヨーク・ジャージー州とステータン島とを二ヶ所で繋ぐ、アーサー入江の二橋の、最初の見積りができた

き以來、マンハッタンからリー要塞にいたる、ハドソン河を横切る巨大な橋梁の確定設計が承認を受け、ベ
イヨンヌリッチモンド港(ヴァン・カル入江)橋の設計が、最終的な形をとりつゝあるときにいたるまで、
不斷にかれの才能と助力が要求された。

この四大橋のうち、ゴータルスは、北部の、アーサー入江に架けた鐵とコンクリートの二大橋に、もつと
も熱心に力をいれた。——このニューワークとラリタン灣を繋ぐ、一條の狭い鹹水の水路は、地圖にこそ大く
きでゝゐないが、その運搬する貨物量はミシシッピー河以上である。

將軍が永眠して數週間後の一九二八年三月十二日に、次の決議が提出され、満場一致で可決された。

「故人が極めて忠實、有能に奉仕を捧げたる、ニューヨーク港區の境域内に、この偉大なる技術者の記念
物を設定し、これが維持をなすことは、特に適切なる學なるをもつて、こゝに、ニュー・ジャージー州エリ
ザベスより、ニューヨーク州ステーション島ハウランド岬にいたる橋梁を、ゴータルス橋と命名し、ニューヨ
ーク港務局の一切の公式報告及び通信文書に、かく呼稱すべきことを決議す。」

内廻り線、外廻り線、臨港線の、錯綜する連絡線系統を綜合した綜合計畫は、豫想される運輸量増加率に
對應して、一九七〇年にいたるまでの、港區の運輸を調整することを目標に立案されたものである。そして、
港務局はその期間ちうの適當な時期に、アップー灣の底を貫通する、長い鐵道トンネルの開鑿計畫を決定す
べきことになつてゐるので、ゴータルスの、コンクリート・ブロック・トンネル案を研究しておくことは有

意義であらう。一九一七年、かれがコンサルティング・エンジニアを開業してから間もなく、當時ニュー・ジ
ャージー、ニューヨーク隧道委員會の議に上つてゐた、二つの型式の車道トンネルに關して、ニュー・ジャ
ージー隧道橋梁委員會から意見を求められた。その一方の案は、ハドソン河の底を貫通する、現在のベンシ
ルヴァニア鐵道のトンネルと同一の方法により、徑十八フィートの單車道トンネルを二線掘鑿しようといふ案
であり、もう一方は、デトロイト河の底を横斷する、ミシガン中央トンネルと同一の様式をとり、二線の單車
道トンネルの各部分を河岸で建造し、これを河上に搬び出して、所定の位置に沈設するといふ方法であつた。
この兩案の優劣の決定を求められたゴータルスは、兩案とも不合格にした。そして、その代りに、ジョン・
エフ・オラーク創案の、コンクリート・ブロックのトンネルを推奨した。オラークといふのは現業の土木請
負業者で、ハドソン河とイースト河の河底鐵道トンネル建設工事にかけては、當時他に並ぶものなき豊富な
經驗をもつてゐた。同様の考へをもつてゐたゴータルスは、すでにこのオラークが、各々自動車三臺が並行
し得る幅員の、上下二段式の車道二線を備へた、徑三十六フィートのトンネルの設計を作成ちうであること
を知つた。この大トンネル工事は、鑄鋼や鑄鐵の環でなく、既製のコンクリート・ブロックを使用し、さら
に、當時オラークが特許出願ちうであつた、標準的トンネル鐵柱ピラーの改良型を使用する計畫であつた。ゴータ
ルスは、できるだけ廣汎に互つて問題を研究した後、經三十六フィートのコンクリート・ブロック・トンネ
ル案の採用を勧告した。

この勧告によつて捲き起された、長期に亙る不快な論争の渦中に躍る人物や、政治的策動については、本書に述べる価値はない。ゴータルスがいかにその反対論と戦つたかは、一九一九年の三、四、五月のかれ自身の手紙に、剩すところなく語られてゐる。――

「私は、自分のトンネル案のために戦つてきた。が、それが實現するかどうかは、見込みが立たない。議會はうまく通過すると思ふ。それから様式の問題が起り、そこで、實際の困難が持ち上がるだらう。技師連は、無論その案に反対である。橋梁技師は、私が橋梁案を主張しなかつたからといつて反対する。――掘鑿式トンネル構築法を散々にやつつたので、その方面からの反対がでる。専門のトンネル技師連は、私が二線案を一線に改めたので、従来に例をみない大ききさだといひ、コンクリート枠は新奇な方法だといふ理由で反対する。そこへ、政治的策動がこんがらがってくる。かういふ形勢だから、こちらの負けだらうと思ふ。こちらは、全然さういふ手段は弄さないつもりだから。」

それから三週間後の手紙には、かういつてゐる。「技師連が、経験を経てゐない考案を要する、不適當な案として、私の案を葬り去つたといふ新聞記事を見た。『構造上缺陷あり』といふ報告がでる筈だと聞いてゐたが、明白にさういふ理由をあげてゐるのかどうかは判明しない。これから、その報告を一部貫ひにいつて、そのまま歸つてくるつもりだ。……新聞の報道によると、報告書には、コンクリートは、ハドソン河の沈泥には適當な材料でないこと、私の案では、トンネルに加へられる荷重に堪へ得まい、この構築法は新ら

しい、経験を経てゐない考案を必要とするとは非難してゐる。これらはみな重要な點である。規模が大き過ぎるとか通風装置が高い等々の、他の部分の非難などは、全然問題にしてゐない。この問題に關する公聽會が開かれる豫定になつてゐる。……明晩は、土木、建設關係の事項が審議されることになつてをり、私も一役買つてでるつもりである。結果といふ點からだけいへば、時間の浪費に過ぎないが、私はその發表を不問に附するわけにはいかない。……勿論、こちらは守勢の立場にあるわけで、コンクリート・トンネルが外部よりの荷重に堪へない、といふ主張の根據をなす、かれらの計算なり分析なりがわからないうちは、どうにもしやうがない。話は變るが、近ごろ、現在まだ残つてゐる煉瓦トンネル――現に、マカドゥー・トンネルの一部をなしてゐる――の構造を研究してゐる。これには、材料の性質と作用の兩方に關して、教へられるところが多い。垂直長徑の、長楕圓形の煉瓦トンネルが荷重に堪へるとすれば、コンクリートの圓形環が堪へ得ることは間違ひない。」

四月の手紙には、その後の消息を傳へてゐる。「トンネル問題に關する會議が、火曜日オルバニーで開かれ、私も招請を受けたが、出席を斷はつた。論争は個人的な争ひに墮してしまつたので、さういふ性質の事柄に首を突込むことは、私の屑しとしないところだ。コンクリート・ブロックに適用したかれらの數學は、全部間違つてをり、かつ、それが私の唯一の興味乃至關心であつたものだから、もう興味はなくなつてしまつた。今となつては、どう考へてみても、この仕事を續けていかうといふ氣がしない。……スウィート委員

長に手紙をだして、私は、鑄鐵管よりも強く、浮動の惧れの少ない、私の提案を護ること以外に興味をもつてゐない、論争はすでに、無意味な個人的な調子を帯びてきてゐるので、さういふ論争に耽ることを好まなう、で、問題はこゝまゝにして、打切るつもりだといつてやつた。」

反對を唱へた技師たちは、徑十八乃至二十フィート以上のトンネルは構築できないといふ主張から出發したのであるが、この問題を繞る、數年に互る論争の結果到達した結論の殆んど一切が、われらをして止むを得ず、現在構築されてゐる通り、二線の徑二十九フィートのトンネル案を勧告することによつて、論争を閉ぢねばならなくした。この、鑄鐵環を用ひた二線のトンネルは、今日の「ホランド車道トンネル」である。その工費見積りは二千九百萬ドルであつた。二十九フィート・トンネル二線を合はせたより容積の大きい、ゴータルスのトンネルの見積り工費は二千四百萬ドルであつた。現在できてゐるホランド車道トンネルは、總工費四千九百萬ドルを要した。その後の出來事は、こゝに物語る必要はないが、他の數線における現實の施工によつて、ゴータルスのトンネル設計の健全性を立證した。反對論者側の犯した、土木工學上の計算と結論における誤謬に對する、將軍の徹底的な分析と暴露とは、今日にいたるまで、應答されぬまゝになつてゐる。

コンサルティング・エンジニアとしての、ゴータルスの十年間における活動は、單に量からだけいつても、實に驚ろくべきものがある。各種の事業に關する、タイプライターで打つたその報告書は、大きな鋼鐵製の書類算笥の、四つの抽斗にギッシリ詰まつてゐた。多少とも詳しい話ができるのは、そのうちに小部分にし

か過ぎない。——全部の仕事をいぢぢあけるとしたら、船舶カタログ以上のものができてしまふだらう。

世界大戰がまだ續いてゐるころ、ニューヨークのジョージ・ダブリュー・ゴータルス會社は、ニューヨークの内國港灣航行運河の顧問技師を引受けてゐた。延長五マイル三分の一のこの水路は、現在ミシシッピ河とポンチャートレン湖を繋いでゐる。この地點における河水面は、普通湖水面より高かつた。ところが、その河水の水位が最低位にある時季には、同時に、南東の強風のために、河水がリゴレッツ河を通じて、閘門の北の運河の水渠に流入させられるので、その期間、二階が階下に入り換はるのであつた。私の知つてゐる限りでは、これが、兩端とも高水位のプールになつてゐる、世界唯一の閘門である。これは、閘扉と開閉装置の設計に當つて、考慮せねばならなかつた特殊條件である。研究の結果、パナマと同じ電気開閉装置を用ひることに決定し、工事擔當者は、殆んど大部分パナマ地峽の有能なヴェテランをもつて組織された。ジョージ・エム・ウエルズは精巧な閘門の設計を、ヘンリー・ゴルドマークは開閉扉の設計を作り、フランスから凱旋後現役を退いた、令息のジョージ・アール・ゴータルス大佐は、常駐技師として會社を代表してゐた。

控架を取付けた、比較的薄い岸壁を、船の舷を龍骨に接合するやうな具合に接合する、巨大なコンクリートの渠底は、交互に重なり合つた粘土と流砂の層に打ち込んだ、無数の杵をもつて支へておかねばならなかつた。この渠底を造るには、掘鑿した穴の水を乾して、コンクリートを流し込むわけであるが、底から流砂